平成 31 年度　　令和 2 年度

業務報告／業務計画

（第 64 号）

八戸市農業経営振興センター

表紙写真解説　～ねぎ～

青森県は全国でも代表的な長ねぎ産地であり、八戸地域においても７月上旬からの早出し出荷に始まり、12 月上旬頃まで収穫が続く。

当センターでは、７月から 10 月にかけての作型別適応品種の比較調査や、７月早出し出荷におけるリン酸肥料減肥技術に関する調査を実施している。

目　次

第 1 施設の概要及び機構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第 2 業務報告
2-1 気象 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
2-2 調査成績（施設野菜）
No. 1 種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続 H29～31）・・・・・・・・・・ 8
No. 2 夏秋どりいちごの品種比較調査（新規 H31～R2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
No. 3 ほうれんそうの寒締め栽培における品種比較調査（継続 H30～31）・・・・・・・・・・・ 17
No. 4 冬期間の施設利用によるこまつなの品種比較調査（新規 H31）・・・・・・・・・・・・・ 19
No. 5 トマトの促成栽培における品種比較調査（新規 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
No. 6 トマトの抑制栽培における品種比較調査（新規 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
No. 7 ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（新規 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・ 28
No. 8 ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・ 31
No. 9 ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（新規 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・ 35
2-3 調査成績（露地野菜）
No. 1 ねぎの品種比較調査（継続 H29～31）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
No. 2 ねぎのリン酸減肥技術品種比較調査（継続 H30～31）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
No. 3 ピーマンの品種比較調査（継続 H30～31）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
No. 4 ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別終了調査（新規 H31～R2）・・・・・・・・・・ 59
No. 5 ながいも系統「園試系 23 号」の品種特性調査（継続 H30～31）・・・・・・・・・・・ 62
No. 6 にんにくの種子植付時期比較調査（新規 H31～R2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
2-4 調査成績（花き）
No. 1 トルコギキョウの品種比較調査（7～8 月出荷）（継続 H30～31）・・・・・・・・・・・ 69
No. 2 カンパニュラの品種比較調査（5 月出荷）（継続 H30～31）・・・・・・・・・・・・・ 72
No. 3 シネンシス系デルフィニウムの栽培調査（継続 H30～31）　・・・・・・・・・・・・・ 75
No. 4 ディスバッドマムの品種比較調査（11 月出荷）（継続 H30～31）・・・・・・・・・・・・ 78
No.5 ディスバッドマムの品種比較調査（8 月出荷）（新規 H31～R2）・・・・・・・・・・・ 82
2-5 調査成績（耕畜連携推進事業パートナー制度）
ながいも栽培における堆肥の施用効果の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
2-6 土壌分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
2-7 植物組織培養 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
2-8 市民農園設置事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
2-9 農業体験学習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 96
2-10 農業講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 97
2-11 家庭菜園講習会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98
2-12 施設利用実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 98

第 3 業務計画

3-1 調査計画（施設野菜）

No. 1 種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続 H29～R2）・・・・・・・・・・ 99

No. 2 夏秋どりいちごの品種比較調査(継続 H31～R2)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100

No. 3 ほうれんそうの寒締め栽培における品種比較調査（新規 R2～3）・・・・・・・・・・・・101

No. 4 トマトの促成栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・・102

No. 5 トマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規 R2～3）・・・・・・・・・・・・・・・・103

No. 6 トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・・・104

No. 7 ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・105

No. 8 ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・106

No. 9 ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（継続 H31～R3）・・・・・・・・・・・・・107

3-2 調査計画（露地野菜）

No. 1 ねぎの品種比較調査（新規 R2～4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・108

No. 2 ねぎのリン酸減肥技術品種比較調査(新規 R2～3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109

No. 3 ピーマンの品種比較調査(新規 R2～4)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110

No. 4 ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別収量調査（継続 H31～R2）・・・・・・・・・・・111

No. 5 ピーマン整枝方法別収量比較調査（新規 R2～4）・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・ 112

No. 6 にんにくの種子植付時期比較調査（継続 H31～R2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・113

3-3 調査計画（花き）

No. 1 トルコギキョウの品種比較調査（7～8 月出荷）（新規 R2～3）・・・・・・・・・・・・・ 114

No. 2 トルコギキョウの品種比較調査（9 月出荷）（新規 R2～3）・・・・・・・・・・・・・・・115

No. 3 カンパニュラの赤色 LED 電照技術調査（新規 R2～4）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 116

No. 4 ディスバッドマムの品種比較調査(8 月出荷)(継続 H31～R2)・・・・・・・・・・・・・ 117

3-4 調査計画（耕畜連携推進事業パートナー制度）

ながいも栽培における堆肥の施用効果の検討 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118

3-5 土壌分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119

3-6 植物組織培養・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120

3-7 市民農園設置事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120

3-8 農業体験学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121

3-9 栽培展示計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 122

第１　施設の概要及び機構

目　的

農業経営振興センターは、計画立案業務、担い手育成業務、農業金融業務及び野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する生産振興業務等の農業経営に関する重要な施策を一元的に推進することにより、起農、他産業からの農業参入、既存農業経営者の規模・品目の拡充等を促進し、産業としての農業の振興を図るとともに、市民農園の設置及び農作業体験学習会の開催等により、自然に親しめる潤いのある市民生活の向上に資することを目的としています。

事業の概要

１　計画立案業務
２　担い手育成業務
３　農業金融業務
４　野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する生産振興業務
　（１）　野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する生産振興業務
　（２）　野菜、花きに関する栽培調査及び展示業務
　（３）　植物組織培養業務
　（４）　土壌分析及び土壌改良支援業務
５　市民農園の設置及び農作業体験学習会の開催等に関する業務

組織図及び職員数（平成 31 年度）

組織図及び職員数　＜14 名＞

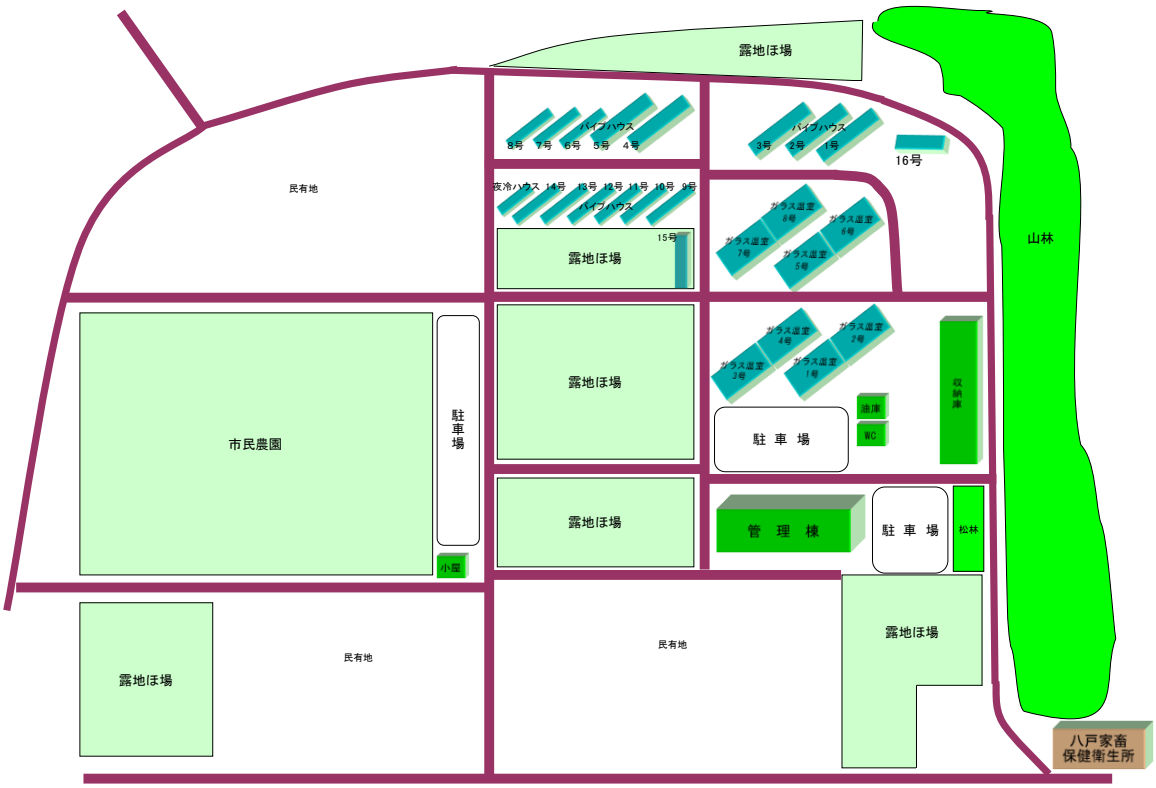
- 所長（経営支援 GL 事務取扱）
  - 計画立案、担い手育成及び農業金融業務等担当　5 名
  - 庶務担当　1 名
- 副参事（生産振興 GL）
  - 野菜、花き、果樹、稲作、畑作等に関する補助事業業務担当　2 名
  - 施設野菜栽培調査等業務担当　1 名
  - 花き栽培調査及び土壌分析等業務担当　1 名
  - 露地野菜栽培調査及び市民農園等業務担当　1 名
  - 家庭菜園講習会・農業体験学習担当　1 名

施設の概要

土地利用区分	
総面積	114,901 ㎡
管理施設用地	
建物等	1,471
駐車場・通路等	5,525
ほ場	
施設	14,842
ガラス温室	
パイプハウス	
露地	24,235
市民農園	18,237
山林	46,075
原野他	4,516

主要施設		
管理棟＜鉄骨造平屋建＞	1 棟	713 ㎡
多目的研修室		
調理実習室		
会議室		
土づくり相談室		
バイオ体験室		
ガラス温室（鉄骨造）	4 棟（8 室）	1,498 ㎡
パイプハウス	16 棟	1,991 ㎡
収納庫＜鉄骨造平屋建＞	1 棟	450 ㎡
屋外トイレ	1 棟	28 ㎡
油庫	1 棟	10 ㎡
農業用水施設	1 式	
気象観測施設	1 式	

場内案内図



沿　革

昭和 30．5　青森県農事試験場南部支場委託蔬菜展示農場として三戸郡大館村（新井田常光田地区）に発足
昭和 32．4　三戸郡大館村に移管し、大館村蔬菜展示農場に改称
昭和 33．9　合併により八戸市立そ菜展示農場に改称
昭和 36．1　八戸市農村青年研修所を併設
昭和 36．4　八戸市立園芸指導農場に改称
昭和 45．1　十日市天摩地区に移転し、八戸市農業センターに改称
昭和 57．4　八戸市都市緑化植物公園（現八戸公園）開設により、尻内町毛合清水地内に移転し、八戸市農業研修センターに改称
昭和 63．4　花き（切花）部門・植物組織培養部門（バイテク）設置
平成　2．4　市民農園開設
平成 11．12　高規格道路等建設計画により現在地に移転し、八戸市農業交流研修センターに改称
平成 23．4　機構改革により農業経営に関する支援業務を一元化し、八戸市農業経営振興センターに改称

業務報告

【平成 31 年度】

所　　長	石　丸	隆　典
（経営支援グループリーダー事務取扱）		
副 参 事	中　山	貢
（生産振興グループリーダー）		
主　　幹	窪　田	奈央子
主　　査	柳　谷	悟
技　　査	田　茂	竜　児
主　　査	白　川	大　祐
主　　事	苫米地	三由希
技　　師	戸　田	瞳
主　　事	鈴　木	千絵美
主　　事	島　守	康　洋
技　　師	佐々木	達　也
技　　師	外　和	昌　大
技　　師	細　越	敬太郎
技　　師	柴　田	あかね

2－1　気象

1　平成 31 年の平均気温・日照時間・降水量

表１　平成 31 年 平均気温･日照時間･降水量 旬表

月	旬	平均気温（℃）				日照時間（h）				降水量（mm）			
		平年値	31年	差	*八戸特別地域気象観測所*	平年値	31年	差	*八戸特別地域気象観測所*	平年値	31年	差	*八戸特別地域気象観測所*
1	上旬	-1.0	-0.6	0.4	*0.1*	41.3	43.4	2.1	*48.1*	13.9	0.0	-13.9	*0.0*
	中旬	-2.0	-1.2	0.8	*-0.5*	41.5	38.5	-3.0	*38.6*	10.2	1.0	-9.2	*0.5*
	下旬	-2.0	-1.7	0.4	*-0.9*	48.4	29.5	-18.9	*37.6*	13.4	1.5	-11.9	*3.0*
平均・計		-1.7	-1.2	0.5	*-0.4*	131.2	111.4	-19.8	*124.3*	37.4	2.5	-34.9	*3.5*
2	上旬	-1.7	-2.1	-0.4	*-1.4*	45.3	40.2	-5.1	*34.2*	10.7	23.5	12.8	*28.0*
	中旬	-1.2	-1.1	0.1	*-0.5*	45.1	39.6	-5.5	*37.4*	12.0	6.5	-5.5	*9.0*
	下旬	-0.2	2.4	2.5	*2.8*	39.3	44.5	5.2	*47.0*	9.5	0.0	-9.5	*0.0*
平均・計		-1.0	-0.5	0.6	*0.3*	129.7	124.3	-5.4	*118.6*	32.2	30.0	-2.2	*37.0*
3	上旬	0.5	3.7	3.2	*4.1*	51.2	64.0	12.8	*66.6*	14.2	2.5	-11.7	*5.0*
	中旬	2.2	4.1	1.9	*4.6*	52.3	53.5	1.2	*55.0*	13.4	59.0	45.6	*66.5*
	下旬	3.7	2.5	-1.2	*3.1*	64.7	46.0	-18.7	*50.4*	17.9	15.0	-2.9	*13.0*
平均・計		2.2	3.4	1.2	*3.9*	168.2	163.5	-4.7	*172.0*	45.5	76.5	31.0	*84.5*
4	上旬	6.3	4.2	-2.1	*4.8*	62.2	62.1	-0.1	*69.4*	16.8	20.0	3.2	*16.5*
	中旬	7.9	10.1	2.2	*10.6*	60.8	84.5	23.7	*91.3*	20.3	0.0	-20.3	*0.0*
	下旬	10.2	10.1	-0.1	*10.5*	66.6	52.4	-14.2	*57.6*	24.0	19.0	-5.0	*22.5*
平均・計		8.2	8.1	-0.1	*8.6*	189.6	199.0	9.4	*218.3*	61.0	39.0	-22.0	*39.0*
5	上旬	11.7	14.5	2.9	*14.8*	65.7	86.8	21.1	*95.8*	24.0	4.5	-19.5	*7.0*
	中旬	13.1	12.9	-0.2	*13.1*	61.1	85.4	24.3	*85.2*	25.2	0.0	-25.2	*0.0*
	下旬	14.5	19.3	4.9	*19.5*	70.1	77.7	7.6	*90.1*	28.9	29.5	0.6	*33.5*
平均・計		13.1	15.7	2.6	*15.8*	196.9	249.9	53.0	*271.1*	78.1	34.0	-44.1	*40.5*
6	上旬	15.1	16.2	1.1	*16.6*	61.0	57.4	-3.6	*79.0*	19.3	21.0	1.7	*33.5*
	中旬	16.2	15.3	-0.9	*15.7*	54.6	43.1	-11.5	*62.4*	37.2	36.0	-1.2	*50.0*
	下旬	17.5	16.6	-1.0	*17.1*	52.2	18.7	-33.5	*34.8*	33.0	50.5	17.5	*49.0*
平均・計		16.3	16.0	-0.3	*16.5*	167.8	119.2	-48.6	*176.2*	89.5	107.5	18.0	*132.5*
7	上旬	18.7	17.4	-1.3	*17.9*	45.6	36.9	-8.7	*48.8*	50.3	9.0	-41.3	*8.5*
	中旬	20.0	18.6	-1.4	*18.8*	43.3	26.1	-17.2	*33.1*	45.4	39.5	-5.9	*48.0*
	下旬	22.0	25.0	3.0	*25.1*	59.7	39.6	-20.1	*62.1*	41.9	21.5	-20.4	*14.0*
平均・計		20.3	20.5	0.2	*20.6*	148.6	102.6	-46.0	*144.0*	137.6	70.0	-67.6	*70.5*
8	上旬	22.3	24.9	2.6	*25.4*	60.3	72.1	11.8	*86.7*	37.3	15.5	-21.8	*14.5*
	中旬	21.8	22.8	0.9	*23.3*	52.1	51.7	-0.4	*60.8*	47.0	32.5	-14.5	*32.0*
	下旬	21.5	21.5	0.0	*22.2*	54.7	45.5	-9.2	*54.1*	58.0	99.5	41.6	*61.0*
平均・計		21.8	23.0	1.2	*23.6*	167.1	169.3	2.2	*201.6*	142.2	147.5	5.3	*107.5*
9	上旬	20.3	23.1	2.8	*23.8*	47.1	60.4	13.3	*68.9*	50.9	0.0	-50.9	*0.0*
	中旬	18.7	18.8	0.2	*19.8*	47.6	57.1	9.5	*60.8*	79.3	13.0	-66.3	*12.0*
	下旬	16.3	18.2	1.9	*18.9*	49.3	67.7	18.4	*70.2*	41.4	36.5	-4.9	*37.5*
平均・計		18.4	20.1	1.6	*20.8*	144.0	185.2	41.2	*199.9*	171.5	49.5	-122.0	*49.5*
10	上旬	14.4	17.0	2.6	*17.7*	50.1	52.0	1.9	*56.3*	47.3	18.5	-28.8	*25.5*
	中旬	12.7	12.6	-0.1	*13.5*	53.9	51.8	-2.1	*54.5*	24.1	236.0	211.9	*239.5*
	下旬	10.7	13.2	2.5	*13.8*	57.3	41.0	-16.3	*44.3*	33.6	43.5	10.0	*50.5*
平均・計		12.5	14.2	1.7	*15.0*	161.3	144.8	-16.5	*155.1*	104.9	298.0	193.1	*315.5*
11	上旬	9.0	8.1	-0.9	*9.0*	49.8	50.0	0.2	*54.8*	25.3	6.0	-19.3	*5.5*
	中旬	6.1	5.8	-0.3	*6.5*	41.5	44.5	3.0	*43.7*	19.8	11.5	-8.3	*11.0*
	下旬	4.4	4.2	-0.2	*4.5*	42.1	36.3	-5.8	*42.5*	17.0	0.0	-17.0	*0.5*
平均・計		6.4	6.1	-0.3	*6.7*	133.4	130.8	-2.6	*141.0*	62.1	17.5	-44.6	*17.0*
12	上旬	2.4	2.2	-0.2	*2.7*	40.6	43.4	2.8	*45.9*	17.2	0.0	-17.2	*0.0*
	中旬	0.4	3.2	2.8	*3.7*	40.6	40.9	0.3	*41.3*	12.6	15.0	2.4	*15.5*
	下旬	-0.1	-0.1	0.0	*0.3*	43.3	44.2	0.9	*41.8*	16.7	44.0	27.3	*54.5*
平均・計		0.9	1.7	0.8	*2.2*	124.5	128.5	4.0	*129.0*	46.5	59.0	12.5	*70.0*
年平均･計		9.8	10.7	0.9	*11.1*	1862.3	1,828.5	-33.8	*2,051.1*	1,008.3	931.0	-77.3	*967.0*

※八戸特別地域気象観測所　観測数値（斜字）は気象庁ホームページから引用

※平均気温及び降水量の平年値は平成元年から平成 30 年までの当センター観測数値による

日照時間の平年値は昭和 56 年から平成 22 年までの八戸特別気象観測所観測数値による

※四捨五入により端数処理

(1)　平均気温

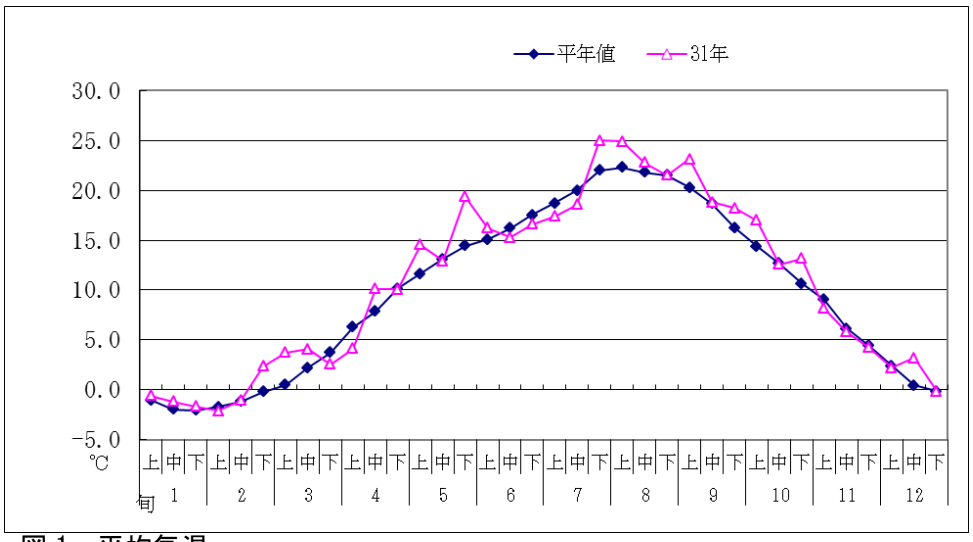


図１　平均気温

平年値との比較

・1℃を上回る月

3 月 (+1.2℃)

5 月 (+2.6℃)

8 月 (+1.2℃)

9 月 (+1.6℃)

10 月 (+1.7℃)

(2)　日照時間

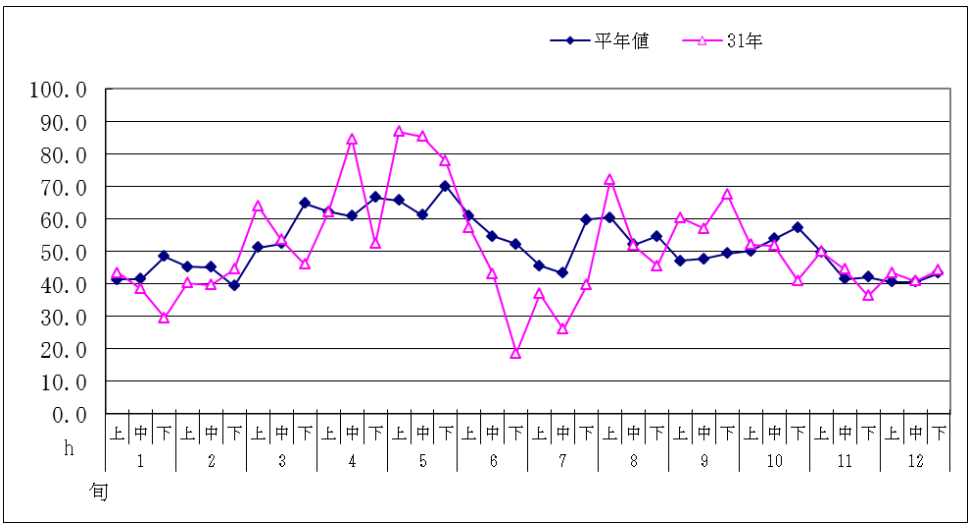


図２　日照時間

平年値との比較

・30 時間/月を上回る月

5 月 (+53.0 時間)

9 月 (+41.2 時間)

・30 時間/月を下回る月

6 月 (-48.6 時間)

7 月 (-46.0 時間)

(3)　降水量

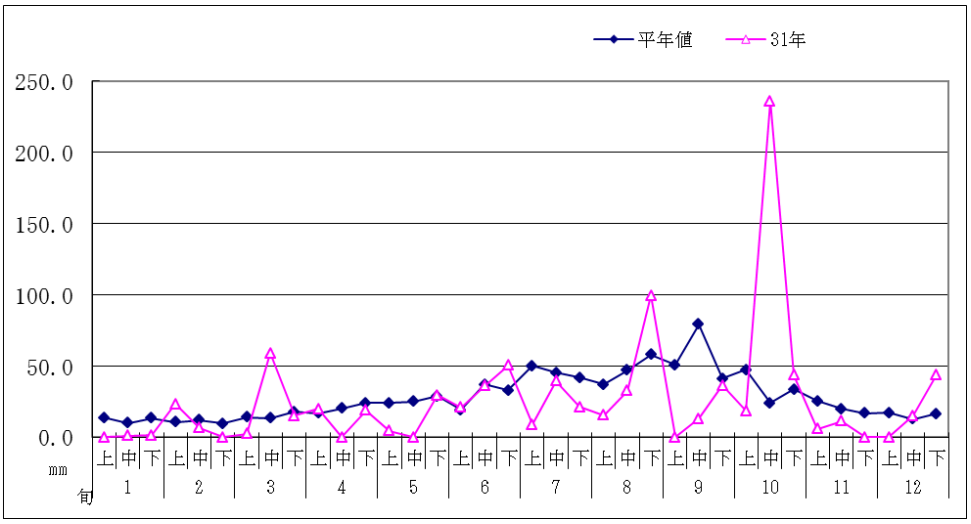


図３　降水量

平年値との比較

・30mm/月を上回る月

3 月 (+31.0mm)

10 月 (+193.1mm)

・30mm/月を下回る月

1 月 (-34.9mm)

5 月 (-44.1mm)

7 月 (-67.6mm)

9 月 (-122.0mm)

11 月 (-44.6mm)

表 2　平成 31 年 気象観測数値 旬表

農業経営振興センター観測

月	旬	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	日照時間 (h)	降水量 (mm)	平均湿度 (%)	平均地温（℃） 0cm	10cm	20cm
1	上旬	-0.6	8.1	-4.9	43.4	0.0	68.6	0.9	2.0	2.9
	中旬	-1.2	5.7	-6.6	38.5	1.0	68.1	0.6	1.6	2.4
	下旬	-1.7	5.6	-8.0	29.5	1.5	76.6	0.4	1.3	2.0
平均・極値・計		-1.2	8.1	-8.0	111.4	2.5	71.3	0.6	1.6	2.4
2	上旬	-2.1	7.4	-11.4	40.2	23.5	77.5	0.3	1.0	1.7
	中旬	-1.1	9.0	-8.9	39.6	6.5	73.4	0.3	1.0	1.5
	下旬	2.4	11.5	-3.1	44.5	0.0	63.0	0.4	0.9	1.4
平均・極値・計		-0.5	11.5	-11.4	124.3	30.0	71.9	0.3	1.0	1.5
3	上旬	3.7	13.2	-2.9	64.0	2.5	64.9	1.5	2.1	2.2
	中旬	4.1	18.9	-2.3	53.5	59.0	71.8	2.7	2.9	3.0
	下旬	2.5	14.1	-4.6	46.0	15.0	70.7	3.8	4.3	4.3
平均・極値・計		3.4	18.9	-4.6	163.5	76.5	69.1	2.7	3.2	3.2
4	上旬	4.2	4.5	-3.0	62.1	20.0	69.5	3.5	3.7	3.8
	中旬	10.1	17.6	0.8	84.5	0.0	54.0	7.6	7.2	6.6
	下旬	10.1	24.5	1.5	52.4	19.0	69.8	9.1	9.1	8.7
平均・極値・計		8.1	24.5	-3.0	199.0	39.0	64.4	6.7	6.7	6.4
5	上旬	14.5	24.6	6.5	86.8	4.5	55.4	11.5	10.9	10.3
	中旬	12.9	26.8	1.4	85.4	0.0	75.8	12.5	12.4	11.7
	下旬	19.3	33.7	10.4	77.7	29.5	57.4	15.8	15.3	14.5
平均・極値・計		15.7	33.7	1.4	249.9	34.0	62.7	13.3	13.0	12.2
6	上旬	16.2	29.0	8.6	57.4	21.0	78.4	16.8	16.6	15.8
	中旬	15.3	25.9	9.5	43.1	36.0	81.8	16.6	16.9	16.2
	下旬	16.6	28.3	11.6	18.7	50.5	91.2	18.3	18.4	17.7
平均・極値・計		16.0	29.0	8.6	119.2	107.5	83.8	17.2	17.3	16.5
7	上旬	17.4	28.2	11.5	36.9	9.0	87.7	18.6	19.1	18.4
	中旬	18.6	26.0	13.3	26.1	39.5	93.8	19.5	20.0	19.2
	下旬	25.0	33.5	16.4	39.6	21.5	81.6	23.0	22.8	21.7
平均・極値・計		20.5	33.5	11.5	102.6	70.0	87.5	20.5	20.7	19.8
8	上旬	24.9	33.9	16.8	72.1	15.5	83.7	24.5	24.6	23.6
	中旬	22.8	32.6	17.0	51.7	32.5	89.0	23.0	23.5	23.0
	下旬	21.5	29.4	15.0	45.5	99.5	86.0	21.9	22.5	22.3
平均・極値・計		23.0	33.9	15.0	169.3	147.5	86.2	23.1	23.5	22.9
9	上旬	23.1	32.4	14.5	60.4	0.0	80.4	22.5	22.9	22.4
	中旬	18.8	27.5	12.1	57.1	13.0	76.5	20.5	21.9	21.9
	下旬	18.2	27.0	10.1	67.7	36.5	75.6	18.6	19.4	19.6
平均・極値・計		20.1	32.4	10.1	185.2	49.5	77.5	20.5	21.4	21.3
10	上旬	17.0	26.0	9.4	52.0	18.5	80.3	18.3	19.1	19.3
	中旬	12.6	21.5	2.5	51.8	236.0	81.8	14.1	15.3	15.9
	下旬	13.2	19.4	5.0	41.0	43.5	80.7	13.6	14.3	14.8
平均・極値・計		14.2	26.0	2.5	144.8	298.0	80.9	15.3	16.2	16.6
11	上旬	8.1	16.6	0.8	50.0	6.0	67.7	10.3	12.0	12.8
	中旬	5.8	16.1	-2.3	44.5	11.5	69.3	7.7	9.4	10.4
	下旬	4.2	18.7	-3.9	36.3	0.0	68.1	5.8	7.3	8.3
平均・極値・計		6.1	18.7	-3.9	130.8	17.5	68.4	8.0	9.6	10.5
12	上旬	2.2	12.3	-6.1	43.4	0.0	65.5	3.6	5.2	38.0
	中旬	3.2	15.0	-4.2	40.9	15.0	69.8	3.8	4.8	5.6
	下旬	-0.1	7.1	-6.2	44.2	44.0	80.3	2.2	3.4	4.3
平均・極値・計		1.7	15.0	-6.2	128.5	59.0	72.1	3.2	4.4	5.4
年平均・極値・計		10.7	33.9	-11.4	1,828.5	931.0	74.7	11.0	11.6	11.6

※四捨五入により端数処理

2-2 調査成績（施設野菜）

施設野菜の部　No.1

項　目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続：平成 29 年度～平成 31 年度）

１目的　新しく開発された種子繁殖型いちご品種「よつぼし」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 4 号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　平成 30 年 5 月 7 日（406 穴セルトレイ）
3)　移植月日　平成 30 年 7 月 2 日（10.5cm ポット）
※406 穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
4)　夜冷処理期間　平成 30 年 7 月 26 日～8 月 27 日
5)　夜冷処理日数　33 日
6)　夜冷処理方法　短日処理　8 時間日長（16 時 30 分～翌 8 時 30 分遮光）
夜冷処理　13～15℃（16 時 30 分～翌 8 時 30 分）
7)　育苗日数　113 日
8)　定植年月日　平成 30 年 8 月 28 日
9)　栽植距離　うね幅 110 cm、ベッド幅 70cm、株間 25 cm、2 条植え
10)　定植株数　640 株/棟
11)　施肥量　N-P-K=1.21-0.53-1.35kg/a
【基肥】有機アグレット 816（8-1-6）：7.5kg/a
【追肥】大塚養液土耕 6 号（13.5-10-20）：4.5kg/a
12)　使用資材　アヅミン（Mg:3%）：5kg/a
あったかマルチ
13)　収穫期間　平成 30 年 10 月 17 日～令和元年 6 月 20 日
14)　保温　内カーテン：平成 30 年 11 月 16 日～平成 31 年 4 月 24 日
15)　加温　温風暖房機（8℃設定）：
平成 30 年 11 月 16 日～平成 31 年 3 月 31 日
16)　薬剤散布　56 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　2 区（1 区 10 株、1 区制）
<1>夜冷短日処理無し
<2>夜冷短日処理有り
2)　供試品種　よつぼし（三重県・香川県・千葉県・農研機構）

(4)　調査項目　生育、収量、品質（糖度・酸度・硬度）

３結果の概要

(1)　昨年度の結果

「夜冷短日処理無し」と比較して、「夜冷短日処理有り」では、10a 換算秀品収量が 2,932kg となり、10a 換算秀品収量で優っていた。

(2)　本年度の結果

1)　生育

収穫開始時の生育調査では、「夜冷短日処理無し」が全ての項目で優っていた。

病害虫については、春先からハダニの発生が見られたが、天敵を導入していたため、被害は小さかった。また、うどんこ病の発生もあったが、他品種と比較し、「よつぼし」では発生が少なかった。

2)　収量

「夜冷短日処理有り」では、1 株収量は 781.1g、10a 換算収量は 3,787kg であり、「夜冷短日処理無し」と比較して、優っていた。

3) 品質

「夜冷短日処理無し」で平均果重は 16.7g、秀品率は 87.6%、10a 換算秀品収量は 3,301kg であった。「夜冷短日処理有り」では、平均果重は 14.1g、秀品率は 84.0%、10a 換算秀品収量は 3,180kg となり、10a 換算秀品収量では「夜冷短日処理無し」が優っていた。

(3) 次年度以降の計画

継続

表 1 生育調査（10 株当たり）

調査区名	草丈 (cm)	展開葉 (枚)	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅長 (cm)	芽数 (芽)	クラウン径(mm)
夜冷短日処理無し	25.5	6.2	14.7	10.6	8.6	1.3	16.2
夜冷短日処理有り	24.2	5.6	13.9	10.2	8.0	1.0	15.4

表 2 収量調査（10 株当たり）

品種名	3L (35g以上)		2L (25～35g未満)		L (15～25g未満)		M (11～15g未満)		S (7～11g未満)		小果・奇形果	
	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量
夜冷短日処理無し	18	710	63	1,816	147	2,754	112	1,457	68	619	58	419
夜冷短日処理有り	9	352	36	1,044	147	2,767	137	1,752	137	1,233	89	663
さちのか(参考)	4	165	19	541	103	1,942	101	1,293	119	1,062	108	849

表2つづき

品種名	合計		平均果重	1株収量	秀品率(%)	1棟(132㎡)換算収量(kg)	10a換算収量(kg)	10a換算秀品収量(kg)
	果数	収量						
夜冷短日処理無し	466	7,775	16.7	777.5	87.6	497.6	3,770	3,301
夜冷短日処理有り	555	7,811	14.1	781.1	84.0	499.9	3,787	3,180
さちのか(参考)	454	5,852	12.9	585.2	76.2	374.5	2,837	2,162

表2つづき

品種名	等級割合(%：重量ベース)					
	3L	2L	L	M	S	小･奇
夜冷短日処理無し	9.1	23.4	35.4	18.7	8.0	5.4
夜冷短日処理有り	4.5	13.4	35.4	22.4	15.8	8.5
さちのか(参考)	2.8	9.2	33.2	22.1	18.1	14.5

※平均果重=合計収量/合計個数。1株収量=合計収量/10株。秀品率=(3L～S合計)/合計果数。
1棟換算収量=1株収量×定植株数(640株)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
10a換算秀品収量=10a換算収量×秀品率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表３　品質調査

測定日	よつぼし			さちのか（参考）		
	糖度(Brix%)	酸度(%)	硬度(kg)	糖度(Brix%)	酸度(%)	硬度(kg)
12 月 10 日	11.4	0.74	0.92	11.6	0.78	0.93
1 月 11 日	14.4	0.72	0.91	14.0	0.74	0.96
2 月 8 日	12.6	0.58	0.96	12.6	0.74	0.92
3 月 11 日	10.4	0.66	0.88	10.1	0.51	0.85
4 月 10 日	11.6	0.62	0.90	10.7	0.78	0.90
5 月 10 日	12.5	0.74	0.88	10.9	0.78	0.90

※各測定日に収穫した５果当たりの平均値。

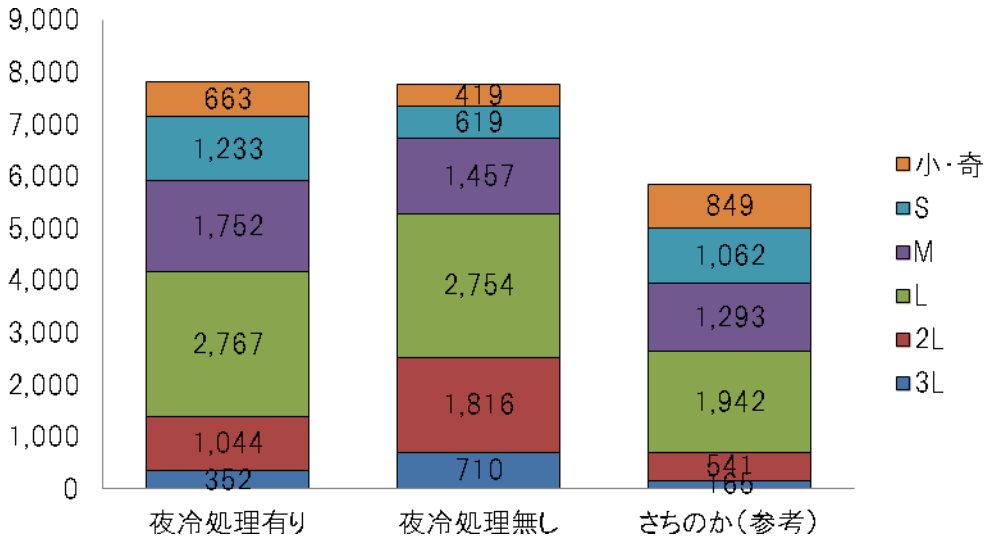


図１　調査区別収量（g）（10 株当たり）

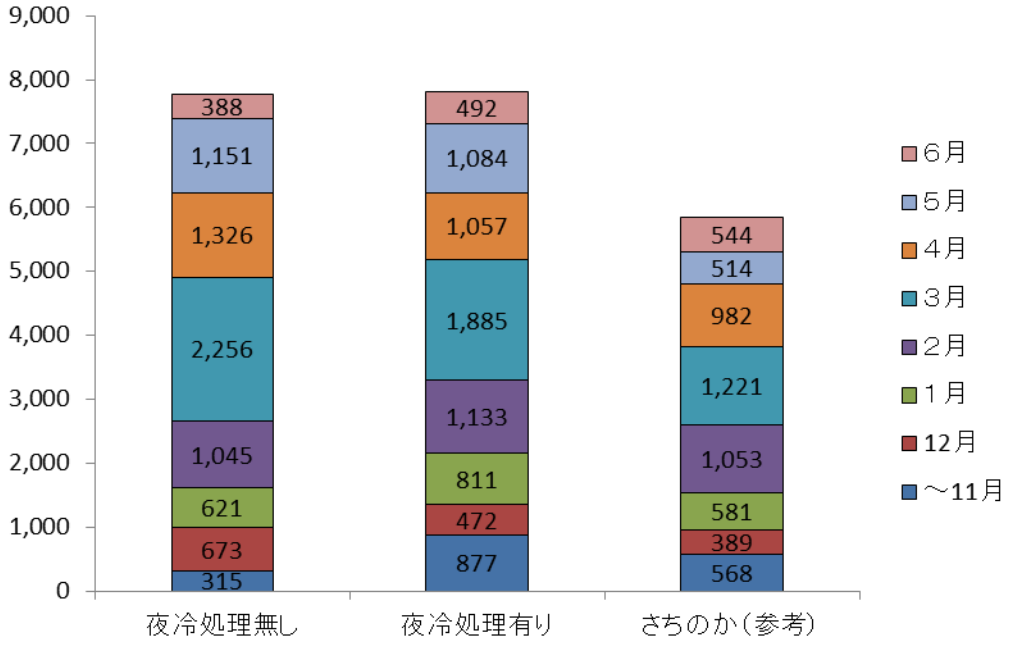


図 2　月別収量（g）（10 株当たり）

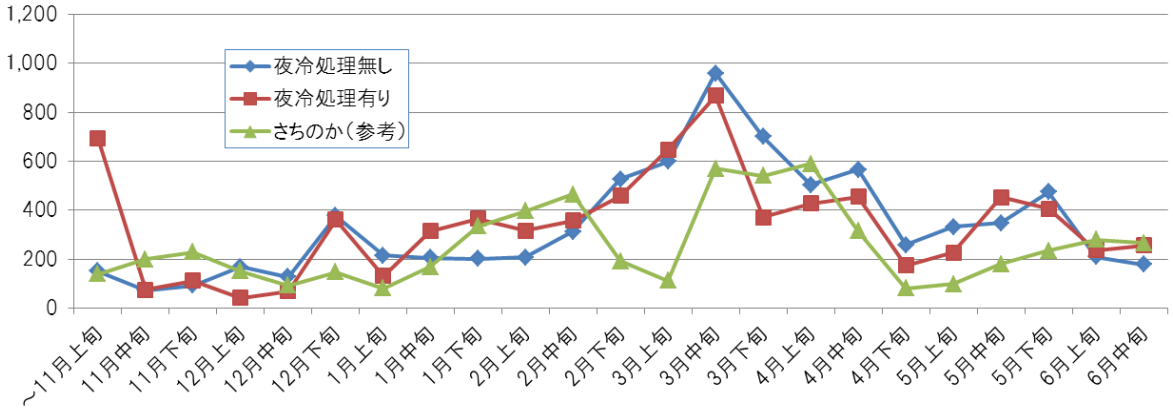


図 3　月旬別収量（g）（10 株当たり）

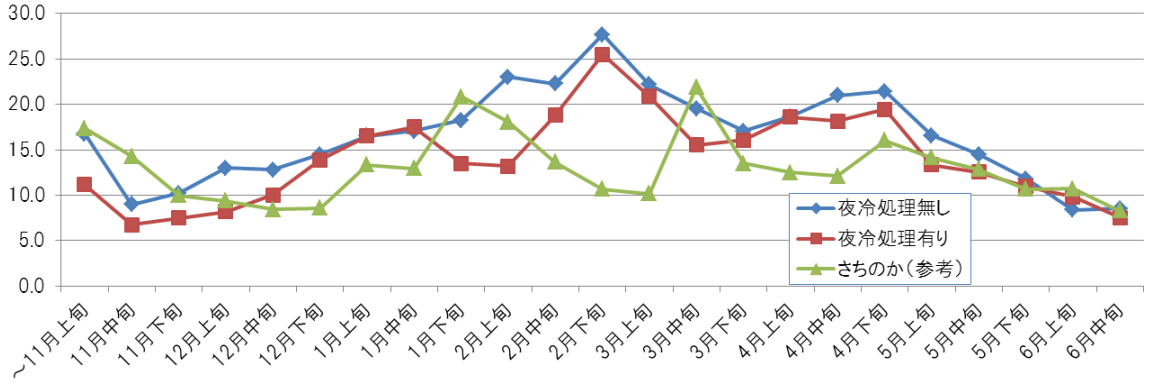


図４　月旬別平均果重（g）（10 株当たり）

表４　昨年度の結果

品種名	3L (35g以上)		2L (25～35g未満)		L (15～25g未満)		M (11～15g未満)		S (7～11g未満)		小果・奇形果	
	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量	果数	収量
夜冷短日処理無し	9	334	31	883	132	2,553	88	1,134	51	498	37	399
夜冷短日処理有り	9	345	58	1,649	121	2,333	89	1,155	61	566	49	614
さちのか(参考)	6	226	29	837	115	2,179	78	1,000	77	719	53	608

表2つづき

品種名	合計		平均	１株	秀品率	1棟(132㎡)	10a換算収量	10a換算秀品
	果数	収量	果重	収量	(%)	換算収量(kg)	(kg)	収量(kg)
夜冷短日処理無し	348	5,801	16.7	580.1	93.1	371.3	2,813	2,619
夜冷短日処理有り	387	6,662	17.2	666.2	90.8	426.4	3,230	2,932
さちのか(参考)	358	5,569	15.6	556.9	89.1	356.4	2,700	2,405

表2つづき

品種名	等級割合(%：重量ベース)					
	3L	2L	L	M	S	小･奇
夜冷短日処理無し	5.8	15.2	44.0	19.5	8.6	6.9
夜冷短日処理有り	5.2	24.8	35.0	17.3	8.5	9.2
さちのか(参考)	4.1	15.0	39.1	18.0	12.9	10.9

※平均果重=合計収量/合計個数。1株収量=合計収量/10株。秀品率=(3L～S合計)/合計収量。
1棟換算収量=1株収量×定植株数(640株)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
10a換算秀品収量=10a換算収量×秀品率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

※算出方法は表２に準じる。

施設野菜の部　No.2

項　目：栽培技術調査

調査名：夏秋どりいちごの品種比較調査（新規：平成 31 年度～令和 2 年度）

１目的　当地域における夏秋どりいちご生産に適応する四季成り性品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 15 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1) 栽培方法　養液土耕栽培、無加温
2) 定植年月日　平成 31 年 4 月 18 日
3) 栽植距離　ベッド幅 110 ㎝、うね幅 70㎝、株間 25 ㎝、2 条植え
4) 定植株数　512 株／棟
5) 施肥量　N-P-K=1.53-0.64-1.68kg/a
【基肥】有機アグレット 816（8-1-6）：10kg/a
【追肥】大塚養液土耕 6 号（13.5-10-20）：5.4kg/a
6) 使用資材　アヅミン（Mg:3%）：3kg/a
あったかマルチ、タイベックマルチ（6 月 20 日～9 月 24 日）
7) 収穫期間　令和元年 7 月 12 日～12 月 23 日
8) 保温　内カーテン：定植日～5 月 10 日、9 月 24 日～収穫終了日
9) 薬剤散布　41 回（成分回数）
※うね毎に 1 本、株上にラノーテープ剤を設置

(3)　調査区の構成

1) 調査区　3 区（1 区 10 株、1 区制）
2) 供試品種　<1>すずあかね
<2>よつぼし
<3>盛岡 37 号

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1) 生育

収穫開始時の生育調査では、「すずあかね」でクラウン径を除く項目で優った。

病害虫について、病害は特に発生しなかったが、アザミウマが生育期間を通して発生した。

2) 収量

１株収量及び 10a 換算収量は「すずあかね」が優れた結果となった。月旬別収量を見ると、「すずあかね」が全ての月で優っていた。

品質

3) 平均果重は「すずあかね」が優る結果となった。秀品率は「すずあかね」で優れていた。10a 換算秀品収量では「すずあかね」が優っていた。

以上より、今年度の調査では「すずあかね」が最も優れる結果となった。

(2)　次年度以降の計画

継続

表１　生育調査（10 株平均）（収穫開始時）

調査区名	草丈 (cm)	展開葉数 (枚)	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅長 (cm)	クラウン径 (mm)
すずあかね	24.7	9.6	13.2	11.7	10.0	16.5
よつぼし	21.4	9.4	12.2	11.5	9.7	19.5
盛岡 37 号	20.5	8.0	11.7	8.9	9.1	18.5

表２　収量調査（10 株当たり）

調査区名	15玉大 (25g以上)		15玉小 (21～25g未満)		20玉 (17～21g未満)		24玉 (14～17g未満)		30玉 (10～14g未満)		35玉 (8～10g未満)		42玉 (6～8g未満)	
	果数	果数(g)	果数	果数(g)	果数	果数(g)	果数	果数(g)	果数	果数(g)	果数	果数(g)	果数	果数(g)
すずあかね	6	184	23	516	44	813	56	854	132	1,550	76	679	64	442
よつぼし	5	134	4	87	18	327	31	486	93	1,087	82	732	120	846
盛岡37号	1	27	3	69	12	219	31	473	84	1,010	73	641	81	550

表2つづき

調査区名	小果・奇形果		合計		平均	1株	秀品率	1棟換算	10a換算収量	10a換算秀品
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果重(g)	収量(g)	(%)	収量(kg)	(kg)	収量(kg)
すずあかね	81	613	482	5,651	11.7	565.1	89.2	289.3	2,923	2,606
よつぼし	173	1,037	526	4,736	9.0	473.6	78.1	242.5	2,449	1,913
盛岡37号	118	666	403	3,655	9.1	365.5	81.8	187.1	1,890	1,546

表2つづき

調査区名	等級割合(%：重量ベース)							
	15玉大	15玉小	20玉	24玉	30玉	35玉	42玉	小・奇
すずあかね	3.3	9.1	14.4	15.1	27.4	12.0	7.8	10.8
よつぼし	2.8	1.8	6.9	10.3	23.0	15.5	17.9	21.9
盛岡37号	0.7	1.9	6.0	12.9	27.6	17.5	15.0	18.2

※平均果重=合計収量/合計果数。1株収量=合計収量/10株。秀品率=(15玉大～42玉合計収量)/合計収量。
1棟換算収量=1株収量×定植株数(512株)。10a換算収量=1棟換算収量/99㎡×1000㎡。
10a換算秀品収量=10a換算収量×秀品率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

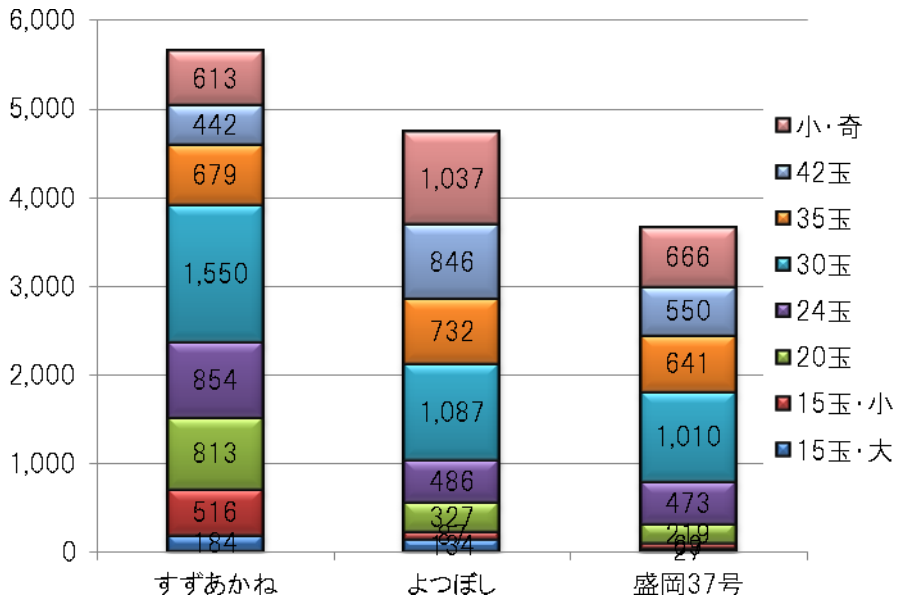


図１　調査区別収量（g）（10 株当たり）

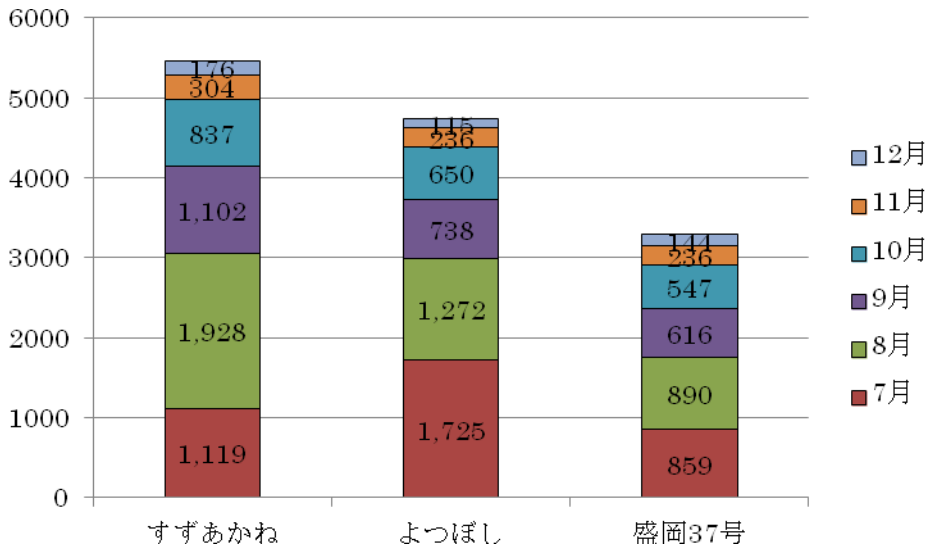


図２　月別収量（g）（10 株当たり）

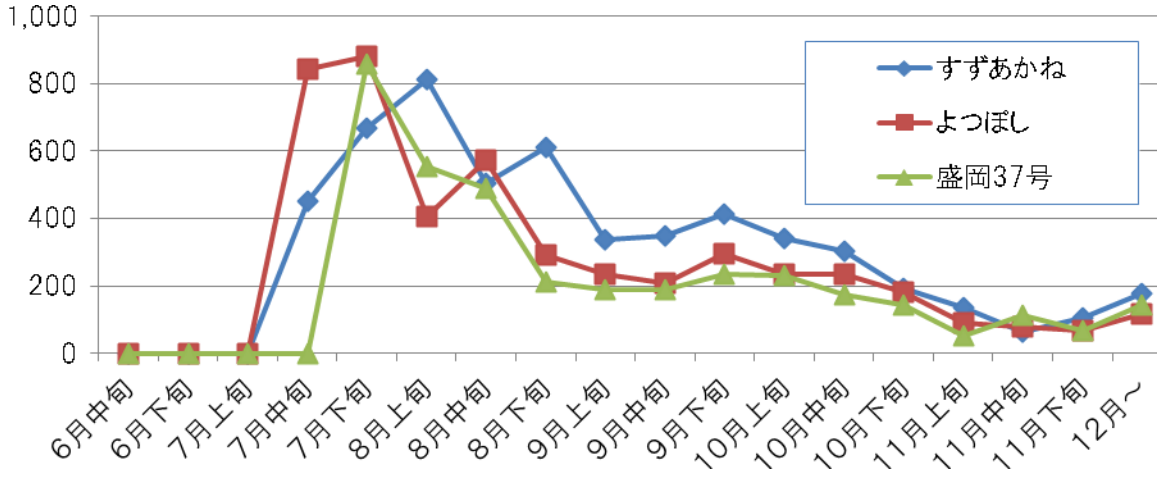


図 3　月旬別収量（g）（10 株当たり）

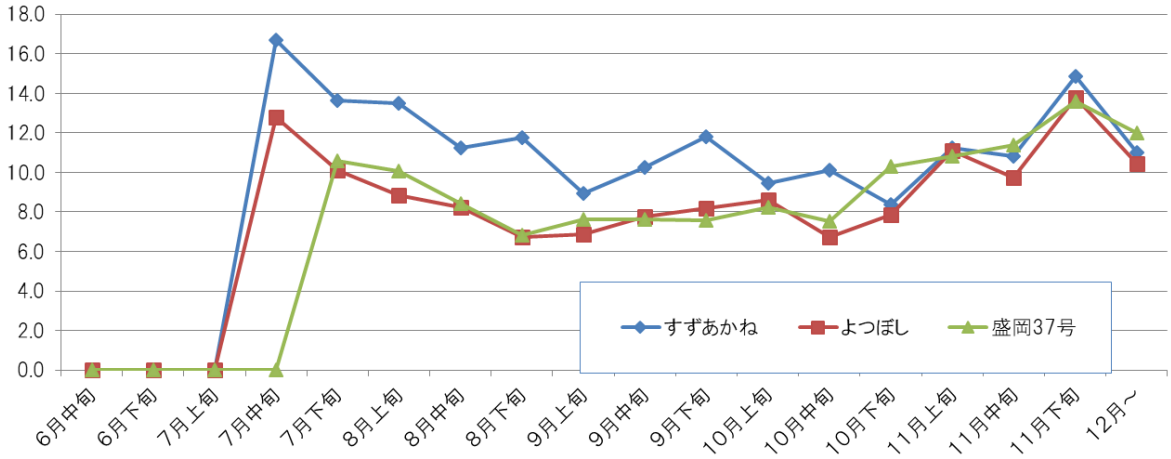


図 4　月旬別平均果重（g）（10 株当たり）

施設野菜の部　No.3

項目：品種比較調査

調査名：ほうれんそうの寒締め栽培における品種比較調査（継続：平成30年度～平成31年度）

１目的　当地域において冬期間に栽培される「寒締めほうれんそう」に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室6号（165㎡：約50坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培、無加温

2)　は種月日　令和元年10月8日

3)　栽植距離　ベッド幅110㎝、株間15㎝、条間15㎝、7条植え、2粒播き

4)　定植株数　4,620株/棟

5)　施肥量　N-P-K=1.00-0.81-0.19kg/a
シリカ＆フミン（2.7-2.2-0.5）：37kg/a

6)　使用資材　白黒ダブルマルチ

7)　収穫月日　令和2年1月9日

8)　薬剤散布　3回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　2区（1区20株、1区制）

2)　供試品種　<1>雪美菜02　（雪印種苗㈱）
<2>じっくり朝霧　（㈱渡辺採種場）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　昨年度の結果
調整重、1a換算収量、1a換算出荷袋数は「雪美菜02」が優った。

(2)　本年度の結果

1)　生育
両品種とも発芽は良好、生育も順調に進み、12月2日からは寒締めのために温室の窓の開放を始めた。
病害虫について、特に発生は見られなかった。

2)　収量
調整重、1a換算収量、1a換算出荷袋数は「雪美菜02」が優った。

3)　品質
糖度調査では「じっくり朝霧」が高かった。

(3)　調査2箇年の結果
調整重、1a換算収量、1a換算出荷袋数は「雪美菜02」が優ったが、糖度は「じっくり朝霧」が高かった。

(4)　次年度以降の計画
本年度で完了

表 1　収量調査（20 株調査）

品種名	葉数（枚）	葉長（cm）	株重（g）	調整重（g）	1 棟換算収量(kg)	1a 換算収量（kg）	1a 換算出荷袋数
雪美菜 02	16.7	18.8	46.7	43.1	199.1	120.7	548.5
じっくり朝霧	14.7	16.1	36.5	33.4	154.3	93.5	425.1

※1 棟換算収量=調整重×4,620 株/棟。1a 換算収量=1 棟換算収量/165 ㎡×100 ㎡。

1a 換算出荷袋数=1a 換算収量/220g。

表 2　糖度調査（10 株調査）

品種名	糖度(Brix%)
雪美菜 02	9.4
じっくり朝霧	12.5

表 3　平成 30 年度収量調査（20 株調査）

品種名	葉数（枚）	葉長（cm）	株重（g）	調整重（g）	1 棟換算収量(kg)	1a 換算収量（kg）	1a 換算出荷袋数
雪美菜 02	14.3	19.3	42.9	39.8	183.9	111.4	506.5
じっくり朝霧	13.6	18.8	40.4	36.2	167.2	101.4	460.7

※1 棟換算収量=調整重×4,620 株/棟。1a 換算収量=1 棟換算収量/165 ㎡×100 ㎡。

1a 換算出荷袋数=1a 換算収量/220g。

表 4　平成 30 年度糖度調査（10 株調査）

品種名	糖度(Brix%)
雪美菜 02	10.0
じっくり朝霧	11.7

施設野菜の部　№4

項目：品種比較調査

調査名：冬期間の施設利用によるこまつなの品種比較調査（新規：平成 31 年度）

１目的　施設の有効利用に関して、冬期間のこまつな栽培に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 7 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培、無加温（不織布べたがけ）
2)　は種月日　令和元年 11 月 26 日
3)　栽植距離　ベッド幅 120 ㎝、株間 5 ㎝、条間 20 ㎝
4)　施肥量　無施肥（きゅうり後作）
5)　収穫月日　令和 2 年 2 月 25 日、3 月 3 日
6)　薬剤散布　無し
7)　保温　内カーテン：は種日～収穫終了日
不織布べた掛け/トンネル：は種日～収穫終了日

(3)　調査区の構成　12 区（1 区 1m（20 株）、2 区制）
〈1〉なかまち　(㈱サカタのタネ)
〈2〉わかみ　(㈱サカタのタネ)
〈3〉河北　(㈱渡辺採種場)
〈4〉神楽坂　(㈱日本農林社)
〈5〉楽天　(タキイ種苗㈱)
〈6〉はまつづき　(㈱サカタのタネ)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

収穫時の生育調査では草丈、1 株重ともに「わかみ」で大きくなった。欠株は「河北」、「楽天」ではやや多かったが、「なかまち」では見られなかった。

2)　収量・糖度

調整収量及び 1a 換算収量では「わかみ」が 2 回の収穫とも多かった。

糖度は、「なかまち」を除いて 91 日収穫時の方が高く、2 回の収穫とも最も高かったのは「楽天」であった。

(2)　次年度以降の計画

本年度で完了

表１　生育・収量等調査

品種名	生育日数	草丈(cm)	1株重(g)	欠株率(株) 調査別	欠株率(株) 平均	調整収量(g)	1a換算収量(kg)	糖度(Brix%)
なかまち	91	24.5	33.4	0	0.0	667	216	3.5
	98	27.8	46.3	0		926	300	3.5
わかみ	91	28.4	40.5	1	0.5	770	249	3.3
	98	33.8	62.9	0		1,257	407	2.8
河北	91	25.3	27.7	5	4.0	415	134	3.1
	98	23.4	27.4	3		465	151	2.8
神楽坂	91	25.4	36.9	3	1.5	627	203	3.3
	98	29.2	52.1	0		1,041	337	3.1
楽天	91	23.8	23.8	6	3.0	334	108	5.2
	98	24.0	20.8	0		416	135	3.8
はまつづき	91	16.7	13.2	1	0.5	251	81	4.6
	98	19.5	19.5	0		390	126	3.7

※調整収量=1株重×(20株-欠株数)。1a収量=調整収量×324m。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

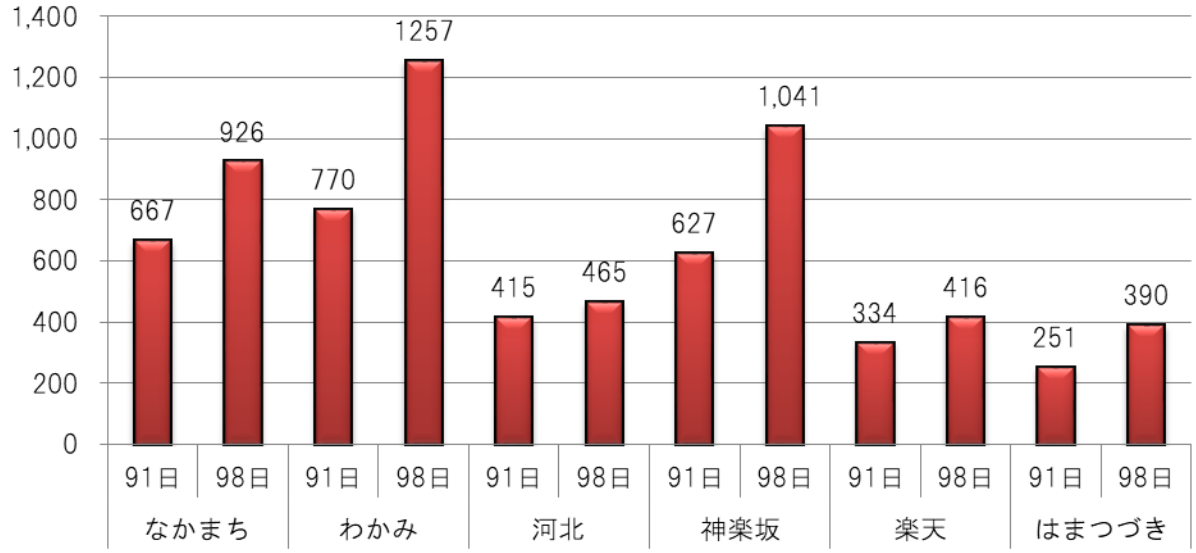


図１　品種収穫日別調整収量（g）

施設野菜の部　No.5

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（新規：平成 31 年度～令和 3 年度）

１目的　トマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室 8 号（165 ㎡：約 50 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　平成 30 年 12 月 21 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　平成 31 年 1 月 15 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　平成 31 年 2 月 25 日
5)　育苗日数　69 日
6)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、2 条植え
7)　定植株数　320 株/棟
8)　施肥量　N-P-K=1.27-1.28-2.22kg/a
【肥料】大塚養液土耕 5 号（12-20-20、～収穫前）：4.2kg/a
大塚養液土耕 2 号（14-8-25、収穫開始～）：5.5kg/a
9)　使用資材　ハイフミンハイブリッド G（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6 月 6 日～収穫終了日）。
10)　収穫期間　令和元年 5 月 7 日～令和元年 7 月 31 日
11)　保温　内カーテン：定植日～平成 31 年 3 月 29 日、
12)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和元年 5 月 15 日
13)　薬剤散布　6 回（成分回数）
※うね毎に 1 本、株上にラノーテープ剤を設置。
14)　摘心　令和元年 5 月 20 日

(3)　調査区の構成

1)　調査区　4 区（1 区 5 株、1 区制）
2)　供試品種
〈1〉みそら 64　（みかど協和㈱）
〈2〉CF 桃太郎はるか　（タキイ種苗㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

室温及び地温の確保が難しい状況となったことから、初期生育が緩慢となり、例年に比べ収量が低下する要因となった。

病害虫については、ネコブセンチュウの発生を確認しており、地上部の生育に影響していた。

2)　収量

10a 換算収量は「麗月」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、5 月は「CF 桃太郎はるか」、6 月は「麗月」、7 月は「麗月」であった。

3)　品質

平均 1 果重は「麗月」で最も大きくなり、「みそら 64」で最も小さくなった。上物率は「麗月」、で最も高くなり、「桃太郎ネクスト」で低くなった。10a 換算上物収量は「麗月」、「CF 桃太郎はるか」で高くなった。

糖度は、「みそら 64」で高い傾向が見られた。

(2)　次年度以降の計画
継続

表１　収量調査（10 株当たり）

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら64	131	21,250	77	7,004	208	28,254
CF桃太郎はるか	171	30,922	60	6,692	231	37,614
桃太郎ネクスト	114	22,809	64	8,838	177	31,646
麗月	160	37,420	58	6,433	218	43,853

品種名	1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	１棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
みそら64	2,825	135.8	75.2	904	5.5	4.1
CF桃太郎はるか	3,761	162.7	82.2	1,204	7.3	6.0
桃太郎ネクスト	3,165	178.6	72.1	1,013	6.1	4.4
麗月	4,385	201.2	85.3	1,403	8.5	7.3

※上物：Ａ+Ｂ品、下物：Ｃ+Ｄ品+外品の合計。
※1株換算収量=合計収量/10株。平均1果重=合計収量/合計果数。上物率=合計収量/上物収量。
10a換算収量=1株換算収量×2000株/10a。10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表２　糖度調査（Brix%）

品種名	5 月 27 日	6 月 26 日
みそら 64	6.5	6.2
CF 桃太郎はるか	6.3	5.9
桃太郎ネクスト	6.4	5.8
麗月	5.8	5.9

※各測定日に収穫した 5 果当たりの平均値。

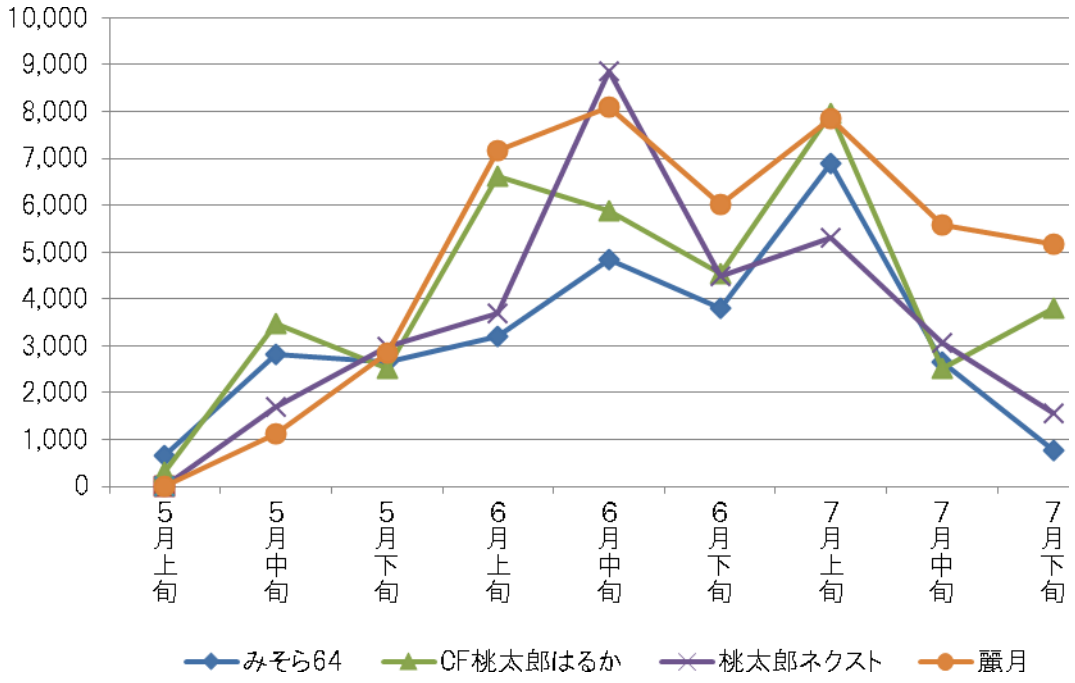


図１　月旬別収量（g）（5 株当たり）

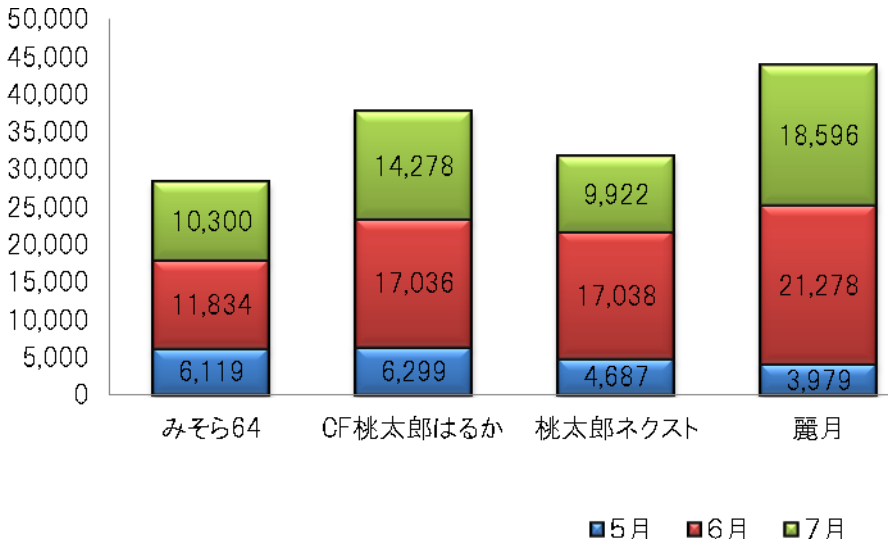


図２　月別収量（g）（5 株当たり）

施設野菜の部　No.6

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの抑制栽培における品種比較調査（新規：平成31年度～令和3年度）

１目的　トマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室8号（165㎡：約50坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和元年6月4日（72穴トレイ）
3)　定植月日　令和元年6月27日
（前作の栽培中にその株間に定植）
4)　育苗日数　24日
5)　栽植距離　ベッド幅100㎝、株間40㎝、2条植え
6)　定植株数　320株/棟
7)　施肥量　N-P-K=0.24-0.33-0.40kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.5kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：0.4kg/a
8)　使用資材　あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6月6日～9月29日）。
9)　収穫期間　令和元年8月30日～11月29日
10)　保温　内カーテン：9月29日～収穫終了日
11)　加温　温風暖房機（4℃設定）：11月16日～収穫終了日
12)　薬剤散布　28回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
13)　摘心　令和元年9月20日（6～7段）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　5区（1区10株、1区制）
2)　供試品種
〈1〉みそら64　（みかど協和㈱）
〈2〉ひなた　（みかど協和㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉りんか409　（㈱サカタのタネ）
〈5〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

収穫開始時の生育調査では、「桃太郎ネクスト」で草丈が最も高くなった。最も節間が短い草姿となったのは「ひなた」であった。茎径は「みそら64」で太かった。

摘心時の開花段数は、「みそら64」、「ひなた」で7段、その他の品種で6段であった。

病害虫については、ネコブセンチュウの発生を確認しており、地上部の生育に影響していたと思われる。

2)　収量

10a換算収量は「りんか409」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、9月では「麗月」、10月では「みそら64」、11月では「りんか409」であった。

3)　品質

平均1果重は「麗月」で大きくなった。上物率は「みそら64」、「ひなた」、「桃太郎ネクスト」で70％台、「りんか409」、「麗月」で60％台であった。10a換算上物収量は「みそら64」、「りんか409」で多くなった。

糖度は、生育期間を通して「桃太郎ネクスト」が高い傾向であった。

(2)　次年度以降の計画
継続

表１　生育調査（収穫開始時、10 株平均）

品種名	草丈 (cm)	葉数 (枚)	節間長 (cm)	葉長 (枚)	茎径 (mm)
みそら 64	195.1	25.0	7.8	48.6	12.1
ひなた	164.0	25.6	6.4	45.2	11.6
桃太郎ネクスト	195.7	22.2	8.8	49.7	10.4
りんか 409	153.1	21.6	7.1	44.3	10.9
麗月	163.7	19.7	8.3	45.1	9.4

表２　収量調査（10 株当たり）

品種名	上物		下物		合計	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
みそら 64	70	11,120	36	3,592	106	14,712
ひなた	56	9,287	28	2,690	84	11,978
桃太郎ネクスト	61	8,760	32	3,645	93	12,405
りんか 409	64	10,559	45	5,655	109	16,214
麗月	62	9,933	35	4,656	98	14,589

表２つづき

品種名	1 株換算収量(g)	平均 1 果重(g)	上物率 (%)	1 棟換算収量(kg)	10a 換算収量(t)	10a 換算上物収量(t)
みそら 64	1,471	138.3	75.6	471	2.9	2.2
ひなた	1,198	142.6	77.5	383	2.3	1.8
桃太郎ネクスト	1,240	133.7	70.6	397	2.4	1.7
りんか 409	1,621	149.0	65.1	519	3.1	2.0
麗月	1,459	149.5	68.1	467	2.8	1.9

※上物:A+B 品、下物:C+D+外品の合計。

※1 株換算収量=合計収量/10 株。平均 1 果重=合計収量/合計果数。上物率=上物収量/合計収量×100。

1 棟(165 ㎡)換算収量=1 株換算収量×定植株数(320 株)。10a 換算収量=1 棟換算収量/165 ㎡×1000 ㎡。

10a 換算上物収量=10a 換算収量×上物率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表３　糖度調査（Brix%）

品種名	9 月 24 日	10 月 28 日	11 月 25 日
みそら 64	4.9	4.9	4.7
ひなた	5.2	4.9	4.9
桃太郎ネクスト	5.0	5.5	5.8
りんか 409	4.3	4.7	5.2
麗月	4.9	5.3	5.0

※各測定日に収穫した５果当たりの平均値。

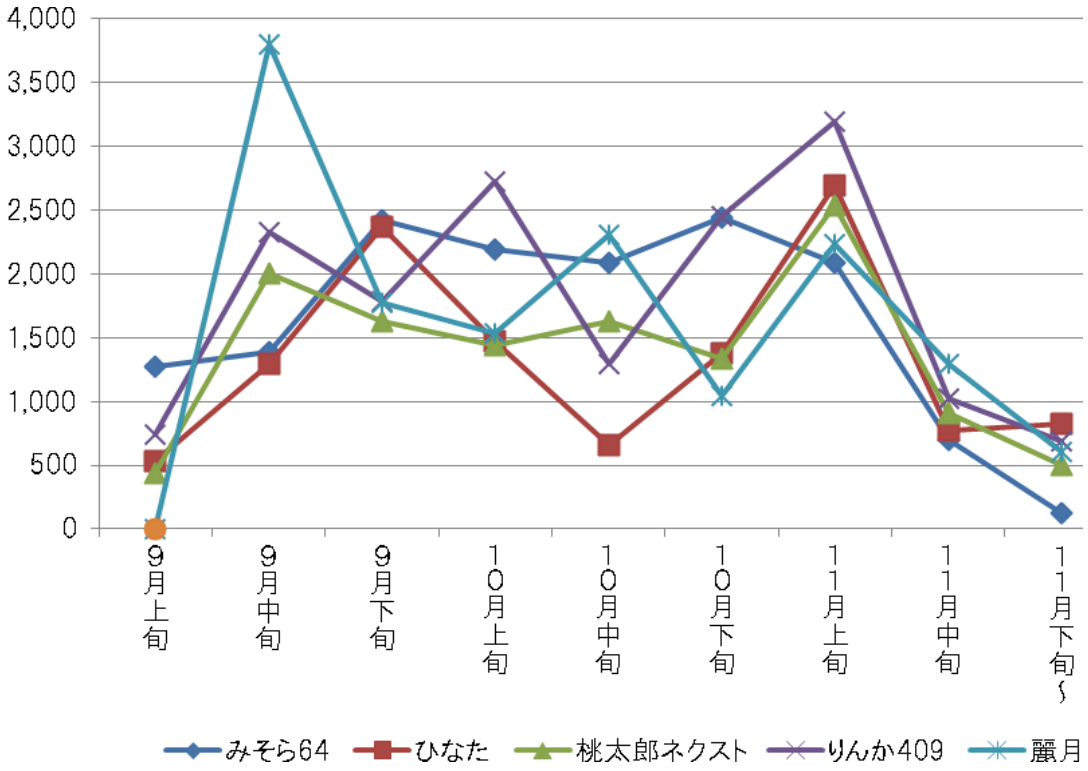


図１　月旬別収量（g）（10 株当たり）

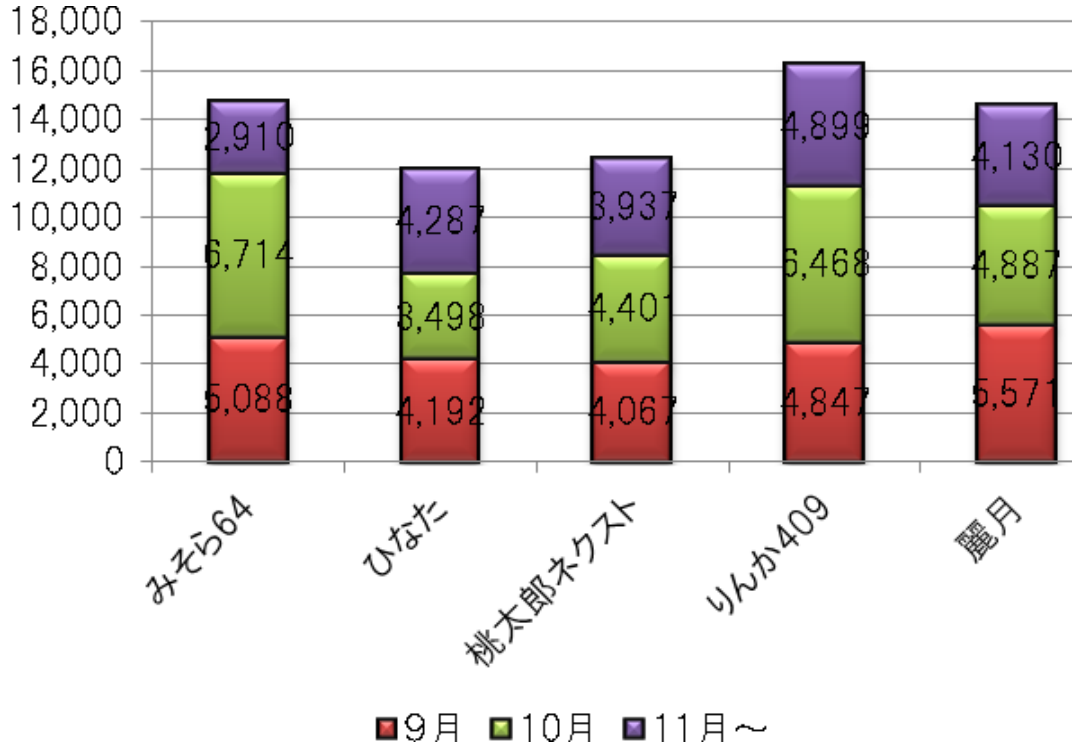


図２　月別収量（g）（10 株当たり）

施設野菜の部　No.7

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（新規：平成31年度～令和3年度）

１目的　ミニトマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス11号（99㎡：約30坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　平成30年12月21日（144穴トレイ）
3)　移植月日　平成31年1月15日（12㎝ポット）
4)　定植月日　平成31年2月22日
5)　育苗日数　66日
6)　栽植距離　ベッド幅100㎝、株間40㎝、2条植え
7)　定植株数　190株/棟
8)　施肥量　N-P-K=1.29-1.21-4.50kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：3.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：6.1kg/a
硫酸加里（K：50）：4.5kg/a
9)　使用資材　ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6月6日～収穫終了日）。
10)　収穫期間　平成31年4月22日～令和元年7月19日
11)　保温　内カーテン：定植日～平成31年3月29日、
12)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和元年5月15日
13)　薬剤散布　6回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
14)　摘心　令和元年5月20日

(3)　調査区の構成

1)　調査区　5区（1区5株、1区制）
2)　供試品種
〈1〉キャロル10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈4〉サンチェリーピュアプラス　(トキタ種苗㈱)
〈5〉サマー千果　(タキイ種苗㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

室温及び地温の確保が難しい状況となったことから、初期生育が緩慢となり、例年に比べ収量が低下する要因となった。

病害虫については、ネコブセンチュウの発生を確認しており、地上部の生育に影響していた。

2)　収量

10a 換算収量は「サンチェリーピュアプラス」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、5月は「サンチェリーピュア」、6月は「サマー千果」、7月は「サマー千果」であった。

3)
品質

平均1果重は「サマー千果」で最も大きくなり、「キャロル10」で最も小さくなった。上物率は「サンチェリーピュア」、「サンチェリーピュアプラス」で高くなり、「キャロルスター」で低くなった。10a換算上物収量は「サンチェリーピュアプラス」、「サ

マー千果」で高くなった。
糖度は、「キャロル 10」、「キャロルスター」で高い傾向が見られた。

(2)　次年度以降の計画
継続

表１　収量調査（5 株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	6	128	153	2,540	330	4,179	290	2,694	38	235
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	1	24	162	2,657	411	5,200	339	3,198	31	188
ｷｬﾛﾙ10	0	0	36	585	208	2,602	492	4,278	302	1,804
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	4	86	123	2,046	352	4,506	273	2,540	36	215
サマー千果	28	609	279	4,736	328	4,273	100	994	14	91

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計（上+下）		1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	LM率(%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	816	9,777	106	1,217	922	10,994	2,199	11.9	88.9	61.1
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	945	11,266	116	1,346	1,061	12,612	2,522	11.9	89.3	62.3
ｷｬﾛﾙ10	1,038	9,268	231	1,455	1,269	10,723	2,145	8.5	86.4	29.7
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	788	9,393	223	2,456	1,011	11,849	2,370	11.7	79.3	55.3
サマー千果	750	10,703	118	1,586	868	12,288	2,458	14.2	87.1	73.3

表2つづき

品種名	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	418	4.2	3.8
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	479	4.8	4.3
ｷｬﾛﾙ10	407	4.1	3.6
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	450	4.5	3.6
サマー千果	467	4.7	4.1

※上物：A品、下物：B品+外品。
※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。
上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。
1棟(99㎡)換算収量=1株換算収量×190株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/99㎡×1000㎡。
10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表２　糖度調査（Brix%）

	5月27日	6月26日
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	7.8	6.7
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	7.6	6.8
キャロル10	8.7	6.9
キャロルスター	8.1	7.1
サマー千果	7.5	6.7

※各測定日に収穫した５果当たりの平均値。

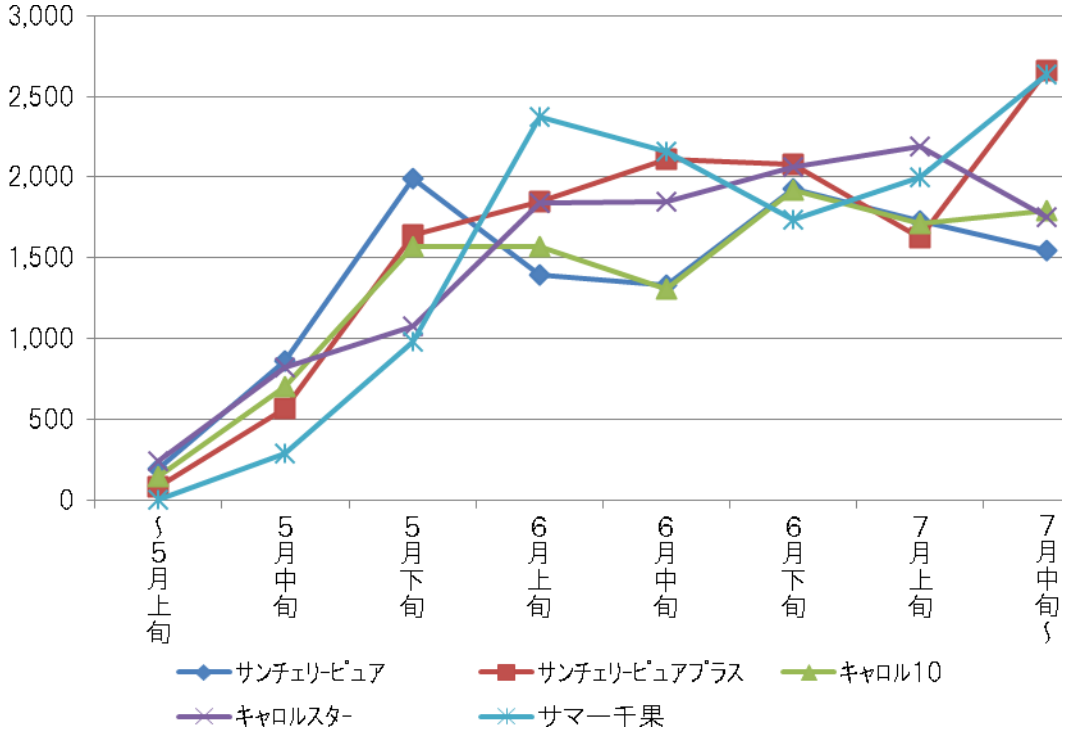


図１　月旬別収量（g）（5 株当たり）

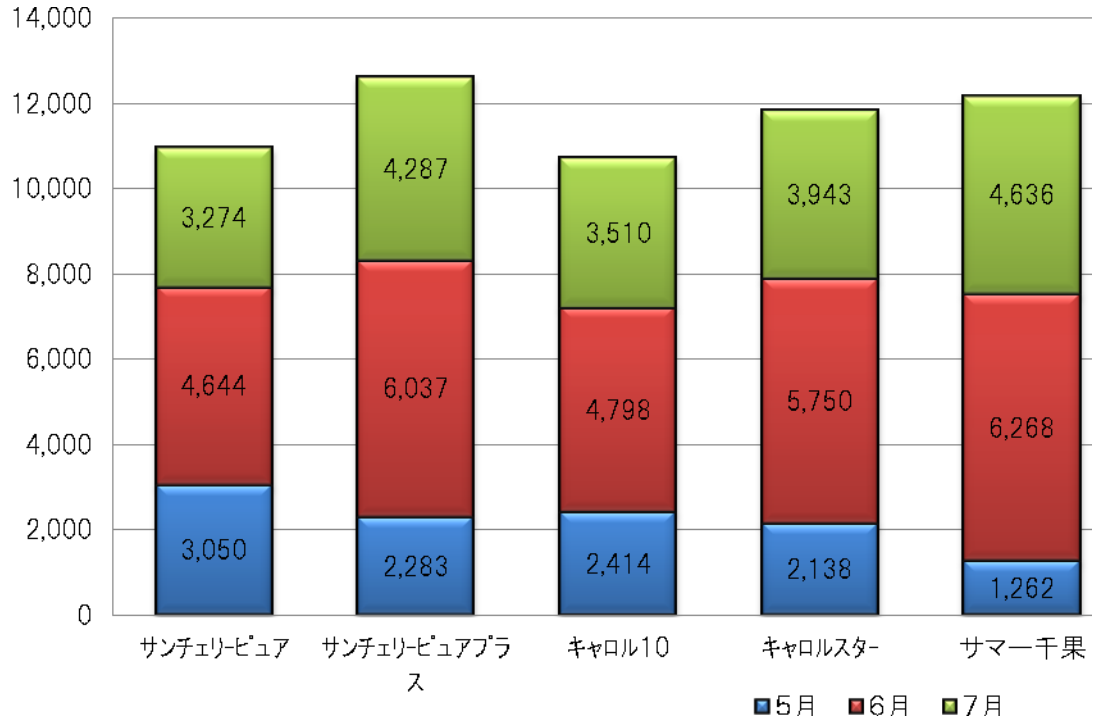


図２　月別収量（g）（5 株当たり）

施設野菜の部　No.8

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規：平成31年度～令和3年度）

１目的　ミニトマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス5号（132㎡：約40坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　平成31年2月26日（144穴トレイ）
3)　移植月日　平成31年3月15日（12㎝ポット）
4)　定植月日　平成31年4月12日
5)　育苗日数　45日
6)　栽植距離　ベッド幅100㎝、株間40㎝、2条植え
7)　定植株数　228株/棟
8)　施肥量　N-P-K=2.36-1.56-7.60kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、収穫開始～）：15.5kg/a
けい酸加里プレミア34（K:20%）：17.0kg/a
9)　使用資材　ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6月6日～9月26日）。
10)　収穫期間　令和元年6月3日～11月29日
11)　保温　内カーテン：定植日～令和元年5月15日、
9月26日～収穫終了日
12)　薬剤散布　34回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。
13)　摘心　令和元年9月20日

(3)　調査区の構成

1)　調査区　8区（1区5株、1区制）
2)　供試品種
〈1〉キャロル10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈4〉サンチェリーピュアプラス　(トキタ種苗㈱)
〈5〉サマー千果　(タキイ種苗㈱)
〈6〉アイラ　(㈱武蔵野種苗園)
〈7〉キャロルムーン　(㈱サカタのタネ)
〈8〉MKS-T833　(みかど協和㈱)

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

定植時の生育調査では、「サンチェリーピュア」、「キャロル10」で草丈が高くなり、「サマー千果」で最も低くなった。

収穫開始時の生育調査では、「サンチェリーピュア」で草丈が最も高くなり、「MKS-T833」で最も低くなった。最も節間が短い草姿となったのは「MKS-T833」であった。

病害虫の発生は見られなかった。

2)　収量

10a換算収量は「サマー千果」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、6月は「MKS-T833」、7月は「サマー千果」、8月は「サンチェリーピュア」、9月は「サマー千果」、10月以降は「MKS-T833」であった。

7月下旬から8月上旬の高温等の影響により、秋季以降の収量が伸びず、前年と比較し、各品種とも10a換算収量で15～25%程度の減収となった。

3)　品質

平均１果重は「サマー千果」で最も大きくなり、「アイラ」で最も小さくなった。上物率は「サンチェリーピュア」、「キャロルスター」で高くなり、「キャロル 10」で低くなった。10a 換算上物収量は「サマー千果」、「サンチェリーピュア」、「キャロルスター」で高くなり、7t を超える上物収量となった。

糖度は、「キャロルスター」、「MKS-T833」で収穫期間を通して高い傾向が見られた。

(2)　次年度以降の計画

継続

表１　生育調査（5 株平均）

品種名		草丈 (cm)	葉数 (枚)	第１果房の節位	節間長 (cm)	葉長 (cm)	茎径 (mm)
キャロル 10	定植時	58.8	9.0	7.2	－	28.4	7.6
	収穫開始時	199.4	24.0	－	8.3	32.8	10.1
キャロルスター	定植時	50.8	7.4	5.4	－	29.4	7.3
	収穫開始時	166.6	22.4	－	7.4	36.2	9.9
サンチェリーピュア	定植時	60.2	7.0	5.0	－	29.0	8.2
	収穫開始時	203.2	25.8	－	7.9	36.2	10.3
サンチェリーピュアプラス	定植時	52.2	8.4	7.2	－	31.0	8.6
	収穫開始時	170.4	22.6	－	7.5	40.0	10.6
サマー千果	定植時	44.2	8.2	7.0	－	28.6	8.3
	収穫開始時	176.0	21.4	－	8.2	35.2	9.1
アイラ	定植時	52.6	8.8	7.0	－	29.2	8.2
	収穫開始時	167.2	23.4	－	7.1	40.4	10.5
キャロルムーン	定植時	47.2	8.8	7.4	－	31.6	8.2
	収穫開始時	153.2	20.4	－	7.5	44.2	9.2
MKS-T833	定植時	45.0	7.0	6.0	－	25.6	8.2
	収穫開始時	145.4	22.4	－	6.5	47.0	11.5

表２　収量調査（5株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)
キャロル10	98	2,341	260	4,534	449	5,762	279	2,561	60	363
キャロルスター	86	1,946	487	8,585	546	7,141	239	2,235	43	271
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	44	964	404	7,114	589	7,483	485	4,527	76	460
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	88	2,071	493	8,549	410	5,376	137	1,321	13	82
サマー千果	176	4,145	626	11,236	362	4,819	95	894	21	127
アイラ	5	122	168	2,885	381	4,831	814	7,134	206	1,240
キャロルムーン	53	1,179	318	5,513	401	5,125	414	3,921	119	735
MKS-T833	41	923	443	7,796	506	6,513	282	2,610	45	286

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計（上+下）		1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	LM率(%)
	果数	収量(ｇ)	果数	収量(ｇ)	果数	収量(g)				
キャロル10	1,146	15,561	487	6,205	1,633	21,766	4,353	13.3	71.5	47.3
キャロルスター	1,401	20,178	214	2,723	1,615	22,901	4,580	14.2	88.1	68.7
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	1,598	20,548	208	2,510	1,806	23,058	4,612	12.8	89.1	63.3
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	1,141	17,399	258	4,107	1,399	21,506	4,301	15.4	80.9	64.7
サマー千果	1,280	21,221	252	3,911	1,532	25,132	5,026	16.4	84.4	63.9
アイラ	1,574	16,212	463	4,181	2,037	20,393	4,079	10.0	79.5	37.8
キャロルムーン	1,305	16,473	404	4,678	1,709	21,151	4,230	12.4	77.9	50.3
MKS-T833	1,317	18,128	276	3,309	1,593	21,437	4,287	13.5	84.6	66.7

表2つづき

品種名	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
キャロル10	993	7.5	5.4
キャロルスター	1,044	7.9	7.0
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	1,051	8.0	7.1
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	981	7.4	6.0
サマー千果	1,146	8.7	7.3
アイラ	930	7.0	5.6
キャロルムーン	964	7.3	5.7
MKS-T833	978	7.4	6.3

※上物：A品、下物：B品+外品。
※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。
　上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。
　1棟換算収量=1株換算収量×228株(定植株数)。10a換算収量=1棟換算収量/132㎡×1000㎡。
　10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表３　糖度調査（Brix%）

	6月26日	7月24日	8月23日	9月24日	10月28日
キャロル10	6.4	7.1	7.1	6.1	6.7
キャロルスター	7.1	8.4	7.3	6.9	7.5
サンチェリーピュア	6.2	6.8	6.2	6.4	6.3
サンチェリーピュアプラス	6.5	7.2	6.5	7.4	6.2
サマー千果	7.2	8.1	7.6	6.9	6.8
アイラ	6.4	8.0	6.2	7.2	6.7
キャロルムーン	6.4	7.9	6.9	6.9	6.5
MKS-T833	7.0	8.6	8.1	6.6	7.1

※各測定日に収穫した５果当たりの平均値。

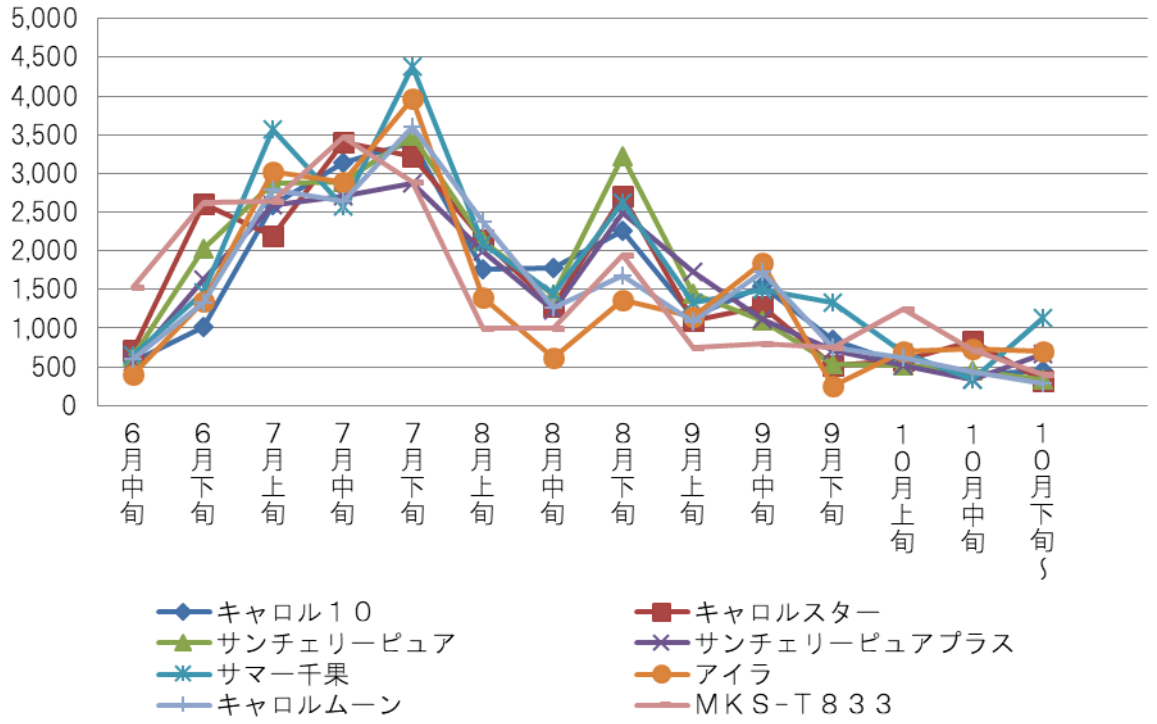


図１　月旬別収量（g）（5 株当たり）

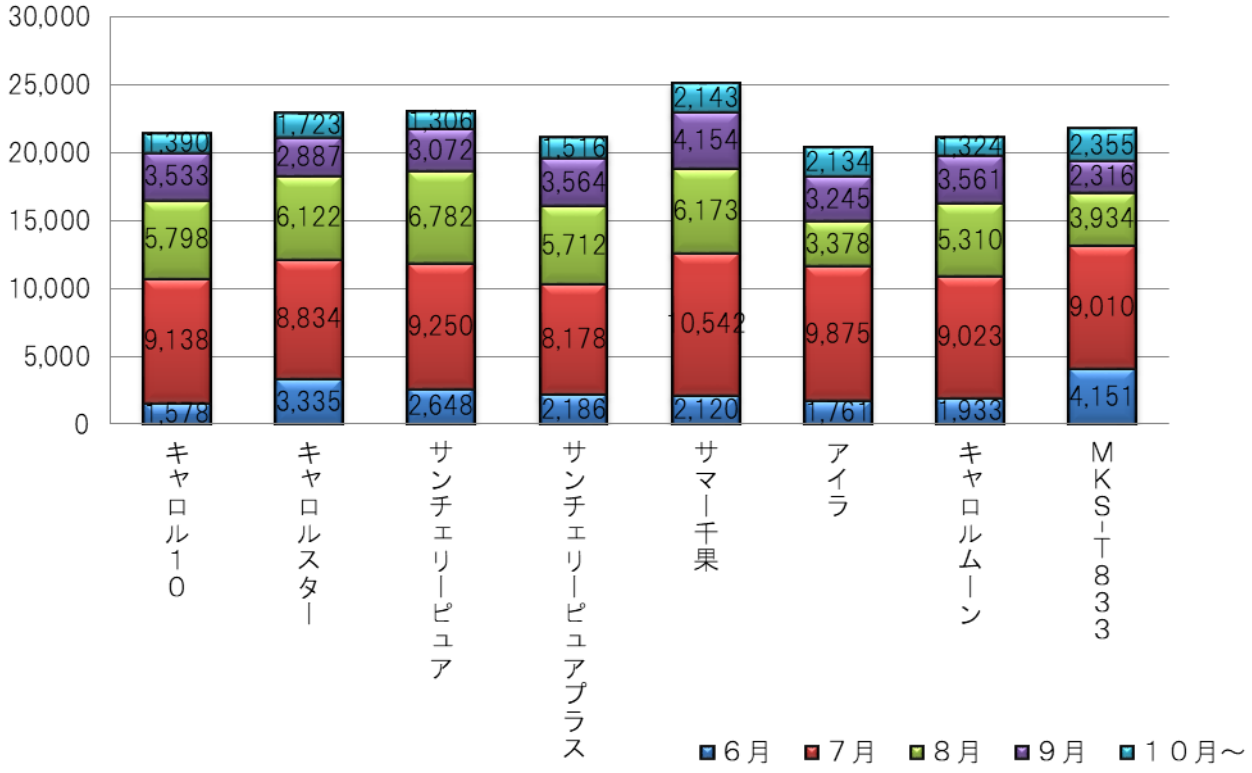


図２　月別収量（g）（5 株当たり）

施設野菜の部　No.9

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査（新規：平成31年度～令和3年度）

１目的　ミニトマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス11号（99㎡：約30坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培

2)　は種月日　令和元年6月4日（72穴トレイ）

3)　定植月日　令和元年6月27日
（前作の栽培中にその株間に定植）

4)　育苗日数　24日

5)　栽植距離　ベッド幅100㎝、株間40㎝、2条植え

6)　定植株数　190株/棟

7)　施肥量　N-P-K=0.30-0.38-0.52kg/a
【肥料】大塚養液土耕5号（12-20-20、～収穫前）：1.6kg/a
大塚養液土耕2号（14-8-25、～収穫開始）：0.8kg/a

8)　使用資材　あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の高温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6月6日～9月29日）。

9)　収穫期間　令和元年9月2日～11月29日

10)　保温　内カーテン：9月29日～収穫終了日

11)　加温　温風暖房機（4℃設定）：11月16日～収穫終了日

12)　薬剤散布　24回（成分回数）
※うね毎に1本、株上にラノーテープ剤を設置。

13)　摘心　令和元年9月20日（7～8段）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　6区（1区5株、1区制）

2)　供試品種
〈1〉サンチェリーピュア　（トキタ種苗㈱）
〈2〉サンチェリーピュアプラス　（トキタ種苗㈱）
〈3〉キャロル10　（㈱サカタのタネ）
〈4〉キャロルスター　（㈱サカタのタネ）
〈5〉サマー千果　（タキイ種苗㈱）
〈6〉アイラ　（㈱武蔵野種苗園）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育

収穫開始時の生育調査では、「サンチェリーピュア」で最も草丈が高くなり、「サンチェリーピュアプラス」で最も低くなった。「サンチェリーピュアプラス」、「サマー千果」、「アイラ」で節間が短い草姿となった。茎径は「キャロル10」で最も太くなった。

病害虫については、ネコブセンチュウの発生を確認しており、地上部の生育に影響していたと思われる。

2)　収量

10a換算収量は「サマー千果」で最も多くなった。月別収量で最も多かったのは、9月では「キャロル10」、10月では「サマー千果」、11月では「キャロルスター」であった。

3)　品質

平均1果重は「サマー千果」で最も大きくなり、「キャロル10」で最も小さくなった。上物率で最も高かったのは「キャロルスター」であった。10a換算上物収量は「サマー千果」で最も多くなった。

糖度は、生育期間を通して「キャロルスター」が高い傾向であった。

(2)　次年度以降の計画

継続

表１　生育調査（収穫開始時、５株平均）

品種名	草丈 (cm)	葉数 (枚)	節間長 (cm)	葉長 (枚)	茎径 (mm)
サンチェリーピュア	200.4	23.4	8.6	30.6	8.7
サンチェリーピュアプラス	160.6	22.0	7.3	41.6	10.0
キャロル10	197.4	23.2	8.5	41.2	10.9
キャロルスター	187.2	23.0	8.1	35.2	9.5
サマー千果	176.8	24.2	7.3	43.8	10.2
アイラ	176.2	24.0	7.3	36.2	8.5

表２　収量調査（5株当たり）

品種名	2L(21g以上)		L(15～21g未満)		M(11～15g未満)		S(7～11未満)		2S(5～7g)	
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	0	0	39	632	207	2,604	188	1,710	52	326
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	0	0	38	641	165	2,034	107	994	21	126
ｷｬﾛﾙ10	0	0	50	830	150	1,895	299	2,610	145	862
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	35	793	158	2,799	142	1,839	71	642	11	70
サマー千果	67	1,548	218	3,861	105	1,387	46	413	14	87
アイラ	0	0	59	970	190	2,435	120	1,132	24	145

表2つづき

品種名	上物小計		下物		合計（上+下）		1株換算収量(g)	平均1果重(g)	上物率(%)	LM率(%)
	果数	収量(g)	果数	収量(g)	果数	収量(g)				
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	486	5,273	47	381	533	5,654	1,131	10.6	93.3	57.3
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	332	3,794	81	1,087	413	4,881	976	11.8	77.7	54.8
ｷｬﾛﾙ10	645	6,197	146	789	791	6,986	1,397	8.8	88.7	39.0
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	417	6,142	60	373	477	6,515	1,303	13.7	94.3	71.2
サマー千果	449	7,296	46	641	495	7,937	1,587	16.0	91.9	66.1
アイラ	393	4,683	68	791	461	5,474	1,095	11.9	85.5	62.2

表2つづき

品種名	1棟換算収量(kg)	10a換算収量(t)	10a換算上物収量(t)
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱ	215	2.2	2.0
ｻﾝﾁｪﾘｰﾋﾟｭｱﾌﾟﾗｽ	185	1.9	1.5
ｷｬﾛﾙ10	265	2.7	2.4
ｷｬﾛﾙｽﾀｰ	248	2.5	2.4
サマー千果	302	3.0	2.8
アイラ	208	2.1	1.8

※上物：A品、下物：B品+外品。
※1株換算収量=合計収量/5株。平均1果重=合計収量/合計果数。
上物率=上物収量/合計収量。LM率=(L品収量+M品収量)/合計収量。
1棟換算収量=1株換算収量×190株(定植株数)。10a換算収量=10a換算収量/99㎡×1000㎡。
10a換算上物収量=10a換算収量×上物率。
※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表３　糖度調査（Brix%）

品種名	9月24日	10月28日	11月25日
サンチェリーピュア	6.4	7.0	7.4
サンチェリーピュアプラス	6.9	6.0	6.2
キャロル10	6.6	7.8	7.8
キャロルスター	7.4	8.0	8.4
サマー千果	7.0	6.6	7.0
アイラ	6.0	6.8	6.9

※各測定日に収穫した5果当たりの平均値。

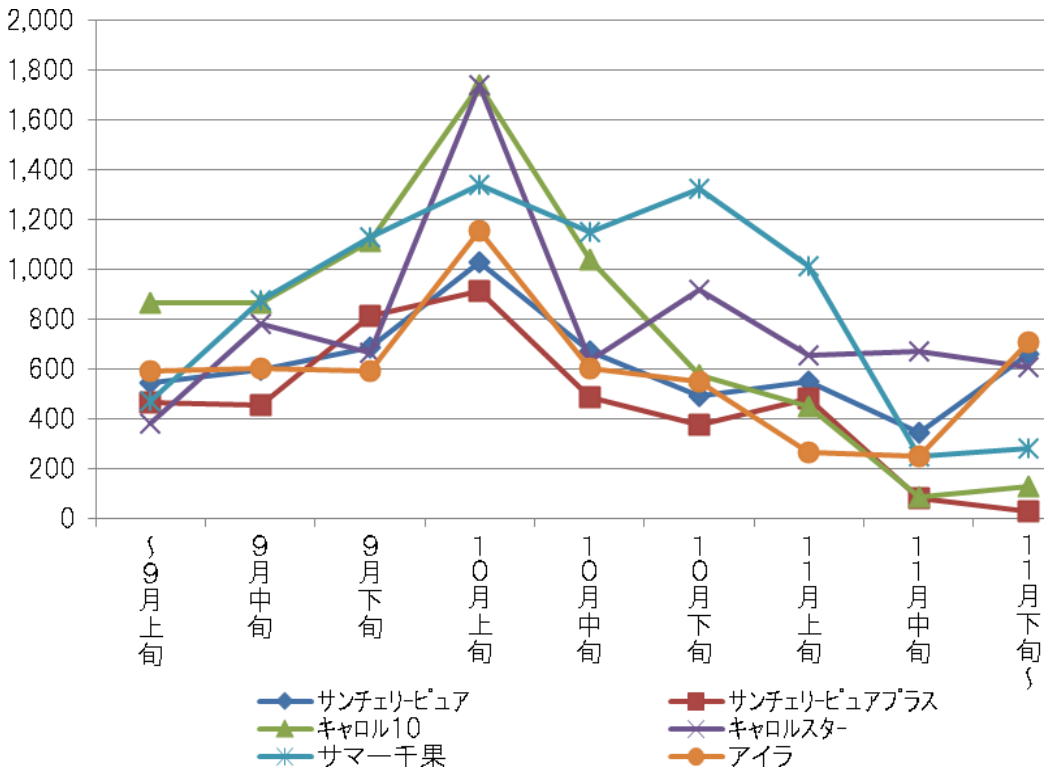


図１　月旬別収量（g）（5 株当たり）

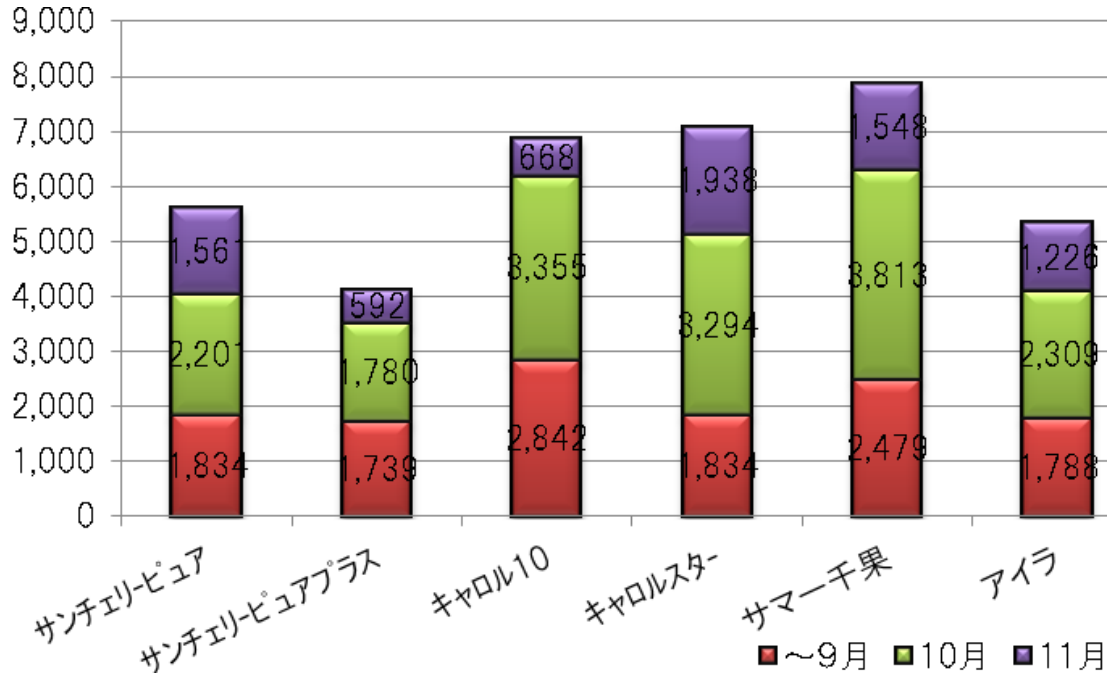


図２　月別収量（g）（5 株当たり）

2-3 調査成績（露地野菜）

露地野菜の部　№1

項目：品種比較調査
調査名：ねぎの品種比較調査（継続：平成 29 年度～平成 31 年度）

１目的　当地域におけるねぎの作型別適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調　査　場　所　　露地ほ場

(2)　耕　種　概　要

1)　育　苗　方　法　　チェーンポット CP-303（264 穴）2 粒播き

2)　は種及び定植月日　　〈は　種〉　　〈定　植〉
7 月収穫　：平成 31 年 1 月 7 日　　平成 31 年 3 月 20 日
9 月収穫　：平成 31 年 3 月 28 日　　令和元年 5 月 14 日

3)　栽　植　距　離　　うね幅 100 ㎝、株間 5 ㎝（2 粒播き）

4)　定　植　株　数　　40,000 本/10a

5)　施　　肥　　量　　N-P-K=18.0-18.0-18.0 kg/10a
【基肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a
【追肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a×2 回

6)　収　穫　月　日　　7 月収穫　：令和元年 7 月 29 日
9 月収穫　：令和元年 9 月 18 日

7)　薬　剤　散　布　　7 月収穫　：18 回（成分回数）
9 月収穫　：35 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調　　査　　区　　15 区（1 区 40 本（1.0m）、1 区制）

2)　供　試　品　種

7 月どり	9 月どり	メーカー名
夏扇パワー	夏扇パワー 夏扇タフナー	㈱サカタのタネ
UE-113	UE-111	横浜植木㈱
夏秋白扇 5 号	夏秋白扇 5 号	吉田種苗㈱
みちのく 701 はやぶさ 7	みちのく 701 №エイト かがやき 801	㈱パセリー菜
夏の宝山	夏の宝山	みかど協和㈱
	森の奏で	トキタ種苗㈱

(4)　調　査　項　目　　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　前年度の結果

作型別に有望と考えられる品種は次のとおりであった。
7 月収穫　・・・「みちのく 701」
9 月収穫　・・・「夏扇パワー」

(2)　本年度の結果

1) 生育

（7 月収穫：3/20 定植～7/29 収獲）

6 月後半から 7 月前半にかけての低温や日照不足の影響により生育が停滞し、その後の天候回復により生育は回復傾向となり、7 月末の収穫となった。

病害についてはべと病が発生し、虫害ではハモグリバエ類が散見されたが、収穫時には大きな影響はなかった。

（9 月収穫：5/14 定植～9/18 収獲）

6 月後半から 7 月前半にかけての低温や日照不足の影響により生育が停滞し、7 月後半以降は高温少雨の傾向となり草丈の伸長が遅れ気味となった。

病害については軟腐病及び葉枯病が発生し、虫害ではハモグリバエ類、ネギアザミウマによる被害が見られた。

2) 収量及び品質

（7 月収穫：3/20 定植～7/29 収獲）

調整重は「みちのく 701」、「夏扇パワー」の順に大きく、また、10a 換算販売箱数も「みちのく 701」、「夏扇パワー」の順に多い結果となった。

Ａ品率は「夏扇パワー」「UE-113」「はやぶさ 7」の順に高い結果となった。落等の要因としては裂皮や曲がりによるものが多くみられた。

（9 月収穫：5/14 定植～9/18 収獲）

調整重は「みちのく 701」、「夏扇パワー」、「夏秋白扇 5 号」の順に大きく、また、10a 換算販売箱数は「みちのく 701」、「かがやき 801」、「夏秋白扇 5 号」の順に多い結果となった。

Ａ品率は「夏秋白扇 5 号」、「夏扇パワー」、「№エイト」の順に高い結果となった。落等の要因としては裂皮や曲がりによるものが多く見られた。

以上より、今年度の調査で、10a 換算販売箱数の点から作型別に有望と考えられる品種は次のとおりであった。

7 月収穫 ・・・「みちのく 701」

9 月収穫 ・・・「みちのく 701」

(3) 調査 3 箇年の結果

「夏扇パワー」、「みちのく 701」、「夏秋白扇 5 号」は比較的収量が安定しているが、7 月収穫では収量の多い「みちのく 701」、9 月以降の収穫では「夏扇パワー」、「みちのく 701」がより数量が多く安定しており有望と考えられた。

(4) 次年度以降の計画

完了

表１　収量調査

収穫日	品種名	全長 (cm)	調整重 (g)	分枝点長 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	2L,L品率(%)	A品率(%)	10a換算収量 (kg/10a)	うち外品	10a換算販売箱数	調査本数
7/29	夏扇パワー	101.0	153.0	44.6	29.9	20.3	91.8	94.2	5,048	0	962	33
	UE-113	126.8	129.6	43.2	30.6	20.5	93.9	93.9	4,923	0	938	38
	夏秋白扇5号	105.6	148.0	46.9	33.1	20.7	97.0	91.8	4,883	150	902	33
	みちのく701	102.2	157.1	42.8	30.0	20.6	94.4	87.6	5,657	58	1,066	36
	はやぶさ7	92.8	137.1	39.8	29.3	20.2	84.3	92.1	4,800	0	914	35
	夏の宝山	96.9	128.0	42.9	30.1	19.3	90.5	84.8	4,481	36	846	35
9/18	夏扇パワー	118.2	148.3	43.4	33.6	20.6	90.2	90.3	4,747	183	869	32
	夏扇タフナー	85.2	115.1	41.5	33.1	19.1	86.8	81.1	4,258	0	811	37
	UE-111	101.2	123.8	46.6	33.6	20.0	94.0	83.6	4,087	122	755	33
	夏秋白扇5号	93.6	142.2	43.8	32.7	19.3	86.2	91.6	5,269	144	976	37
	みちのく701	91.1	163.3	44.0	32.0	21.1	87.6	80.5	5,390	0	1,027	33
	№エイト	82.9	125.7	40.8	33.1	20.6	87.1	90.0	4,525	0	862	36
	かがやき801	89.5	139.8	42.3	33.1	20.9	97.0	88.9	5,174	0	986	36
	夏の宝山	84.7	132.2	39.9	32.3	20.8	85.1	87.9	4,231	0	806	32
	森の奏で	82.3	118.0	38.2	31.1	19.6	79.0	86.3	3,893	0	742	33

※10a 換算収量＝調整後 1 本重×調査本数×1000。10a 換算販売箱数は表 2 参照。

表 2　等級規格別割合及び 10a 換算出荷箱数

○等級規格別割合(%)

収穫日	品種名	A					B			外品
		3L	2L	L	M	S	2L	L	M	
7/29	夏扇パワー	0.0	15.3	70.7	8.2	0.0	3.2	2.5	0.0	0.0
	UE-113	0.0	38.6	49.2	6.1	0.0	0.0	4.8	1.4	0.0
	夏秋白扇5号	0.0	36.7	55.1	0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	3.1
	みちのく701	0.0	36.5	44.4	6.8	0.0	3.3	8.1	0.0	1.0
	はやぶさ7	0.0	23.0	61.3	7.8	0.0	0.0	0.0	7.9	0.0
	夏の宝山	0.0	3.3	72.8	8.7	0.0	2.5	11.9	0.0	0.8
9/18	夏扇パワー	0.0	44.6	42.1	3.6	0.0	3.5	0.0	2.4	3.9
	夏扇タフナー	0.0	6.6	63.5	10.9	0.0	0.0	16.7	2.2	0.0
	UE-111	0.0	40.1	40.5	3.0	0.0	3.8	9.6	0.0	3.0
	夏秋白扇5号	0.0	30.8	49.8	11.0	0.0	0.0	5.7	0.0	2.7
	みちのく701	0.0	37.9	35.8	6.8	0.0	5.7	8.1	5.7	0.0
	№エイト	0.0	32.6	46.1	11.2	0.0	0.0	8.4	1.6	0.0
	かがやき801	0.0	24.5	62.4	2.0	0.0	2.9	8.1	0.0	0.0
	夏の宝山	0.0	36.4	41.4	10.0	0.0	3.6	3.6	4.8	0.0
	森の奏で	0.0	30.7	39.1	12.5	4.0	4.8	4.5	4.4	0.0

※重量ベースで積算。割合の合計が 100 とならないのは四捨五入のため。

○等級規格別 10a 換算出荷箱数

収穫日	品種名	A					B			10a換算販売箱数
		3L	2L	L	M	S	2L	L	M	
7/29	夏扇パワー	0	147	680	79	0	31	24	0	962
	UE-113	0	362	462	57	0	0	45	13	938
	夏秋白扇5号	0	341	513	0	0	0	48	0	902
	みちのく701	0	393	478	73	0	35	87	0	1,066
	はやぶさ7	0	210	561	71	0	0	0	73	914
	夏の宝山	0	28	621	74	0	21	102	0	846
9/18	夏扇パワー	0	403	381	33	0	31	0	22	869
	夏扇タフナー	0	54	515	89	0	0	136	18	811
	UE-111	0	312	315	23	0	29	75	0	755
	夏秋白扇5号	0	309	499	111	0	0	57	0	976
	みちのく701	0	390	367	70	0	59	83	59	1,027
	№エイト	0	281	398	97	0	0	72	14	862
	かがやき801	0	242	615	19	0	29	80	0	986
	夏の宝山	0	294	334	81	0	29	29	39	806
	森の奏で	0	227	290	93	30	35	33	33	742

※出荷箱数＝10a 換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。各項目の合計と 10a 換算販売箱数が一致しないのは四捨五入のため。

表 3　平成 29～30 年度の結果

○　平成 29 年収量調査

収穫	品種名	全長 (cm)	調整重 (g)	分枝点長 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	2L,L品率(%)	A品率(%)	10a換算収量(kg)	外品 (kg/10a)	10a換算販売箱数	調査本数
7/20	夏扇パワー	96.2	140.2	43.0	27.2	17.9	80.3	80.1	4,486	0	855	32
	初夏扇	96.8	143.2	42.1	27.9	17.6	82.4	82.6	4,869	0	927	34
	龍まさり	94.1	135.5	41.1	28.1	16.2	70.6	64.3	4,201	0	800	31
	UE-113	96.1	136.2	43.3	26.6	15.9	75.5	62.3	4,631	0	882	34
	夏秋白扇5号	95.3	138.5	41.5	27.6	15.9	79.3	62.2	4,848	0	923	35
	みちのく701	94.2	143.3	42.2	27.8	17.5	73.5	70.4	4,872	0	928	34
	夏の宝山	89.0	136.6	38.2	26.8	16.9	73.2	70.4	4,781	0	911	35
9/29	夏扇パワー	99.2	145.5	44.3	32.0	18.9	77.5	79.7	5,093	34	970	35
	初夏扇	99.1	140.9	43.1	32.1	18.8	77.2	78.9	5,354	47	1,020	38
	SK2-038	96.3	140.2	43.9	31.1	17.8	77.6	78.1	4,486	55	855	32
	龍まさり	93.2	130.2	42.2	32.2	17.9	70.1	65.5	4,166	288	794	32
	UE-113	92.2	134.4	43.1	32.2	17.7	72.1	64.3	4,301	322	819	32
	UE-111	94.2	139.8	41.1	30.5	18.5	73.3	65.5	4,753	343	905	34
	夏秋白扇5号	99.4	141.1	42.2	31.2	19.1	72.2	78.5	4,797	130	914	34
	みちのく701	98.1	138.9	40.9	31.1	19.0	74.2	75.5	5,139	25	979	37
	№エイト	89.2	145.1	38.1	30.9	19.5	78.8	80.3	5,514	96	1,050	38
	夏の宝山	92.1	139.9	39.1	31.1	19.2	74.2	72.2	4,897	89	933	35
	森の奏で	89.1	135.5	40.0	30.8	17.5	68.3	69.9	4,743	322	903	35
	関羽一本太	89.9	131.1	39.5	31.2	17.0	67.4	64.5	4,457	353	849	34
11/1	夏扇パワー	97.2	145.1	44.4	32.2	18.9	77.2	88.3	5,079	44	967	35
	初夏扇	97.7	143.2	45.1	31.1	17.1	71.9	83.3	4,726	48	900	33
	SK2-038	96.6	143.3	43.3	30.9	17.5	73.3	84.5	4,872	88	928	34
	龍まさり	95.5	140.2	43.2	30.9	16.9	72.1	72.2	4,627	140	881	33
	UE-113	95.4	138.8	41.5	30.8	16.5	69.7	75.5	4,858	145	925	35
	UE-111	97.6	133.4	41.2	30.8	17.1	70.1	80.1	4,802	180	915	36
	夏秋白扇5号	97.4	149.8	43.3	30.5	18.0	72.3	89.3	5,543	50	1,056	37
	みちのく701	96.9	153.2	44.5	30.9	18.8	78.8	88.4	5,056	89	963	33
	№エイト	88.8	155.6	39.9	31.1	19.0	79.9	92.4	5,602	41	1,067	36
	夏の宝山	89.3	140.1	40.1	31.1	17.7	73.2	87.7	4,763	93	907	34
	森の奏で	89.2	138.7	42.1	30.1	16.2	69.2	84.3	4,993	133	951	36
	関羽一本太	87.3	130.9	38.5	29.6	16.4	68.3	70.9	4,712	250	898	36

○　平成 30 年収量調査

収穫日	品種名	全長 (cm)	調整重 (g)	分枝点長 (cm)	軟白長 (cm)	軟白径 (mm)	2L,L品率(%)	A品率(%)	10a換算収量 (kg/10a)	うち外品	10a換算販売箱数	調査本数
7/23	夏扇パワー	101.0	129.9	41.7	26.6	19.0	76.5	75.6	4,936	73	927	38
	初夏扇	98.4	123.3	40.2	26.6	18.6	73.8	87.4	4,562	0	869	37
	UE-113	103.5	131.2	43.3	26.7	19.1	82.6	86.6	4,986	135	924	38
	夏秋白扇5号	99.6	133.6	42.1	26.8	19.7	88.0	86.5	4,943	0	942	37
	みちのく701	101.7	133.4	41.5	26.4	19.8	91.5	86.8	5,069	0	966	38
	夏の宝山	92.8	128.8	39.2	26.0	19.6	94.7	83.0	4,637	36	876	36
9/20	夏扇パワー	97.7	163.0	44.0	32.0	21.1	85.3	76.5	6,194	235	1,135	38
	初夏扇	93.7	127.0	42.9	33.0	19.3	76.3	72.2	4,572	226	828	36
	夏扇タフナー	88.7	135.8	42.0	32.5	19.8	87.7	84.5	4,889	32	925	36
	UE-111	107.0	133.4	47.6	33.2	19.1	77.0	83.5	5,069	118	943	38
	夏秋白扇5号	98.1	164.5	45.1	33.4	21.3	87.0	85.6	5,593	98	1,047	34
	みちのく701	97.6	162.4	45.3	34.0	21.7	95.2	84.4	5,526	157	1,022	34
	№エイト	87.5	148.4	40.6	32.6	21.6	92.3	85.3	5,342	114	996	36
	夏の宝山	88.1	139.8	41.8	32.6	20.3	90.2	86.4	5,033	167	927	36
	森の奏で	87.3	134.1	40.6	32.6	20.3	90.6	81.6	5,230	126	972	39
10/23	夏扇パワー	100.2	167.1	44.2	34.4	20.9	92.6	88.9	5,849	167	1,082	35
	初夏扇	100.0	137.2	43.2	32.0	20.9	93.1	89.0	4,802	118	892	35
	夏扇タフナー	95.1	125.2	44.0	34.1	19.2	73.0	93.9	4,632	168	850	37
	UE-111	112.3	148.3	50.5	32.7	21.4	96.0	83.3	5,191	118	966	35
	夏秋白扇5号	98.3	160.3	43.8	31.6	20.6	90.9	82.7	5,771	116	1,077	36
	みちのく701	100.9	161.5	45.5	31.6	20.6	87.4	82.0	5,814	108	1,087	36
	№エイト	88.5	153.7	39.0	32.1	22.1	95.4	82.9	5,533	49	1,045	36
	夏の宝山	92.4	140.5	42.1	32.6	21.1	96.2	84.4	5,199	102	971	37
	森の奏で	88.4	137.5	43.5	32.8	19.6	83.3	82.1	4,675	90	873	34

※10a 換算収量＝調整後 1 本重×調査本数×1000。10a 換算販売箱数は表 2 参照。

○平成 29 年等級規格別割合(%)

収穫日	品種名	A				B		
		2L	L	M	S	2L	L	M
7/20	夏扇パワー	0.0	76.6	3.5	0.0	0.0	3.7	16.2
	初夏扇	0.0	75.5	7.1	0.0	0.0	6.9	10.5
	龍まさり	0.0	55.2	9.1	0.0	0.0	15.4	20.3
	UE-113	0.0	55.4	6.9	0.0	0.0	20.1	17.6
	夏秋白扇5号	0.0	60.1	2.1	0.0	0.0	19.2	18.6
	みちのく701	0.0	63.3	7.1	0.0	0.0	10.2	19.4
	夏の宝山	0.0	62.2	8.2	0.0	0.0	11.0	18.6
9/29	夏扇パワー	11.7	48.9	19.1	0.0	0.0	16.9	3.4
	初夏扇	10.8	49.1	19.0	0.0	0.0	17.3	3.8
	SK2-038	2.4	56.4	19.3	0.0	0.0	18.8	3.1
	龍まさり	0.0	44.9	20.6	0.0	0.0	25.2	9.3
	UE-113	0.0	46.8	16.4	1.1	0.0	25.3	10.4
	UE-111	0.0	48.8	14.0	2.7	0.0	24.5	10.0
	夏秋白扇5号	7.7	51.3	19.5	0.0	0.0	13.2	8.3
	みちのく701	0.0	60.2	15.3	0.0	0.0	14.0	10.5
	№エイト	12.8	48.7	18.8	0.0	0.0	17.3	2.4
	夏の宝山	0.0	54.4	15.6	2.2	0.0	19.8	8.0
	森の奏で	0.0	48.9	19.5	1.5	0.0	19.4	10.7
	関羽一本太	0.0	44.5	13.0	7.0	0.0	22.9	12.6
11/1	夏扇パワー	12.8	55.3	10.9	9.3	0	9.1	2.6
	初夏扇	12.2	50.1	17.5	3.6	0	9.7	6.9
	SK2-038	5.0	55.4	18.8	5.3	0	12.9	2.6
	龍まさり	3.4	52.2	14.4	2.2	0	16.5	11.3
	UE-113	4.9	45.2	15.5	9.9	0	19.6	4.9
	UE-111	8.2	50.3	18.3	3.3	0	11.6	8.3
	夏秋白扇5号	5.8	64.4	15.4	3.7	0	2.1	8.6
	みちのく701	6.9	62.2	14.4	4.9	0	9.7	1.9
	№エイト	14.4	60.2	16.5	1.3	0	5.3	2.3
	夏の宝山	4.6	58.2	16.9	7.9	0	10.3	2.1
	森の奏で	0.0	60.3	23.1	0.9	0	8.9	6.8
	関羽一本太	0.0	55.4	11.1	4.4	0	12.9	16.2

※重量ベースで積算。割合の合計が 100 とならないのはラウンドのため。

○平成 30 年等級規格別割合(%)

収穫日	品種名	A				B			外品
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/23	夏扇パワー	7.0	59.9	8.6	0.0	0.0	9.6	13.4	1.5
	初夏扇	0.0	68.4	19.0	0.0	0.0	5.4	7.3	0.0
	UE-113	10.4	63.8	12.4	0.0	0.0	8.4	2.4	2.7
	夏秋白扇5号	13.9	65.0	7.7	0.0	3.7	5.6	4.2	0.0
	みちのく701	10.6	67.7	8.5	0.0	0.0	13.2	0.0	0.0
	夏の宝山	7.2	73.7	2.2	0.0	0.0	13.8	2.3	0.8
9/20	夏扇パワー	34.7	39.5	2.3	0.0	5.8	5.4	8.6	3.8
	初夏扇	17.5	39.8	14.9	0.0	7.2	11.8	3.8	4.9
	夏扇タフナー	17.5	57.7	9.3	0.0	7.1	5.4	2.3	0.7
	UE-111	0.0	71.9	11.6	0.0	0.0	5.1	9.1	2.3
	夏秋白扇5号	61.5	15.1	9.0	0.0	3.3	7.1	2.2	1.8
	みちのく701	40.7	41.7	2.0	0.0	10.5	2.2	0.0	2.8
	№エイト	55.6	27.7	2.1	0.0	6.6	2.4	3.6	2.1
	夏の宝山	19.0	62.5	4.9	0.0	0.0	8.7	1.6	3.3
	森の奏で	20.4	54.1	7.1	0.0	10.4	5.7	0.0	2.3
10/23	夏扇パワー	26.1	60.6	2.2	0.0	2.9	2.9	2.4	2.9
	初夏扇	27.6	56.9	4.5	0.0	3.4	5.1	0.0	2.5
	夏扇タフナー	13.6	56.9	23.4	0.0	0.0	2.5	0.0	3.6
	UE-111	46.3	35.3	1.7	0.0	3.5	11.0	0.0	2.3
	夏秋白扇5号	32.1	50.6	0.0	0.0	2.8	5.4	7.1	2.0
	みちのく701	32.7	43.1	6.3	0.0	3.3	8.4	4.5	1.9
	№エイト	56.8	24.0	2.1	0.0	6.1	8.4	1.7	0.9
	夏の宝山	46.6	37.8	0.0	0.0	6.7	5.1	1.9	2.0
	森の奏で	31.3	44.1	5.4	1.2	0.0	7.8	8.2	1.9

※重量ベースで積算。割合の合計が 100 とならないのは四捨五入のため。

等級規格別 10a 換算出荷箱数

○平成 29 年等級規格 10a 換算出荷箱数

収穫日	品種名	A				B			10a換算販売箱数
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/20	夏扇パワー	0	655	30	0	0	32	138	855
	初夏扇	0	700	66	0	0	64	97	927
	龍まさり	0	442	73	0	0	123	162	800
	UE-113	0	489	61	0	0	177	155	882
	夏秋白扇5号	0	555	19	0	0	177	172	923
	みちのく701	0	587	66	0	0	95	180	928
	夏の宝山	0	566	75	0	0	100	169	911
9/29	夏扇パワー	113	474	185	0	0	164	33	970
	初夏扇	110	501	194	0	0	176	39	1,020
	SK2-038	21	482	165	0	0	161	26	855
	龍まさり	0	356	163	0	0	200	74	794
	UE-113	63	420	160	0	0	108	68	819
	UE-111	0	545	139	0	0	127	95	905
	夏秋白扇5号	117	445	172	0	0	158	22	914
	みちのく701	0	589	150	0	0	137	103	979
	№エイト	134	511	197	0	0	182	25	1,050
	夏の宝山	0	507	145	21	0	185	75	933
	森の奏で	0	442	176	14	0	175	97	903
	関羽一本太	0	378	110	59	0	194	107	849
11/1	夏扇パワー	124	535	105	90	0	88	25	967
	初夏扇	110	451	158	32	0	87	62	900
	SK2-038	46	514	174	49	0	120	24	928
	龍まさり	30	460	127	19	0	145	100	881
	UE-113	45	418	143	92	0	181	45	925
	UE-111	75	460	167	30	0	106	76	915
	夏秋白扇5号	61	680	163	39	0	22	91	1,056
	みちのく701	66	599	139	47	0	93	18	963
	№エイト	154	642	176	14	0	57	25	1,067
	夏の宝山	42	528	153	72	0	93	19	907
	森の奏で	0	574	220	9	0	85	65	951
	関羽一本太	0	497	100	39	0	116	145	898

※出荷箱数＝10a 換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。各項目の合計と 10a 換算販売箱数が一致しないのはラウンドによる。

○平成 30 年等級規格別 10a 換算出荷箱数

収穫日	品種名	A				B			10a換算販売箱数
		2L	L	M	S	2L	L	M	
7/23	夏扇パワー	66	563	81	0	0	90	126	927
	初夏扇	0	594	165	0	0	47	63	869
	UE-113	99	606	117	0	0	79	22	924
	夏秋白扇5号	130	612	73	0	35	52	40	942
	みちのく701	102	654	82	0	0	127	0	966
	夏の宝山	63	651	19	0	0	122	21	876
9/20	夏扇パワー	409	466	27	0	68	64	101	1,135
	初夏扇	152	346	130	0	63	103	34	828
	夏扇タフナー	163	537	87	0	66	51	21	925
	UE-111	0	695	112	0	0	49	88	943
	夏秋白扇5号	655	160	96	0	36	75	24	1,047
	みちのく701	429	438	21	0	111	24	0	1,022
	№エイト	566	282	21	0	67	24	36	996
	夏の宝山	182	599	47	0	0	83	15	927
	森の奏で	203	539	70	0	103	57	0	972
10/23	夏扇パワー	291	676	24	0	33	32	27	1,082
	初夏扇	253	521	41	0	31	47	0	892
	夏扇タフナー	119	503	206	0	0	22	0	850
	UE-111	458	349	17	0	34	108	0	966
	夏秋白扇5号	353	555	0	0	31	60	78	1,077
	みちのく701	362	477	70	0	37	93	49	1,087
	№エイト	599	253	22	0	65	88	18	1,045
	夏の宝山	462	374	0	0	66	50	19	971
	森の奏で	279	393	48	11	0	70	73	873

※出荷箱数＝10a 換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。各項目の合計と 10a 換算販売箱数が一致しないのは四捨五入のため。

露地野菜の部　№2

項目：品種比較調査

調査名：ねぎのリン酸減肥技術品種比較調査（継続：平成 30 年度～平成 31 年度）

１目的　定植前の苗にリン酸カリ溶液（リン酸濃度 1.15%）を施用することで、本圃へのリン酸施用量を削減できる技術について、当地域における適応品種を調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　育苗方法　チェーンポット CP-303（264 穴）2 粒播き

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉　〈定　植〉
平成 31 年 1 月 7 日　平成 31 年 3 月 20 日

3)　栽植距離　うね幅 100 ㎝、株間 5 ㎝（2 粒播き）

4)　定植株数　40,000 本/10a

5)　施肥量　N-P-K＝18.0-18.0-18.0 kg/10a
【基肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a
【追肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a×2 回
※基肥及び追肥は全調査区共通。

6)　使用資材

調査区名	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰(17%粉)
慣行区	-	120kg/10a	2回
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回

※リン酸カリ溶液はリン酸濃度 1.15%に調整し、浸漬区は定植当日に溶液への浸漬、潅注区は定植 1 週間前及び定植当日にトレイ毎に 1L の潅注を実施。
パワーリンは植付前に全面施用。
過リン酸石灰は植付時及び 1 回目追肥時に植え溝施用。

7)　収穫月日　令和元年 7 月 29 日

8)　薬剤散布　18 回(成分回数)

(3)　調査区の構成

1)　調査区　6 区（1 区 40 本（1.0m）、1 区制）

2)　供試品種　<1>夏扇パワー　(㈱サカタのタネ)
<2>みちのく 701　(㈱パセリー菜)

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　昨年度の結果
品種比較では、「夏扇パワー」で調整重や 10a 換算販売箱数が優れる傾向を示した。
リン酸の施用方法の比較では、A 品率及び 10a 換算販売箱数において、7/10 収穫リン酸カリ溶液施用の調査区が慣行区を上回る傾向を示したものの、7/23 収穫では効果が判然としなかった。

(2)　本年度の結果

1)　生育
（7 月収穫：3/20 定植～7/29 収獲）
6 月後半から 7 月前半にかけての低温や日照不足の影響により生育が停滞したが、その後の天候回復により生育は回復傾向となり、7 月末の収穫となった。
草丈及び茎径ではリン酸カリ溶液施用区が慣行区を上回る傾向が見られたが、葉数では慣行区とリン酸カリ溶液施用区との間に明確な差は見られなかった。
病害についてはべと病が発生し、虫害ではハモグリバエ類が散見されたが、収穫時には大きな影響はなかった。

2)　収量及び品質
品種比較では、10a 換算販売箱数において慣行区では「みちのく 701」、リン酸カリ溶液施用区では「夏扇パワー」が上回った。

リン酸の施用方法の比較では、10a 換算販売箱数において両品種ともリン酸カリ溶液施用区が慣行区を上回る傾向を示した。また、浸漬区と潅注区との比較では、両品種とも同等となった。
一方､A品率については慣行区とリン酸カリ溶液施用区との間で明確な差が見られず、リン酸カリ溶液施用の効果は判然としなかった。

(3) 調査 2 箇年の結果
リン酸カリ溶液施用の効果については、前年度の結果では判然としなかったが、今年度の結果からはリン酸カリ溶液施用の収量が上回っており、リン酸の減肥効果があることが示唆された。一方、リン酸カリ溶液の施用方法による比較では、効果の差は判然としなかった。
リン酸カリ溶液施用の施用方法の違いが収量へ及ぼす影響や品種間における効果の違いについては、更に検証する必要があると思われる。

(4) 次年度以降の計画
完了

表 1　生育調査

夏扇パワー

調査区名	使用資材			5月4日			6月5日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	25.6	5.4	2.2	51.4	11.1	4.1
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	32.3	6.2	3.0	59.3	12.2	4.2
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	32.9	6.0	2.9	59.2	12.4	4.5

みちのく701

調査区名	使用資材			5月4日			6月5日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	30.1	5.6	2.3	55.1	10.7	4.0
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	32.1	6.1	2.8	59.2	11.6	4.1
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	30.4	5.8	2.7	58.7	11.2	4.1

表 2　収量調査

収穫日	調査区名		全長(cm)	調整重(g)	分枝点長(cm)	軟白長(cm)	軟白径(mm)	2L,L品率(%)	A品率(%)	10a換算収量(kg/10a)	うち外品	10a換算販売箱数	調査本数
7/29	夏扇パワー	慣行区	101.0	153.0	44.6	29.9	20.3	91.8	94.2	5,049	0	962	33
		浸漬区	105.6	175.6	47.8	31.5	21.0	95.9	91.6	5,970	0	1,137	34
		潅注区	105.3	175.8	45.5	30.3	21.1	97.9	90.8	5,977	0	1,138	34
	みちのく701	慣行区	102.2	157.1	42.8	30.0	20.6	94.4	87.6	5,656	58	1,066	36
		浸漬区	101.8	172.5	44.6	31.2	21.6	94.7	90.5	5,693	0	1,084	33
		潅注区	102.2	164.7	43.9	30.0	20.8	96.7	86.0	5,765	90	1,081	35

※10a 換算収量＝調整後 1 本重×調査本数×1000。10a 換算販売箱数は表 3 参照。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

表 3　等級規格別割合及び 10a 換算出荷箱数

○等級規格別割合

収穫日	調査区名		A				B			外品
			2L	L	M	S	2L	L	M	
7/29	夏扇	慣行区	15.3	70.7	8.2	0	3.2	2.5	0.0	0.0
	パワー	浸漬区	33.8	53.7	4.1	0	0.0	8.4	0.0	0.0
		潅注区	24.4	64.3	2.1	0	3.1	6.2	0.0	0.0
	みち	慣行区	36.5	44.4	6.8	0	3.3	8.1	0.0	1.0
	のく	浸漬区	54.5	36.0	0.0	0	0.0	4.2	5.3	0.0
	701	潅注区	35.2	50.8	0.0	0	10.7	0.0	1.8	1.5

※重量ベースで積算。割合の合計が 100 とならないのは四捨五入のため。

○等級規格別 10a 換算出荷箱数

収穫日	調査区名		A				B			10a換算販売箱数
			2L	L	M	S	2L	L	M	
7/29	夏扇	慣行区	147	680	79	0	31	24	0	962
	パワー	浸漬区	384	611	46	0	0	96	0	1,137
		潅注区	278	732	24	0	35	70	0	1,138
	みち	慣行区	393	478	73	0	35	87	0	1,078
	のく	浸漬区	591	390	0	0	0	45	58	1,084
	701	潅注区	387	558	0	0	117	0	20	1,081

※出荷箱数＝10a 換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。

各項目の合計と 10a 換算販売箱数が一致しないのは四捨五入のため。

表 4　平成 30 年の調査結果

○生育調査

①3/30 定植～7/10、7/23 収穫

夏扇パワー

調査区名	使用資材			5月7日			6月4日			7月3日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	35.8	5.9	2.8	61.4	11.2	4.1	86.4	16.6	4.9
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	36.4	6.1	2.8	53.7	10.5	4.3	81.9	16.6	4.8
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	36.0	6.2	2.9	56.0	10.8	4.2	82.8	17.0	4.7

初夏扇

調査区名	使用資材			5月7日			6月4日			7月3日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	32.4	6.1	2.6	59.8	12.2	4.4	84.1	16.7	5.0
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	32.2	5.8	2.5	58.6	12.3	4.6	83.9	16.9	4.9
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	31.9	5.9	2.7	55.9	13.6	4.4	78.7	16.7	4.9

春扇

調査区名	使用資材			5月7日			6月4日			7月3日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	33.5	6.0	2.7	59.7	11.9	3.9	83.8	16.6	4.8
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	34.7	5.9	2.8	60.6	11.6	4.3	83.9	16.5	4.8
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	35.9	6.2	2.8	59.0	11.4	4.5	83.7	16.7	4.8

②5/16 定植～9/20 収穫

夏扇パワー

調査区名	使用資材			6月4日			7月3日			8月2日			9月3日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	23.9	4.4	3.8	49.1	10.0	4.4	85.4	17.2	4.8	94.1	19.6	5.4
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	21.6	3.9	3.4	50.1	9.1	4.2	86.1	17.9	4.8	97.5	21.3	5.4
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	23.1	4.4	3.2	53.5	10.6	4.5	83.3	17.5	4.9	95.1	19.6	5.2

初夏扇

調査区名	使用資材			6月4日			7月3日			8月2日			9月3日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	23.7	4.3	3.2	44.9	8.8	4.6	78.8	15.5	4.4	92.9	16.9	4.8
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	24.8	4.2	3.4	47.5	9.2	4.9	85.9	16.4	4.9	96.5	19.6	5.2
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	23.6	4.5	3.4	50.5	10.3	4.9	82.9	16.2	4.8	95.2	18.3	4.9

春扇

調査区名	使用資材			6月4日			7月3日			8月2日			9月3日		
	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)	草丈(cm)	茎径(mm)	葉数(枚)
慣行区		120kg/10a	2回	22.8	4.5	3.4	49.1	8.7	4.5	85.5	17.0	4.6	99.2	19.0	5.1
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回	22.1	3.7	3.2	47.3	8.3	4.2	86.0	16.8	4.7	100.2	18.2	6.0
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回	17.7	3.9	3.2	48.6	8.9	4.8	84.1	16.5	4.5	95.8	18.1	5.1

○　収量調査

収穫日	調査区名		全長(cm)	調整重(g)	分枝点長(cm)	軟白長(cm)	軟白径(mm)	2L,L品率(%)	A品率(%)	10a換算収量(kg/10a)	うち外品	10a換算販売箱数	調査本数
7/10	夏扇パワー	慣行区	89.7	126.5	35.4	25.5	18.3	79.1	81.1	4,554	245	821	36
		浸漬区	90.4	129.3	35.8	26.6	18.3	67.3	86.0	4,913	175	903	38
		潅注区	88.3	127.8	34.4	26.1	16.9	52.1	86.1	4,601	260	827	36
	初夏扇	慣行区	85.5	110.8	32.1	25.2	17.2	45.3	76.7	3,656	150	668	33
		浸漬区	89.2	118.2	35.2	26.3	18.0	65.2	90.7	4,492	0	856	38
		潅注区	86.2	110.1	33.6	25.5	16.7	27.9	90.9	4,184	0	797	38
	春扇	慣行区	91.0	116.4	35.8	24.4	18.1	52.9	57.3	4,423	485	750	38
		浸漬区	90.7	117.1	35.6	26.1	18.3	59.7	82.7	4,567	0	870	39
		潅注区	88.9	117.0	35.1	26.9	18.0	62.3	70.1	4,329	0	825	37
7/23	夏扇パワー	慣行区	101.0	129.9	41.7	26.6	19.0	76.5	75.6	4,936	73	927	38
		浸漬区	99.6	133.4	42.5	27.3	18.9	78.9	87.6	5,069	32	959	38
		潅注区	101.2	138.1	41.9	27.3	20.3	95.0	93.0	5,110	0	974	37
	初夏扇	慣行区	98.4	123.9	40.2	26.6	18.5	73.9	87.4	4,584	0	873	37
		浸漬区	95.6	128.6	40.4	25.5	19.2	83.5	92.4	4,887	0	930	38
		潅注区	94.2	123.2	37.4	25.1	18.2	66.3	74.5	4,435	0	845	36
	春扇	慣行区	99.0	116.8	40.6	25.2	17.9	58.1	69.7	4,438	0	846	38
		浸漬区	102.5	119.4	42.1	27.6	19.8	91.1	84.1	4,537	0	865	38
		潅注区	102.4	122.3	41.7	27.1	19.9	87.3	88.1	4,647	0	885	38
9/20	夏扇パワー	慣行区	97.7	163.0	44.0	32.0	21.1	85.3	76.5	6,194	235	1,135	38
		浸漬区	98.4	165.2	43.9	31.7	21.1	86.9	78.3	5,947	324	1,071	36
		潅注区	95.3	162.7	43.2	31.7	20.8	89.4	80.1	5,044	224	918	31
	初夏扇	慣行区	93.7	127.0	42.9	33.0	19.3	76.3	72.2	4,572	226	828	36
		浸漬区	99.8	138.3	45.3	32.0	19.9	86.8	73.1	5,394	243	981	39
		潅注区	97.1	137.6	43.8	32.6	19.3	77.7	75.7	4,954	152	915	36
	春扇	慣行区	96.0	148.8	42.8	32.5	21.7	90.1	75.9	5,357	169	988	36
		浸漬区	102.2	142.6	43.5	32.8	20.9	92.0	72.8	5,419	83	1,016	38
		潅注区	100.3	133.8	43.1	32.7	20.1	89.8	79.7	4,683	117	870	35

※10a 換算収量＝調整後 1 本重×調査本数×1000。10a 換算販売箱数は表 3 参照。

○等級規格別割合

収穫日	調査区名		A				B			外品
			2L	L	M	S	2L	L	M	
7/10	夏扇パワー	慣行区	3.6	67.2	10.3	0.0	0.0	8.3	5.2	5.4
		浸漬区	3.5	60.5	22.0	0.0	0.0	3.3	7.1	3.6
		潅注区	0.0	49.3	36.8	0.0	0.0	2.8	5.5	5.6
	初夏扇	慣行区	0.0	41.7	35.0	0.0	0.0	3.6	15.6	4.1
		浸漬区	0.0	62.5	28.1	0.0	0.0	2.7	6.7	0.0
		潅注区	0.0	27.9	62.9	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
	春扇	慣行区	0.0	36.3	21.0	0.0	0.0	16.6	15.2	11.0
		浸漬区	0.0	52.2	30.5	0.0	0.0	7.4	9.8	0.0
		潅注区	0.0	46.7	23.4	0.0	0.0	15.5	14.4	0.0
7/23	夏扇パワー	慣行区	7.0	59.9	8.6	0.0	0.0	9.6	13.4	1.5
		浸漬区	6.6	68.6	12.3	0.0	0.0	3.6	8.2	0.6
		潅注区	25.3	62.8	5.0	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0
	初夏扇	慣行区	0.0	68.5	18.9	0.0	0.0	5.3	7.2	0.0
		浸漬区	3.2	75.2	14.1	0.0	0.0	5.2	2.4	0.0
		潅注区	0.0	47.3	27.2	0.0	0.0	19.0	6.5	0.0
	春扇	慣行区	0.0	42.5	27.2	0.0	0.0	15.6	14.7	0.0
		浸漬区	6.0	73.7	4.4	0.0	0.0	11.5	4.5	0.0
		潅注区	16.7	65.0	6.5	0.0	0.0	5.6	6.3	0.0
9/20	夏扇パワー	慣行区	34.7	39.5	2.3	0.0	5.8	5.4	8.6	3.8
		浸漬区	42.4	29.8	6.1	0.0	2.8	12.0	1.5	5.4
		潅注区	33.6	42.9	3.7	0.0	3.7	9.3	2.4	4.4
	初夏扇	慣行区	17.5	39.8	14.9	0.0	7.2	11.8	3.8	4.9
		浸漬区	20.5	43.8	7.5	1.3	3.7	18.8	0.0	4.4
		潅注区	7.3	55.4	12.9	0.0	0.0	15.0	6.3	3.1
	春扇	慣行区	46.4	25.2	4.3	0.0	5.9	12.6	2.4	3.2
		浸漬区	29.4	39.3	4.1	0.0	8.9	14.4	2.4	1.5
		潅注区	34.1	37.9	7.7	0.0	6.2	11.7	0.0	2.5

※重量ベースで積算。割合の合計が 100 とならないのは四捨五入のため。

○等級規格別 10a 換算出荷箱数

収穫日	調査区名		A				B			10a換算販売箱数
			2L	L	M	S	2L	L	M	
7/10	夏扇パワー	慣行区	31	583	89	0	0	72	45	821
		浸漬区	33	566	206	0	0	31	67	903
		潅注区	0	432	323	0	0	24	48	827
	初夏扇	慣行区	0	290	244	0	0	25	109	668
		浸漬区	0	535	241	0	0	23	57	856
		潅注区	0	223	502	0	0	0	73	797
	春扇	慣行区	0	306	177	0	0	140	128	750
		浸漬区	0	454	265	0	0	65	86	870
		潅注区	0	386	193	0	0	128	118	825
7/23	夏扇パワー	慣行区	66	563	81	0	0	90	126	927
		浸漬区	64	663	119	0	0	35	79	959
		潅注区	246	611	49	0	0	68	0	974
	初夏扇	慣行区	0	598	165	0	0	47	63	873
		浸漬区	30	699	131	0	0	48	22	930
		潅注区	0	399	230	0	0	161	55	845
	春扇	慣行区	0	359	230	0	0	132	125	846
		浸漬区	52	637	38	0	0	99	38	865
		潅注区	148	575	57	0	0	49	56	885
9/20	夏扇パワー	慣行区	409	466	27	0	68	64	101	1,135
		浸漬区	480	338	69	0	31	136	17	1,071
		潅注区	322	412	35	0	35	89	23	918
	初夏扇	慣行区	152	346	130	0	63	103	34	828
		浸漬区	211	449	77	13	38	193	0	981
		潅注区	69	523	122	0	0	142	59	915
	春扇	慣行区	474	257	44	0	60	129	25	988
		浸漬区	303	406	43	0	92	149	24	1,016
		潅注区	304	338	69	0	55	104	0	870

※出荷箱数＝10a 換算収量×等級規格別割合/5.25(kg/箱)。

各項目の合計と 10a 換算販売箱数が一致しないのは四捨五入のため。

露地野菜の部　№3

項目：品種比較調査
調査名：ピーマンの品種比較調査（継続：平成 30 年度～平成 31 年度）

１目的　当地域におけるピーマンの露地栽培に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調　査　場　所　　露地ほ場

(2)　耕　種　概　要
1)　栽　培　方　法　　マルチ栽培（あったかマルチ）
2)　は種及び定植月日　　〈は　種〉　　〈定　植〉
4 月定植：平成 31 年 2 月 15 日　　平成 31 年 4 月 24 日
(定植直後アイホッカ 1 枚
トンネル被覆)
5 月定植：平成 31 年 3 月 13 日　　令和元年 5 月 13 日
(定植直後パスライト 1 枚
トンネル被覆)
3)　育　苗　日　数　　4 月定植：68 日　　5 月定植：61 日
4)　栽　植　距　離　　うね幅 150 ㎝、株間 50 ㎝
5)　定　植　株　数　　1,300 株/10a
6)　施　　肥　　量　　N-P-K＝44.4-33.6-39.4 kg/10a
【基肥】豊作太郎(12-12-10)：250 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里 S646(16-4-16)：30 kg/10a×3 回
7)　収　穫　期　間　　令和元年 6 月 14 日～令和元年 10 月 30 日
8)　薬　剤　散　布　　25 回（成分回数）

(3)　調査区の構成
1)　調　　査　　区　　2 区（1 区 5 株、1 区制）
2)　供　試　品　種　　<1>京ひかり　　（タキイ種苗㈱）
<2>ピクシー　　（横浜植木㈱）

(4)　調　査　項　目　　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　前年度の結果
10a 換算収量及び 10a 換算 A 品収量は、4 月定植では「京ひかり」が、5 月定植では「ピクシー」が最も多かった。

(2)　本年度の結果
1)　生育
5 月の高温傾向により生育が順調に進み、収穫開始は 4 月定植で 6 月 14 日から、5 月定植で 6 月 24 日からとなった。6 月後半から 7 月前半にかけて低温や日照不足となったものの、その後は再び高温傾向となった。また、少雨の影響により、特に 9 月前半において果実の肥大が遅れる傾向となった。
病害虫は、9 月下旬以降灰色かび病が散見された他、オオタバコガの被害が散見された。

収量
2)　調査区における 10a 換算収量は、両作型とも「ピクシー」が最も多かった。
月別収量では、4 月定植は 8 月が最も多かった。また、5 月定植は 8 月が最も多く、9 月以降は緩やかに減少した。

品質
3)　A 品率は、4 月定植で「京ひかり」、5 月定植で「ピクシー」が高かった。10a 換算 A 品収量は、両作型とも「ピクシー」が多かった。主な落等要因としては収穫始め及び終盤において奇形果が多かった。

以上より、今年度の調査では 10a 換算収量及び 10a 換算 A 品収量の点から両作型とも「ピクシー」で優れた結果となった。

(3)　調査 2 箇年の結果
10a 換算収量において「ピクシー」が多く、また、品質面において、A 品率では「ピクシー」が高い傾向を示し、果肉が厚いことから、「ピクシー」が当地域における露地栽培において有望であると考えられた。

(4)　次年度以降の計画
完了

表 1　収量調査

作型	品種名	A品収量(g)	A品果数	B品収量(g)	B品果数	総収量(g)	総果数	A品率(%)	平均1果重(g)	10a換算収量(t)	10a換算A品収量(t)
4月定植	京ひかり	6,969	184	2,187	63	9,156	247	76.1	37.1	11.9	9.1
	ピクシー	7,608	213	2,546	74	10,154	287	74.9	35.4	13.2	9.9
5月定植	京ひかり	6,232	161	3,371	92	9,603	253	64.9	38.0	12.5	8.1
	ピクシー	6,840	189	3,173	88	10,013	277	68.3	36.1	13.0	8.9

※調査区は連続 5 株調査した 1 株当たりの平均。

※総収量=A品収量+B品収量。総果数=A品果数+B品果数。A品率=A品収量/総収量。

10a 換算収量=総収量×1300 株/10a。10a 換算A品収量=10a 換算収量×A品率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

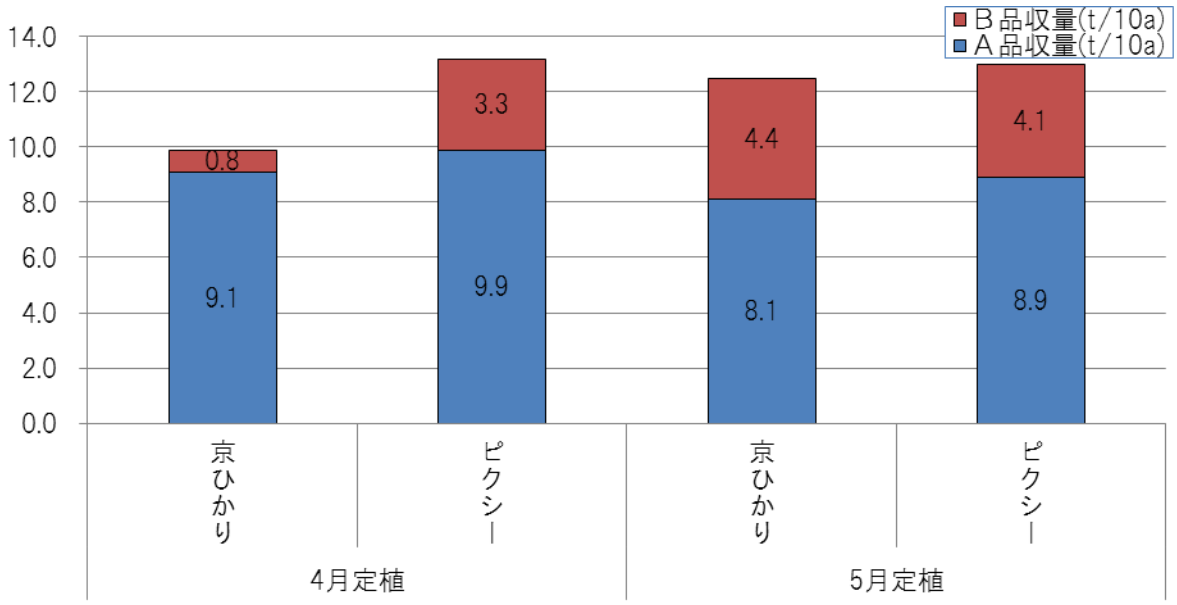
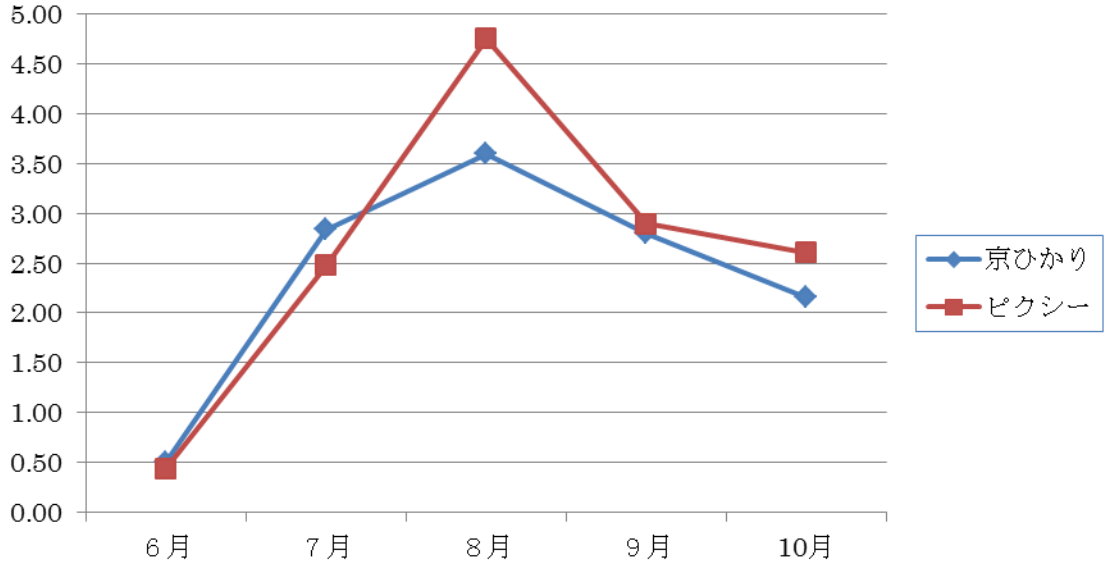


図 1　品種別収量（t/10a）



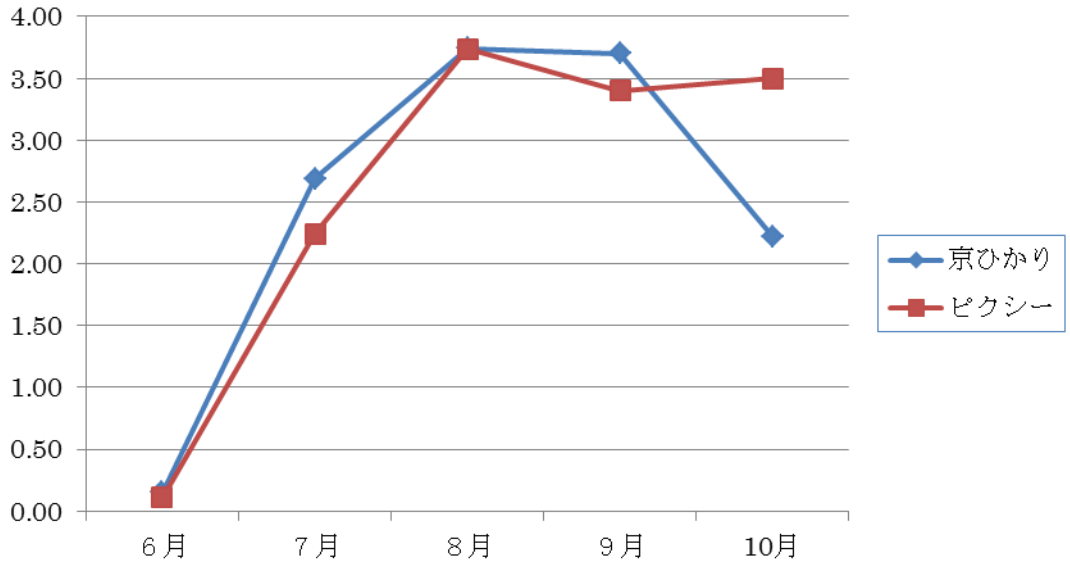


図２　月別収量（t/10a）（上段：４月定植、下段：５月定植）

表 2　平成 30 年度の調査結果

〇収量調査

作型	品種名	Ａ品収量(g)	Ａ品果数	Ｂ品収量(g)	Ｂ品果数	総収量(g)	総果数	Ａ品率(%)	平均1果重(g)	10a換算収量(t)	10a換算Ａ品収量(t)
4月定植	kira 気楽ﾋﾟｰﾏﾝ	5,655	169	2,656	79	8,311	248	68.0	33.5	10.8	7.3
	京ひかり	6,477	192	2,648	78	9,125	270	71.0	33.8	11.9	8.4
	ピクシー	6,256	184	2,378	73	8,634	258	72.5	33.5	11.2	8.1
	UN-607	4,960	143	2,115	68	7,075	211	70.1	33.5	9.2	6.4
5月定植	kira 気楽ﾋﾟｰﾏﾝ	5,756	157	2,304	70	8,060	227	71.4	35.5	10.5	7.5
	京ひかり	6,000	170	2,476	73	8,476	243	70.8	34.9	11.0	7.8
	ピクシー	6,553	185	2,343	67	8,896	252	73.7	35.3	11.6	8.5
	UN-607	6,269	176	2,372	77	8,641	253	72.5	34.2	11.2	8.1

露地野菜の部　№4

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別収量調査（新規：平成 31 年度～令和 2 年度）

１目的　当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、施肥体系の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培（あったかマルチ）

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉　〈定　植〉
平成 31 年 3 月 13 日　令和元年 5 月 13 日
(定植直後パスライト 1 枚トンネル被覆)

3)　育苗日数　61 日

4)　栽植距離　うね幅 150 ㎝、株間 50 ㎝

5)　定植株数　1,300 株/10a

6)　施肥量

	基肥 豊作太郎 (12-12-10)　加里 S646	追肥 くみあい燐硝安 (16-4-16)	合計 (kg/10a)
調査区①　250 kg/10a		30 kg/10a×3 回	44.4-33.6-39.4
調査区②　250 kg/10a		22.5 kg/10a×4 回	44.4-33.6-39.4

【追肥時期】
調査区①　令和元年 7 月 22 日、8 月 18 日、9 月 10 日
調査区②　令和元年 7 月 22 日、8 月 11 日、8 月 29 日、9 月 20 日

7)　収穫期間　令和元年 6 月 24 日～令和元年 10 月 30 日

8)　薬剤散布　25 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　2 区（1 区 5 株、1 区制）

2)　供試品種　<1>ピクシー　（横浜植木㈱）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　本年度の結果

1)　生育
5 月の高温傾向により生育が順調に進み、収穫開始は 6 月 24 日からとなった。6 月後半から 7 月前半にかけて低温や日照不足となったものの、その後は再び高温傾向となった。また、少雨の影響により、特に 9 月前半において果実の肥大が遅れる傾向となった。
病害虫は、9 月下旬以降灰色かび病が散見された他、オオタバコガの被害が散見された。

収量

2)　10a 換算収量は、調査区②が多い結果となった。
月別収量では、8 月の調査区②が最も多く、両調査区とも 8 月がピークとなった。なお、調査区①は 9 月以降の収量が緩やかに減少したのに対し、調査区②は 9 月に減少した後、10 月に最終の追肥(9 月 20 日)に伴う収量の増加がみられた。

品質

3)　Ａ品率及び 10a 換算Ａ品収量は調査区②が最も多かった。主な落等要因としては収穫始め及び終盤において奇形果が多かった。

以上より、今年度の調査では 10a 換算収量及び 10a 換算Ａ品収量の点から調査区②で優れた結果となった。

(2)　次年度以降の計画
継続

表１　収量調査

調査区名	Ａ品収量(g)	Ａ品果数	Ｂ品収量(g)	Ｂ品果数	総収量(g)	総果数	Ａ品率(%)	平均1果重(g)	10a換算収量(t)	10a換算Ａ品収量(t)
調査区①	6,840	189	3,173	88	10,013	277	68.3	36.1	13.0	8.9
調査区②	7,275	198	3,139	88	10,414	286	69.9	36.4	13.5	9.5

※調査区は連続５株調査した１株当たりの平均。

※総収量=Ａ品収量+Ｂ品収量。総果数=Ａ品果数+Ｂ品果数。Ａ品率=Ａ品収量/総収量。

10a 換算収量=総収量×1300 株/10a。10a 換算Ａ品収量=10a 換算収量×Ａ品率。

※計算式と数値が一致しないのは四捨五入のため。

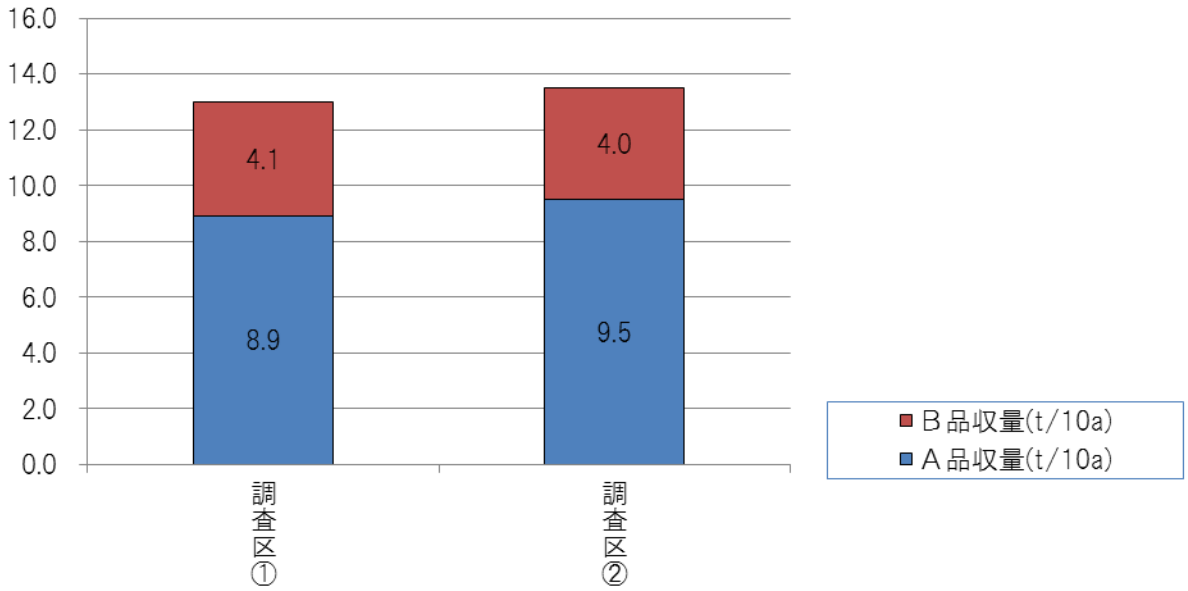


図１　品種別収量（t/10a）

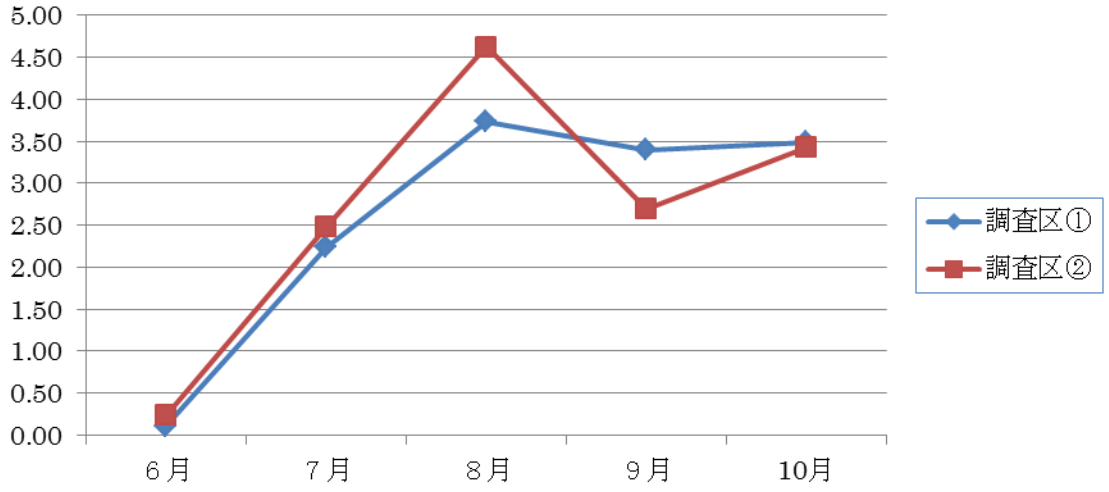


図 2　月別収量（t/10a）（上段：4 月定植、下段：5 月定植）

露地野菜の部　№5

項目：品種特性調査

調査名：ながいも系統「園試系 23 号」の品種特性調査（継続：平成 30 年度～平成 31 年度）

１目的　ながいも系統「園試系 23 号」の当地域における特性を把握するため、品質・収量について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調　査　場　所　　露地ほ場

(2)　耕　種　概　要

1)　定 植 年 月 日　　令和元年 5 月 29 日

2)　植　付　距　離　　うね幅 120 ㎝、株間 21 ㎝

3)　定　植　株　数　　3,968 本/10a

4)　施　　肥　　量　　N-P-K＝24.0-19.2-16.0 kg/10a

【基肥】パワーアップながいも（15-12-10）：160 kg/10a

5)　収　穫　月　日　　令和元年 12 月 4 日

6)　薬　剤　散　布　　12 回(成分回数)

(3)　調 査 区 の 構 成

1)　調　　査　　区　　1 区（1 区 6.3m（30 本）、1 区制）

2)　供　試　品　種　　園試系 23 号（切片子）：80～100g

(4)　調　査　項　目　　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　昨年度の結果

いも長は 46.6cm、いも重は 1,152.6g、10a 換算収量は 4,574kg/10a となった。

Ａ品率は 63.6％となった。

(2)　本年度の結果

1)　生育

萌芽揃期は 6 月 30 日であった。

7 月前半までの低温及び日照不足の影響で生育は遅れ気味であったが、その後は高温多照、少雨傾向となった。茎葉は例年よりもやや少なかったものの、生育はおおむね順調であった。病害虫については、ナガイモコガが一部で見られた。

2)　収量

いも長は 55.2cm、いも重は 1,247.8g、10a 換算収量は 4,952kg/10a となった。

3)　品質

規格別収量において最も多かったのは 4L で 3,293kg/10a、収量割合としては 66.5％となった。

Ａ品率は 50.2％となった。主な落等要因としては曲がり及びリングが多かった。また、A 平及び B 平の収量割合はそれぞれ 3.3％、20.0％であった。

(3)　調査 2 箇年の結果

2 箇年を通じて４L が最も多く、いも重は 1,200g 前後となった。また、本年度は平いもが 2 割を超えており、作付にあたっては土壌分析に基づき、地力に応じた施肥設計が必要と思われた。

(4)　次年度以降の計画

本年度で完了

表１　収量調査

調査区名	全長 (cm)	全重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	長径 (mm)	Ａ品率 (%)	10a換算収量(kg)	10a換算販売収量(kg)	外品 (kg/10a)
園試系23号	71.1	1,269.4	55.2	1,247.8	63.6	50.2	4,952	4,952	0
園試系6(参考)	71.8	1,320.6	57.2	1,297.7	64.5	72.2	5,149	5,149	0
庄司系(参考)	72.8	1,164.0	57.1	1,146.6	59.2	77.0	4,550	4,502	48

※10a 換算収量=いも重×植付数(3,968 本/10a)。10a 換算販売収量=10a 換算収量−外品。

※計算式と数字が一致しないのは四捨五入のため。

表２　規格別収量及び収量割合

調査区名	項目	4L	3L	2L	L	M	S	2S	規格外	合計
園試系23号	収量(kg/10a)	3,293	1,012	588	0	0	59	0	0	4,952
	割合(%)	(66.5)	(20.4)	(11.9)	(0)	(0)	(1.2)	(0)	(0)	
園試系6	収量(kg/10a)	3,340	1,045	617	92	0	55	0	0	5,149
(参考)	割合(%)	(64.8)	(20.3)	(12.0)	(1.8)	(0)	(1.1)	(0)	(0)	
庄司系	収量(kg/10a)	2,491	1,333	583	95	0	0	0	48	4,550
(参考)	割合(%)	(54.7)	(29.3)	(12.8)	(2.1)	(0)	(0)	(0)	(1.1)	

※各項目の合計と表１の 10a 換算収量が一致しないのは四捨五入のため。

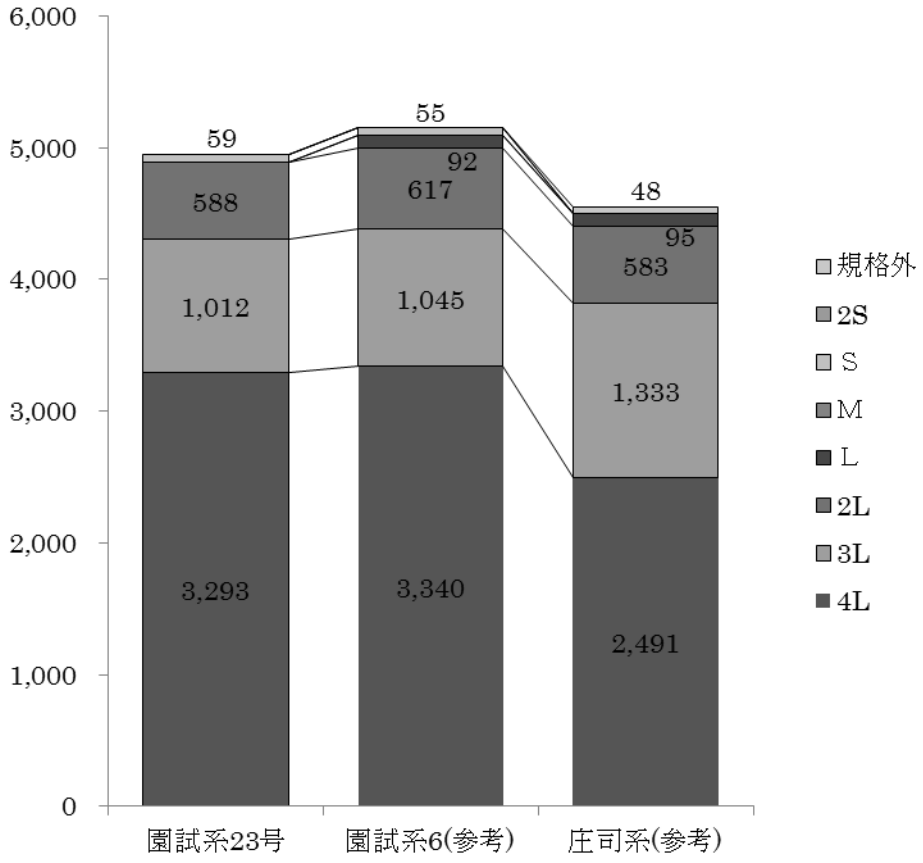


図１　規格別収量（kg/10a）

表 3　等級割合（%）

調査区名	A	B	C	A 平	B 平	D	等級外	合計
園試系23号	53.3	16.7	6.7	3.3	20.0	0.0	0.0	100.0
園試系6(参考)	70.0	23.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
庄司系(参考)	73.3	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	100.0

※各項目の合計が 100 とならないのは四捨五入のため。

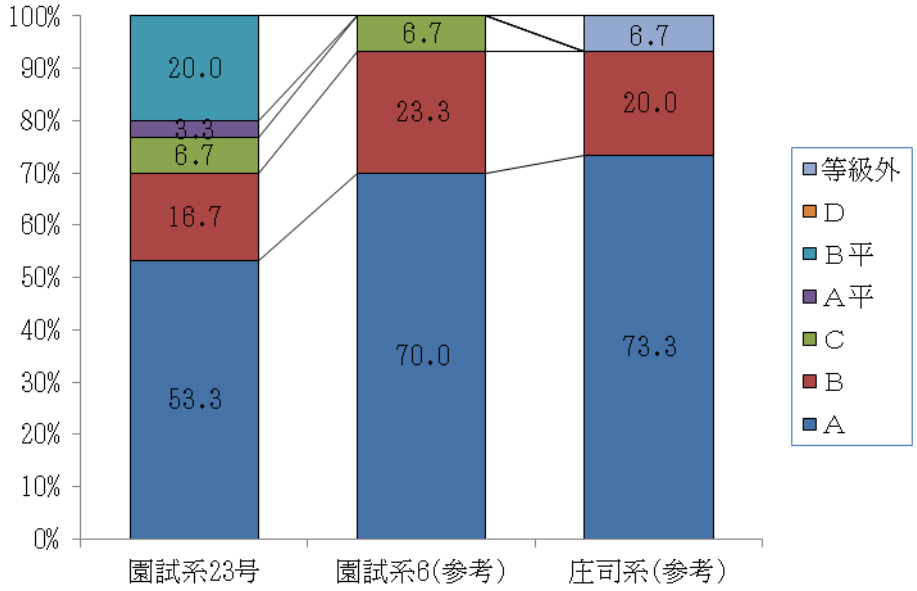


図 2　等級割合

図 3　園試系 23 号

図４　園試系６

図５　庄司系

表４　調査２箇年の結果

	調査区名	全長 (cm)	全重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	長径 (mm)	Ａ品率 (%)	10a換算 収量(kg)	10a換算販売 収量(kg)	外品 (kg/10a)
	園試系23号	71.1	1,269.4	55.2	1,247.8	63.6	50.2	4,952	4,952	0
31	園試系6(参考)	71.8	1,320.6	57.2	1,297.7	64.5	72.2	5,149	5,149	0
	庄司系(参考)	72.8	1,164.0	57.1	1,146.6	59.2	77.0	4,550	4,502	48
	園試系23号	65.9	1,204.0	46.6	1,152.6	64.2	63.6	4,574	4,574	0
30	園試系6(参考)	60.6	1,025.8	40.3	973.2	63.1	73.5	3,862	3,833	29
	庄司系(参考)	67.2	972.6	48.7	937.2	59.0	70.6	3,719	3,719	0

※算出方法は表１に準じる。

露地野菜の部　No.6

項目：栽培技術調査
調査名：にんにくの種子植付時期比較調査（新規：平成31年度～令和2年度）

１目的　植付時期の違いが、収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場（連作3年目）

(2)　耕種概要
1)　栽培方法　マルチ栽培（コーテーコンビ・グリーン）
2)　植付年月日　①平成30年9月14日
②平成30年9月25日
③平成30年10月5日
3)　栽植距離及び植付片数　うね幅150㎝、株間15㎝、条間25㎝、4条植え
17,778片/10a
4)　施肥量　N-P-K＝29.4-45.6-20.9kg/10a
【基肥】BBにんにく一発（15-18-10）：170kg/10a
豚ふん堆肥（ナチュラルパワー）（2.6-6.0-2.6）：150㎏/10a、
パワーリン（P:30）：20kg/10a、
マググリーン（Mg:25）：30kg/10a
5)　収穫月日　令和元年6月25日（白玉王）、7月2日（畑園系）
6)　薬剤散布　22回（成分回数）

(3)　調査区の構成
1)　調査区　6区（1区50株、1区制）
2)　供試品種　<1>白玉王①
<2>白玉王②
<3>白玉王③
<4>畑園系①
<5>畑園系②
<6>畑園系③
（種子重量12.1～16.0g）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　本年度の結果
1)　生育
萌芽状況は、12月時点では9月14日植付の調査区において全ての株が萌芽し、9月25日、10月4日植付の調査区では9割以上で萌芽した。4月10日時点ではほぼ全ての株が萌芽した。5月上中旬に降水量が少ない状態で推移し、その後6月に入り降水量が多くなったこともあり、裂皮が生じる等の影響が見られた。
りん片分化期は4月21日であった。
病害については、春腐病が散見され、6月に入ると、さび病が散見された。

2)　収量
白玉王、畑園系とも9月14日植付の調査区が最も10a換算収量が多くなった。植付時期が早い方が10a換算収量が多くなる結果となった。

3)　品質
Ａ品率は、白玉王では①が最も高くなった。畑園系では③が最も高く、植付時期が遅くなるにつれて高くなる傾向が見られた。
主な落等要因は、一部突出、窓開き、割れ等であったが、畑園系①で割れや裂皮が特に多かった。
10a換算Ａ品収量は、白玉王では①が最も多く、畑園系では②が最も多かった。
2Ｌ、Ｌ品率は植付時期が早い方が高くなる傾向が見られ、白玉王、畑園系とも9月14日植付の調査区が最も高い結果であった。

(2)　次年度以降の計画
継続

表１　萌芽状況調査（100 株調査）

調査区名		植付日	萌芽株数		
			11 月 9 日	12 月 10 日	4 月 10 日
白玉王	①	9/14	78	100	100
	②	9/25	65	98	100
	③	10/5	33	92	99
畑園系	①	9/14	75	100	100
	②	9/25	58	97	100
	③	10/5	35	94	100

表２　収量調査

調査区名		植付日	球重（g）	球径（mm）	Ａ品率(%)	2L，Ｌ品率　(%)	10a 換算収量(kg)	10a 換算Ａ品収量(kg)
白玉王	①	9/14	94.3	68.8	63.6	100.0	1,676	1,104
	②	9/25	93.2	68.4	57.3	94.8	1,656	949
	③	10/5	88.1	67.4	54.4	94.8	1,566	852
畑園系	①	9/14	101.3	70.9	32.7	99.1	1,801	589
	②	9/25	92.9	68.5	62.8	97.5	1,652	1,037
	③	10/5	86.5	66.7	64.1	92.7	1,538	986

※調査は、乾燥終了後に実施。

※10a 換算収量=球重×植付片数。10a 換算Ａ品収量=10a 換算収量×Ａ品率。計算式と数字が一致しないのは四捨五入のため。

表３　規格別収量及び品質割合

調査区名		規格別収量(kg/10a)					品質割合（%）			
		2L	L	M	S	規格外	A	B	C	等級外
白玉王	①	688	988	0	0	0	63.6	32.4	4.0	0.0
	②	813	757	87	0	0	57.3	25.8	15.0	1.8
	③	604	881	81	0	0	54.4	40.9	4.7	0.0
畑園系	①	1,298	486	17	0	0	32.7	28.5	38.8	0.0
	②	718	893	41	0	0	62.8	28.4	8.8	0.0
	③	361	1,065	112	0	0	64.1	30.2	5.8	0.0

※各規格の収量と合計が一致しない、品質割合の合計が 100 とならないのは四捨五入のため。

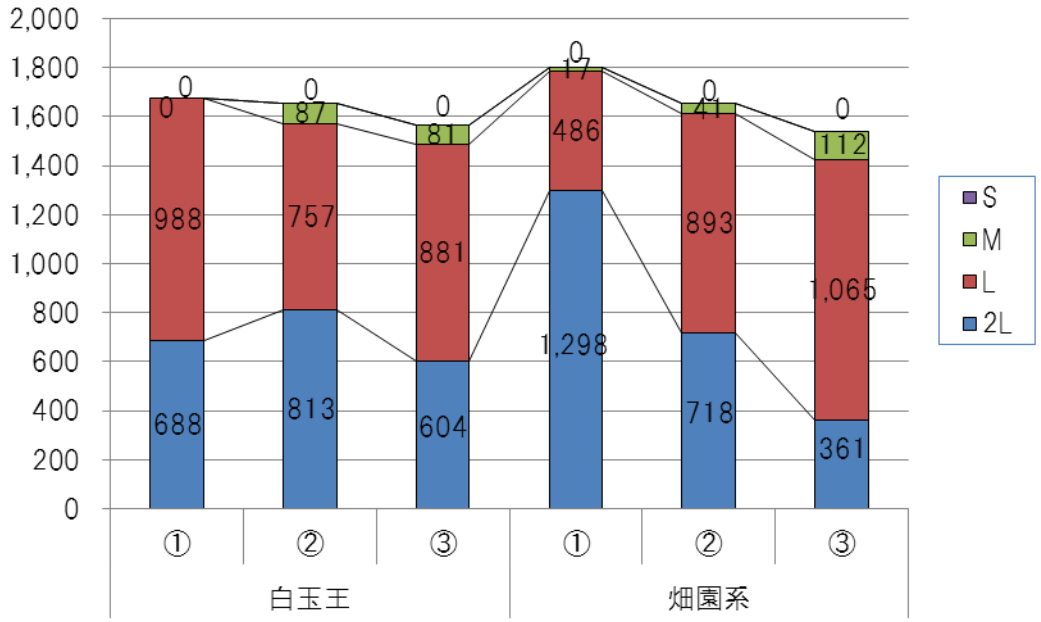


図１　規格別収量（kg/10a）

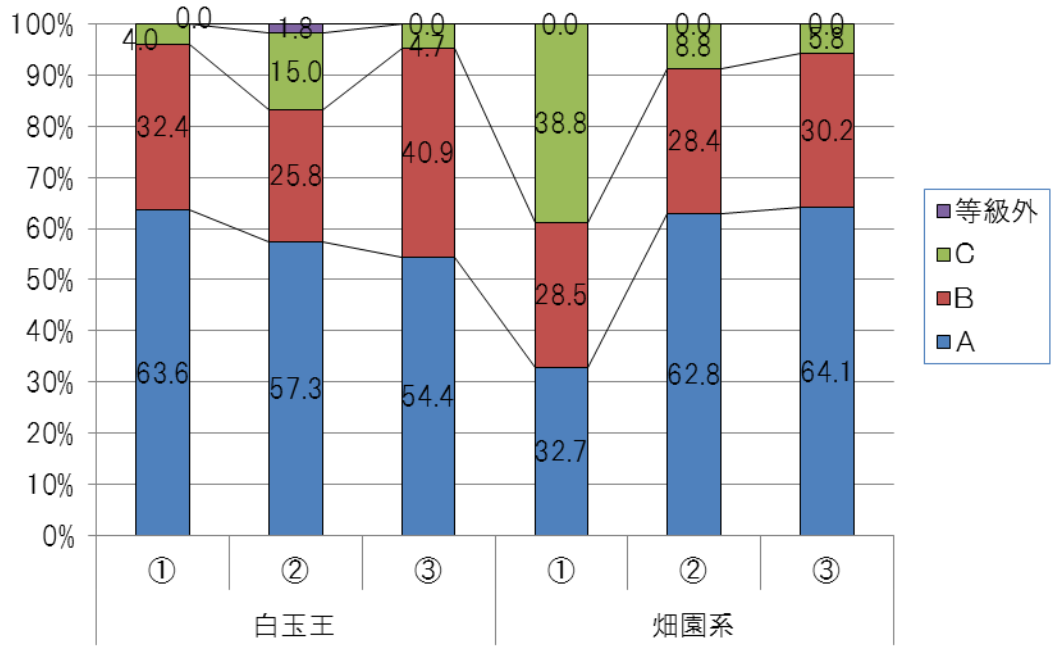


図２　等級割合

2-4 調査成績（花き）

花きの部　No.1

項　目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(7～8 月出荷)（継続：平成 30 年度～平成 31 年度）

１目的　収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、7～8 月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 10 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培
2)　は種年月日　平成 31 年 2 月 15 日
3)　定植年月日　平成 31 年 4 月 1 日
4)　栽植距離　ベッド幅 60 ㎝、株間 10 ㎝、条間 10㎝、4 条植え(中 2 条抜き)
5)　定植株数　2,720 本/棟
6)　施肥量　（基肥）N-P-K=1.00-0.60-3.80 kg/a
（追肥）N-P-K=0.30-0.16-0.34 kg/a
（基肥）ビオン 068（10-6-8）：10.0 kg/a
硫酸加里（K:50）：6.0 kg/a
（追肥）OK-F-1（15-8-17）：2.0 kg/a
7)　使用資材　白黒ダブルマルチ、10㎝×6 目フラワーネット
8)　収穫時期　令和元年 7 月 23 日～8 月 12 日
9)　薬剤散布　16 回（成分回数）
10)　保温　内カーテン（平成 31 年 4 月 1 日～令和元年 5 月 13 日）

(3)　調査区の構成　13 区（1 区 10 株、1 区制）

1)　調査区
2)　供試品種

No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>	ｷﾝｸﾞｵﾌﾞｽﾉｰﾌﾟﾚﾐｱﾑ	早生	中大	白	㈱サカタのタネ
<2>	ｼｬｲﾝﾎﾜｲﾄ	中早生	大	白	㈱ムラカミシード
<3>	ﾚｶﾞﾛ	中早生	大	白	カネコ種苗㈱
<4>	ﾎﾞﾔｰｼﾞｭﾎﾜｲﾄ	中生	大	白	㈱サカタのタネ
<5>	ﾎﾞﾝ･ﾎﾞﾔｰｼﾞｭｼﾙｸ	中生	大	白	㈱サカタのタネ
<6>	ｱﾓｰﾚﾎﾜｲﾄ	中生	大	白	タキイ種苗㈱
<7>	ｵｰﾄﾞﾘｰ	中生	大	白	タキイ種苗㈱
<8>	ｾﾚﾌﾞｸﾘｽﾀﾙ	中生	大	白	住化農業資材㈱
<9>	凛	中生	中大	白	㈱ミヨシ
<10>	ﾊﾋﾟﾈｽﾎﾜｲﾄ	中晩生	中大	白	㈱ミヨシ
<11>	ﾐﾝｸ	中晩生	中大	白	㈱タキイ種苗㈱
<12>	ﾌﾟﾗｲﾑﾎﾜｲﾄ	中晩生	中	白	住化農業資材㈱
<13>	ﾊﾟﾃｨｵﾒｶﾞﾎﾜｲﾄ	中晩生	大	白	住化農業資材㈱

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　生育

株張りが良く順調な生育であったが、上位節間の徒長を防ぐため、生育後半は乾燥気味の管理を行った影響で、茎は硬く仕上がったものの、十分な草丈が確保できない品種が見られた。

病害虫については、開花期以降にアザミウマが散見された。

(2)　開花

採花時期は、7 月 23 日から 8 月 12 日となり、全品種において盆前の採花となった。早晩性の違いによる大きな差は見られなかった。

開花が最も早かったのは、「キングオブスノープレミアム」、最も遅かったのは、「オードリー」となった。

全品種における採花の盛期は、8 月 2 日から 8 月 9 日となった。

(3)　切花品質

切花長では、「プライムホワイト」で最も長く 95.8 ㎝、「凛」で最も短く 63.5cm となった。

茎径では、「パティオメガホワイト」で最も太く 8.1mm となった。

開花数と花蕾数の合計は、全ての品種で 6 個以上となった。

また、「キングオブスノープレミアム」、「ボヤージュホワイト」、「セレブクリスタル」、「プライムホワイト」は、他品種に比べ茎が硬かった。

「パティオメガホワイト」については花が非常に大きいため、花首が曲がらないよう、ほ場での早めの芽整理が必要である。

(4)　次年度以降の計画

完了

表 1　採花期

品種名	早晩性	花径	採花期（開始～終了）	採花期（盛期）
<1> ｷﾝｸﾞｵﾌﾞｽﾉｰﾌﾟﾚﾐｱﾑ	早生	中大	7/23 ～ 8/ 9	8/ 2
<2> ｼｬｲﾝﾎﾜｲﾄ	中早生	大	7/25 ～ 8/ 9	8/ 5
<3> ﾚｶﾞﾛ	中早生	大	7/29 ～ 8/ 9	8/ 5
<4> ﾎﾞﾔｰｼﾞｭﾎﾜｲﾄ	中生	大	7/29 ～ 8/ 9	8/ 5
<5> ﾎﾞﾝ･ﾎﾞﾔｰｼﾞｭｼﾙｸ	中生	大	7/29 ～ 8/ 9	8/ 7
<6> ｱﾓｰﾚﾎﾜｲﾄ	中生	大	8/ 2 ～ 8/12	8/ 7
<7> ｵｰﾄﾞﾘｰ	中生	大	8/ 7 ～ 8/12	8/ 9
<8> ｾﾚﾌﾞｸﾘｽﾀﾙ	中生	大	8/ 5 ～ 8/12	8/ 7
<9> 凛	中生	中大	7/31 ～ 8/ 9	8/ 7
<10>ﾊﾋﾟﾈｽﾎﾜｲﾄ	中晩生	中大	7/31 ～ 8/ 9	8/ 7
<11>ﾐﾝｸ	中晩生	中大	8/ 5 ～ 8/12	8/ 7
<12>ﾌﾟﾗｲﾑﾎﾜｲﾄ	中晩生	中	8/ 5 ～ 8/12	8/ 7
<13>ﾊﾟﾃｨｵﾒｶﾞﾎﾜｲﾄ	中晩生	大	8/ 5 ～ 8/12	8/ 7

表 2　切花調査

品種名	切花長（cm）	切花重（g）	調整重（g）	節数（節）	茎長（cm）	茎径（mm）	着蕾側枝数（本）	開花数（個）	花蕾数（個）
<1> ｷﾝｸﾞｵﾌﾞｽﾉｰﾌﾟﾚﾐｱﾑ	70.1	71.5	58.7	9.8	36.3	6.1	5.1	3.4	11.4
<2> ｼｬｲﾝﾎﾜｲﾄ	74.3	66.1	48.1	10.2	40.0	6.4	4.8	2.8	9.8
<3> ﾚｶﾞﾛ	68.3	66.3	49.4	10.0	40.4	6.3	3.9	2.3	8.2
<4> ﾎﾞﾔｰｼﾞｭﾎﾜｲﾄ	74.5	63.5	47.0	9.1	40.9	6.5	3.8	3.0	11.1
<5> ﾎﾞﾝ･ﾎﾞﾔｰｼﾞｭｼﾙｸ	72.6	62.4	46.2	9.5	41.7	7.3	4.4	2.8	11.2
<6> ｱﾓｰﾚﾎﾜｲﾄ	81.3	75.7	58.4	10.7	53.4	6.9	4.3	2.3	8.8
<7> ｵｰﾄﾞﾘｰ	64.2	53.5	36.0	8.7	39.6	5.6	2.7	2.1	4.9
<8> ｾﾚﾌﾞｸﾘｽﾀﾙ	83.0	72.9	59.9	10.9	56.6	7.2	2.7	2.3	7.3
<9> 凛	63.5	55.3	43.8	8.6	47.9	6.2	2.7	2.7	9.9
<10>ﾊﾋﾟﾈｽﾎﾜｲﾄ	72.0	56.2	42.2	9.4	51.0	5.7	3.5	2.0	9.4
<11>ﾐﾝｸ	64.5	51.1	40.6	8.6	49.9	5.9	3.9	2.7	9.8
<12>ﾌﾟﾗｲﾑﾎﾜｲﾄ	95.8	89.6	71.6	9.9	76.7	7.2	3.2	2.2	6.4
<13>ﾊﾟﾃｨｵﾒｶﾞﾎﾜｲﾄ	83.7	84.7	65.4	9.3	64.0	8.1	3.7	2.3	9.4

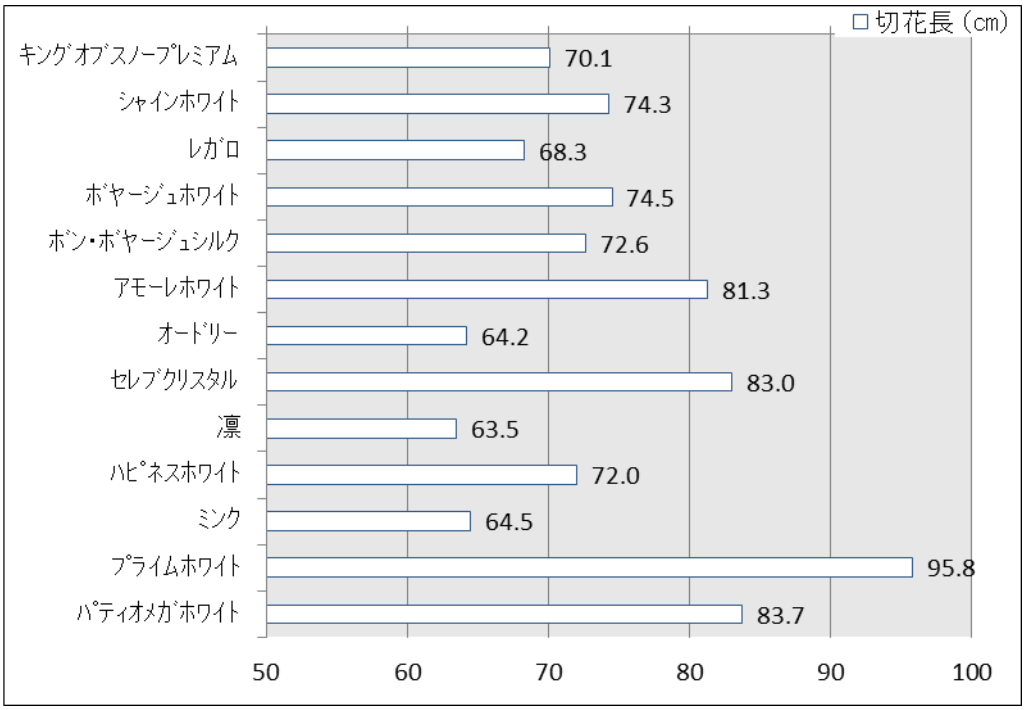


図１　切花長の比較

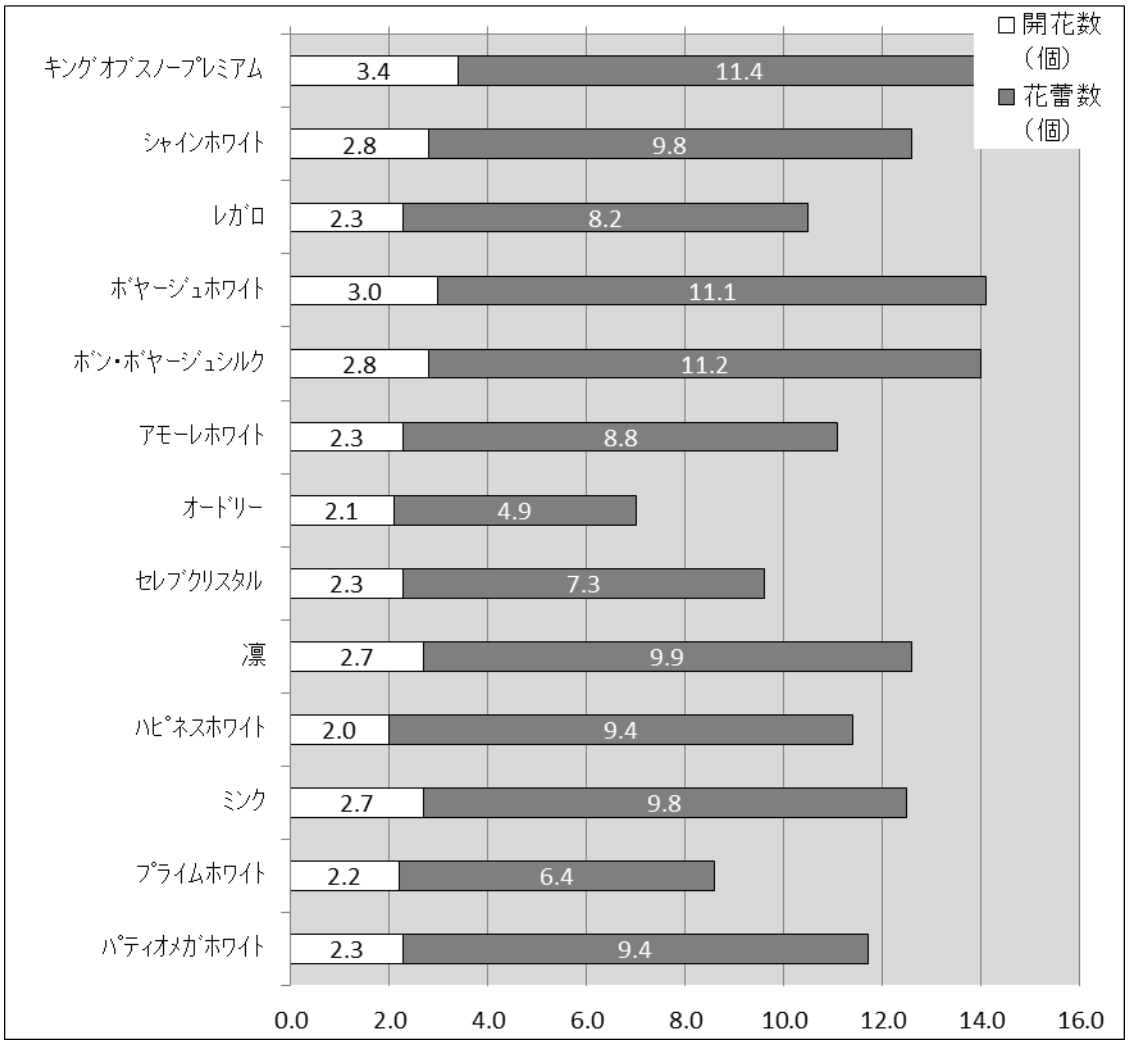


図２　開花数＋花蕾数の比較

花きの部　№2

項　目：品種比較調査

調査名：カンパニュラの品種比較調査（5月出荷）（継続：平成30年度～平成31年度）

１目的　県南地域において、収益性の面で有望な花き品目であるカンパニュラについて、品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス8号（99㎡：約30坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培

2)　は種年月日　平成30年9月3日

3)　定植年月日　平成30年10月5日

4)　仕立て法　平成30年12月7日に全品種をピンチ、
平成31年2月25日から全品種を8本～10本程度に整枝

5)　栽植距離　ベッド幅60㎝、株間20㎝、条間40cm、2条植え(中1条抜き)

6)　定植株数　720株/棟

7)　施肥量　N-P-K-Mg=0.70-0.06-3.69-0.12 kg/a
（基肥）アルガ215（12-1-5-2）：5.8 kg/a
硫酸加里（K:50%）：6.8 kg/a

8)　使用資材　バイオ21、黒マルチ
20cm×3目フラワーネット

9)　収穫期間　令和元年5月8日～6月3日

10)　保温　内カーテン（平成30年12月7日～平成31年4月4日）
パスライトトンネル
（平成30年12月10日～平成31年3月27日）

11)　薬剤散布　23回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　8　区（1区5株、1区制）

2)　供試品種

No.	品種名	花色	会社名
〈1〉	チャンピオンホワイト	白	㈱サカタのタネ
〈2〉	チャンピオンパープル	青紫	㈱サカタのタネ
〈3〉	チャンピオンピンク	桃	㈱サカタのタネ
〈4〉	チャンピオンスカイブルー	淡青	㈱サカタのタネ
〈5〉	チャイムホワイト	白	㈱サカタのタネ
〈6〉	チャイムライトピンク	淡桃	㈱サカタのタネ
〈7〉	メイホワイト	白	㈱サカタのタネ
〈8〉	カンパーナホワイト	白	㈱ミヨシ

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　生育

全品種において、病害虫の発生は見られず、順調な生育であった。

徒長及び首曲がりを防ぐため、施肥と灌水を控えめにし、冬場も積極的に換気を行った結果、全品種において充分な草丈が確保できたが、「メイホワイト」において一部首曲がりの症状が見られた。

(2)　開花

開花時期は、全品種の中で「チャイムホワイト」が最も早く、採花期は5月8日～5月24日となった。

また、チャンピオン、チャイムシリーズにおいては、ホワイトの開花が最も早い結果となった。

全体の採花期は5月8日～6月3日で、盛期は5月22日～5月29日となった。

(3)　切花品質

切花長では、「チャンピオンピンク」で最も長く、「チャイムライトピンク」で最も短くなった。

切花重では、「チャンピオンピンク」で最も重かった。

花穂長では、「チャンピオンピンク」で最も長かった。

茎径では、「チャンピオンスカイブルー」で最も太かった。

葉数では、「チャンピオンスカイブルー」で最も多かった。

花蕾数では、「チャンピオンピンク」で最も多かった。

花径では、「チャンピオンピンク」で最も大きかった。

(4)　調査期間2箇年の結果

開花時期は、チャイムシリーズが最も早く、花色別では各シリーズの中でもホワイトの開花が早い傾向にあった。

切花品質は、切花長、切花重、花径等の点から、チャンピオンシリーズが最もボリュームのある傾向にあった。

開花時期が集中し、盛期が重なりやすいカンパニュラにおいては、適期に収穫を終えられるよう、各シリーズと花色別の特徴を考慮し、用途に合わせた品種選定を行うことが重要であると考えられる。

(5)　次年度以降の計画

完了

表1　採花期

品種名	採花期	
	(開始～終了)	(盛期)
チャンピオンホワイト	5/10～5/24	5/22
チャンピオンパープル	5/14～5/27	5/24
チャンピオンピンク	5/20～5/29	5/27
チャンピオンスカイブルー	5/13～5/27	5/22
チャイムホワイト	5/ 8～5/24	5/22
チャイムライトピンク	5/10～5/24	5/22
メイホワイト	5/17～5/24	5/24
カンパーナホワイト	5/20～6/ 3	5/29

表2　切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	花穂長 (cm)	茎径 (mm)	葉数 (枚)	花蕾数 (個)	花径 (cm)
チャンピオンホワイト	115.3	91.9	43.0	7.9	60.1	18.4	4.0
チャンピオンパープル	123.7	114.6	39.3	9.5	55.6	17.7	4.2
チャンピオンピンク	130.5	122.6	56.1	9.0	87.5	24.8	4.7
チャンピオンスカイブルー	128.8	121.6	54.6	9.6	88.8	23.2	4.0
チャイムホワイト	101.4	70.2	39.6	7.7	52.6	14.9	3.9
チャイムライトピンク	88.9	72.4	41.0	7.5	59.5	14.6	3.2
メイホワイト	114.5	77.9	51.0	8.1	78.5	21.7	3.7
カンパーナホワイト	115.0	92.4	41.1	7.9	41.0	16.7	3.9

表 3　過去 2 箇年の調査結果（採花期）

年度	品種名	採花期（開始～終了）	採花期（盛期）
31	チャンピオンホワイト	5/10～5/24	5/22
	チャンピオンパープル	5/14～5/27	5/24
	チャンピオンピンク	5/20～5/29	5/27
	チャンピオンスカイブルー	5/13～5/27	5/22
	チャイムホワイト	5/ 8～5/24	5/22
	チャイムライトピンク	5/10～5/24	5/22
	メイホワイト	5/17～5/24	5/24
	カンパーナホワイト	5/20～6/ 3	5/29
30	チャンピオンホワイト	5/21～5/31	5/24
	チャンピオンパープル	5/24～6/ 1	5/30
	チャンピオンピンク	5/25～6/ 1	5/29
	チャイムホワイト	5/18～6/ 1	5/24
	チャイムライトピンク	5/21～5/30	5/24
	チャイムパープル	5/23～5/31	5/29
	カンパーナホワイト	5/24～6/ 1	5/30
	カンパーナディープブルー	5/28～6/ 8	6/ 6

表 4　調査期間 2 箇年の調査結果（切花調査）

年度	品種名	切花長（cm）	切花重（g）	花穂長（cm）	茎径（mm）	葉数（枚）	花蕾数（個）	花径（cm）
31	チャンピオンホワイト	115.3	91.9	43.0	7.9	60.1	18.4	4.0
	チャンピオンパープル	123.7	114.6	39.3	9.5	55.6	17.7	4.2
	チャンピオンピンク	130.5	122.6	56.1	9.0	87.5	24.8	4.7
	チャンピオンスカイブルー	128.8	121.6	54.6	9.6	88.8	23.2	4.0
	チャイムホワイト	101.4	70.2	39.6	7.7	52.6	14.9	3.9
	チャイムライトピンク	88.9	72.4	41.0	7.5	59.5	14.6	3.2
	メイホワイト	114.5	77.9	51.0	8.1	78.5	21.7	3.7
	カンパーナホワイト	115.0	92.4	41.1	7.9	41.0	16.7	3.9
30	チャンピオンホワイト	104.8	67.3	53.7	8.6	62.2	14.8	4.1
	チャンピオンパープル	125.0	91.2	38.3	10.3	57.5	17.0	4.4
	チャンピオンピンク	129.1	117.2	74.6	10.3	93.0	30.7	4.3
	チャイムホワイト	103.1	50.9	40.2	7.8	60.1	12.0	4.0
	チャイムライトピンク	88.1	49.7	40.5	7.9	59.1	13.2	3.2
	チャイムパープル	107.0	81.5	64.0	8.6	77.4	22.2	3.6
	カンパーナホワイト	109.1	63.3	35.4	8.1	40.6	11.6	3.4
	カンパーナディープブルー	110.6	63.4	34.9	8.2	45.1	12.0	3.6

花きの部　No.3

項　目：栽培技術調査

調査名：シネンシス系デルフィニウムの栽培調査（継続：平成30年度～平成31年度）

１目的　当地域におけるシネンシス系品種の年内2回収穫の作型について特性を把握するため、春定植栽培について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス12号（99㎡：約30坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培
2)　は種年月日　平成31年1月28日
3)　定植年月日　平成31年3月14日
4)　栽植距離　ベッド幅90㎝、株間15㎝、条間15cm、6条植え
5)　定植株数　2,160株/棟
6)　仕立て法　令和元年5月22日に全品種をピンチ
7)　施肥量　（基肥）N-P-K-Mg=1.50-0.13-5.03-1.57 kg/a
（追肥）N-P-K=0.27-0.14-0.31 kg/a
（基肥）アルガ215（12-1-5-2）：12.5 kg/a
硫酸加里（K：50）：8.8 kg/a
ハイクド（Mg：40）：3.3 kg/a
（追肥）OK-F-1（15-8-17）：1.8 kg/a
8)　使用資材　白黒ダブルマルチ、15cm×6目フラワーネット
9)　遮光･遮熱期間　メガクール（令和元年6月14日～8月12日）
10)　電照期間　令和元年5月29日～8月12日
日入約30分前電照開始、日出から消灯まで明期18時間確保
11)　収穫期間　1番花：令和元年6月7日～6月28日
2番花：令和元年8月1日～8月12日
12)　保温　パスライトトンネル（平成31年3月14日～4月19日）
内カーテン（平成31年3月14日～令和元年5月13日）
13)　薬剤散布　1番花収穫前まで：9回（成分回数）
2番花収穫前まで：4回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　3区（1区10株、1区制）
2)　供試品種

No.	品種名	花色	会社名
<1>	ファッションブルー	青	㈱ムラカミシード
<2>	ファッションマリン	青	㈱ムラカミシード
<3>	ファッションスカイ	淡青	㈱ムラカミシード

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　生育

2番花の収穫時期までは、欠株等も無く順調な生育で、株の揃いも良かった。品種ごとに見ると、ファッションマリンの生育が旺盛で、1番花収穫後の、株元の葉数も他品種に比べ多かった。

病害虫については2番花の採花期に、うどんこ病の発生が散見された。

また、4月から8月の気温が高く推移したことにより、昨年度に比べ開花が早まり、草丈が低い結果となった。

(2)　開花

1番花は、「ファッションマリン」、「ファッションブルー」、「ファッションスカイ」の順序で開花し、採花期は6月7日～6月28日、盛期は、「ファッションブルー」及び「ファッションマリン」で6月21日、「ファッションスカイ」で6月24日となった。

2番花は、「ファッションブルー」、「ファッションマリン」で同日、次いで「ファッションスカイ」の順序で開花し、採花期は8月1日～8月12日となった。

(3)　切花品質

切花長では、1番花は「ファッションマリン」で最も長く、「ファッションスカイ」で最も短くなった。2番花は全ての品種で60cm台となった。

側枝数では、1番花は「ファッションマリン」で最も多く10.0本、2番花も「ファッションマリン」で最も多く7.6本となった。

小花数では、1番花は全品種で70個台となり、2番花は全品種で20個台となった。

(4)　調査期間2箇年の結果

シネンシス系デルフィニウムの年内2回収穫を実施するうえで、1番の課題とされるのは夏季の高温対策である。この課題について、前年度同様に寒冷紗や循環扇の設置等を行ったほか、1番花の採花時に基部を長めに残し株の消耗を抑えたことや多灌水により、欠株を抑えることができた。

その年の天候により、収量及び切花品質に若干のばらつきはあるが、1番花の採花時期は当地域の他の主力品目と重ならず、2番花の採花時期は需要の多い盆前であることから、花き品目のなかでは有望な品目であると考えられる。

(5)　次年度以降の計画

完了

表1　採花期

品種名		採花期 (開始～終了)	(盛期)
ファッションブルー	1番花	6/10～6/25	6/21
	2番花	8/ 1～8/ 9	8/ 6
ファッションマリン	1番花	6/ 7～6/28	6/21
	2番花	8/ 1～8/ 9	8/ 6
ファッションスカイ	1番花	6/14～6/28	6/24
	2番花	8/ 5～8/12	8/ 9

表2　切花調査

品種名		切花長 (cm)	切花重 (g)	茎長 (cm)	花穂長 (cm)	茎径 (mm)	側枝数 (本)	小花数 (個)
ファッションブルー	1番花	76.9	71.6	53.9	25.9	6.1	8.8	78.7
	2番花	62.5	27.0	-	26.8	3.5	5.5	27.6
ファッションマリン	1番花	87.5	80.0	56.9	32.8	6.7	10.0	76.0
	2番花	68.9	31.3	-	27.4	4.5	7.6	28.2
ファッションスカイ	1番花	75.5	76.5	52.3	25.6	5.8	9.2	76.5
	2番花	62.3	31.0	-	25.1	3.9	6.3	28.6

表３　調査期間２箇年の結果（採花期）

年度	品種名		採花期（開始～終了）	（盛期）
31	ファッションブルー	1番花	6/10～6/25	6/21
		2番花	8/ 1～8/ 9	8/ 6
	ファッションマリン	1番花	6/ 7～6/28	6/21
		2番花	8/ 1～8/ 9	8/ 6
	ファッションスカイ	1番花	6/14～6/28	6/24
		2番花	8/ 5～8/12	8/ 9
30	ファッションブルー	1番花	6/18～6/29	6/27
		2番花	8/10～8/17	8/13
	ファッションマリン	1番花	6/18～6/27	6/22
		2番花	8/10～8/13	8/10
	ファッションスカイ	1番花	6/22～7/ 4	6/27
		2番花	8/13～8/17	8/15

表３　調査期間２箇年の結果（切花調査）

年度	品種名		切花長（cm）	切花重（g）	茎長（cm）	花穂長（cm）	茎径（mm）	側枝数（本）	小花数（個）
31	ファッションブルー	1番花	76.9	71.6	53.9	25.9	6.1	8.8	78.7
		2番花	62.5	27.0	-	26.8	3.5	5.5	27.6
	ファッションマリン	1番花	87.5	80.0	56.9	32.8	6.7	10.0	76.0
		2番花	68.9	31.3	-	27.4	4.5	7.6	28.2
	ファッションスカイ	1番花	75.5	76.5	52.3	25.6	5.8	9.2	76.5
		2番花	62.3	31.0	-	25.1	3.9	6.3	28.6
30	ファッションブルー	1番花	87.6	78.9	66.2	36.4	6.3	11.5	85.9
		2番花	66.2	24.5	-	27.9	4.1	7.5	27.5
	ファッションマリン	1番花	92.3	83.6	64.5	38.9	6.9	10.9	84.8
		2番花	73.3	34.0	-	31.5	5.4	8.7	33.4
	ファッションスカイ	1番花	85.5	69.7	55.8	31.2	5.9	9.3	72.5
		2番花	65.8	33.5	-	28.1	5.4	9.1	36.8

花きの部　No.4

項　目：品種比較調査

調査名：ディスバッドマムの品種比較調査(11 月出荷)（継続：平成 30 年度～平成 31 年度）

１目的　今後、当地域の有望花き品目として期待されるディスバッドマムについて、11 月出荷作型における栽培技術及び品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 2 号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1) 栽培方法　土耕栽培
2) 定植年月日　令和元年 9 月 6 日
3) 栽植距離　ベッド幅 80 cm、株間 10 cm、条間 10cm、6 条植え（中 2 条抜き）
4) 定植株数　2,300 本/棟
5) わい化剤処理　令和元年 10 月 16 日　ビーナイン顆粒水溶剤 1,000 倍
6) 施肥量　N-P-K-Mg=1.50-0.13-6.38-1.37 kg/a
（基肥）アルガ 215（12-1-5-2）：12.5 kg/a
硫酸加里（K：50）：11.5 kg/a
ハイクド（Mg：40）：2.8 kg/a
7) 使用資材　10cm×8 目フラワーネット、黒マルチ
8) 電照期間　令和元年 9 月 6 日～10 月 4 日　22:00～3:00（暗期中断）
9) 収穫時期　令和元年 11 月 14 日～12 月 12 日
10) 保温　内カーテン（令和元年 10 月 11 日～12 月 12 日）
11) 薬剤散布　22 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1) 調査区　18 区（1 区 10 株、1 区制）
2) 供試品種

No.	品種名	花色	会社名
<1>	ｱﾌﾞﾛﾝ	赤	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<2>	ﾁｽﾊﾟ	赤	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<3>	ｴﾄﾙｽｺ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<4>	ｴﾄﾞﾓﾝﾄﾞ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<5>	ｼｬﾎﾞﾝ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<6>	ｾﾚﾆﾃｨﾀﾞｰｸ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<7>	ﾊﾞﾙﾀｻﾞｰﾙ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<8>	ﾍｯｼﾞﾎｯｸﾞ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<9>	ｼﾍﾞﾘｱ	白	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<10>	ﾈｵｽ	白	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<11>	ﾊﾟﾗﾄﾞﾌ	橙	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<12>	ﾋﾞｰﾊｲﾌﾞ	橙	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<13>	ﾌｧｲﾔｰﾎﾞｰﾙﾀﾞｰｸ	橙	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<14>	ﾎﾞﾝﾎﾞﾝｲｴﾛｰ	黄	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<15>	ﾏﾙﾍﾞﾘｰ	紫	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<16>	ｵﾘｰﾌﾞ	緑	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<17>	ｾﾞﾝﾌﾞﾗﾗｲﾑ	黄緑	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<18>	ﾊﾞﾙﾃｨｶﾗｲﾑ	黄緑	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　生育

全品種において、病害虫の発生は見られず、順調な生育となった。

10 月 9 日から、脇芽欠きを順次行った。

一部の品種において、やなぎ葉の発生が確認されたものの、やなぎ芽及び奇形花等の発生は見られなかった。

(2)　開花

採花時期は、11 月 14 日から 12 月 12 日となり、品種間による差が見られた。採花の盛期は 11 月 25 日から 12 月 9 日となった。

全体的に計画より開花が遅れた要因については、無加温の管理下において、栽培後半の夜温が低く推移したことが、生育に影響したものと考えられる。

(3)　切花品質

切花長では、「エトルスコ」で最も長く 144.4cm、「アブロン」、「ネオス」で最も短く 97.4cm となった。

切花重では、「ビーハイブ」で最も重く 94.4g となった。

花首長では、「エドモンド」、「シベリア」、「ネオス」、「ボンボンイエロー」、「オリーブ」が 1cm 台となった。

茎径では、「バルタザール」で最も太く 8.0mm となった。

(4)　その他

今回の試験では、全品種において採花することができたが、低温障害が原因と考えられる、花弁の変色や開花揃いの悪さ、葉枯れ等の症状が見受けられた。特に症状の多かった品種は、「シベリア」、「ボンボンイエロー」、「ゼンブラライム」、「バルティカライム」であった。

(5)　調査期間 2 箇年の結果

当地域では、11 月出荷作型で無加温の管理下においても採花ができたことから、8 月盆出荷と組み合わせることで、無加温による年内 2 作型の実施が可能であることが確認された。

ただし、採花時期が 12 月に入ると、気温の低下及び少日照等の影響が開花の遅れを助長し、また花首も伸びやすくなるなど、切花品質が低くなる傾向にあったことから、定植時期を早めるか、その年の天候によっては加温することにより、切花品質の低下や未開花等のロスを防ぐことができると考えられる。

また、品種間で低温耐性に差が見られたため、品種選定を慎重に行うことが重要である。

次年度以降の計画

完了

表１　採花期

品種名	採花期（開始～終了）	（盛期）
<1>　ｱﾌﾞﾛﾝ	11/20～11/29	11/25
<2>　ﾁｽﾊﾟ	11/20～11/29	11/25
<3>　ｴﾄﾙｽｺ	11/20～11/29	11/25
<4>　ｴﾄﾞﾓﾝﾄﾞ	11/20～11/29	11/25
<5>　ｼｬﾎﾞﾝ	11/28～12/12	12/ 9
<6>　ｾﾚﾆﾃｨﾀﾞｰｸ	11/14～11/25	11/18
<7>　ﾊﾞﾙﾀｻﾞｰﾙ	11/28～12/12	12/ 9
<8>　ﾍｯｼﾞﾎｯｸﾞ	11/28～12/12	12/ 6
<9>　ｼﾍﾞﾘｱ	11/20～12/12	12/ 9
<10>　ﾈｵｽ	11/20～11/29	11/25
<11>　ﾊﾟﾗﾄﾞﾌ	11/20～12/ 3	11/25
<12>　ﾋﾞｰﾊｲﾌﾞ	11/25～12/ 3	11/28
<13>　ﾌｧｲﾔｰﾎﾞｰﾙﾀﾞｰｸ	12/ 2～12/12	12/ 6
<14>　ﾎﾞﾝﾎﾞﾝｲｴﾛｰ	11/28～12/ 9	12/ 3
<15>　ﾏﾙﾍﾞﾘｰ	11/28～12/ 9	12/ 3
<16>　ｵﾘｰﾌﾞ	11/28～12/ 3	11/28
<17>　ｾﾞﾝﾌﾞﾗﾗｲﾑ	11/25～12/ 3	11/28
<18>　ﾊﾞﾙﾃｨｶﾗｲﾑ	11/20～11/30	11/25

表２　切花調査

品種名	切花長（cm）	切花重（g）	花首長（cm）	茎径（mm）	花径（cm）
<1>　ｱﾌﾞﾛﾝ	97.4	77.4	2.1	7.2	6.8
<2>　ﾁｽﾊﾟ	140.4	82.8	2.7	7.2	9.4
<3>　ｴﾄﾙｽｺ	144.4	70.0	3.2	6.6	9.2
<4>　ｴﾄﾞﾓﾝﾄﾞ	119.2	77.0	1.0	6.2	4.0
<5>　ｼｬﾎﾞﾝ	114.4	92.0	2.7	7.0	5.6
<6>　ｾﾚﾆﾃｨﾀﾞｰｸ	122.2	62.6	3.3	6.6	11.0
<7>　ﾊﾞﾙﾀｻﾞｰﾙ	138.0	80.0	2.1	8.0	11.0
<8>　ﾍｯｼﾞﾎｯｸﾞ	111.0	80.2	2.0	6.8	8.0
<9>　ｼﾍﾞﾘｱ	98.6	63.0	1.1	7.8	5.8
<10>　ﾈｵｽ	97.4	62.4	1.2	6.2	4.4
<11>　ﾊﾟﾗﾄﾞﾌ	110.6	84.8	2.2	7.0	7.0
<12>　ﾋﾞｰﾊｲﾌﾞ	122.0	94.4	2.8	7.2	6.2
<13>　ﾌｧｲﾔｰﾎﾞｰﾙﾀﾞｰｸ	117.2	51.6	2.1	5.6	3.2
<14>　ﾎﾞﾝﾎﾞﾝｲｴﾛｰ	108.8	70.0	1.5	6.6	6.8
<15>　ﾏﾙﾍﾞﾘｰ	109.6	70.8	3.3	6.4	8.6
<16>　ｵﾘｰﾌﾞ	107.6	53.6	1.8	5.6	3.4
<17>　ｾﾞﾝﾌﾞﾗﾗｲﾑ	117.6	62.0	2.3	6.4	10.2
<18>　ﾊﾞﾙﾃｨｶﾗｲﾑ	113.8	57.4	2.6	5.8	11.0

〈1〉 ｱﾌﾞﾛﾝ

〈2〉 ﾁｽﾊﾟ

〈3〉 ｴﾄﾙｽｺ

〈4〉 ｴﾄﾞﾓﾝﾄﾞ

〈5〉 ｼｬﾎﾞﾝ

〈6〉 ｾﾚﾆﾃｨﾀﾞｰｸ

〈7〉 ﾊﾞﾙﾀｻﾞｰﾙ

〈8〉 ﾍｯｼﾞﾎｯｸﾞ

〈9〉 ｼﾍﾞﾘｱ

〈10〉 ﾈｵｽ

〈11〉 ﾊﾟﾗﾄﾞﾌ

〈12〉 ﾋﾞｰﾊｲﾌﾞ

〈13〉 ﾌｧｲﾔｰﾎﾞｰﾙﾀﾞｰｸ

〈14〉 ﾎﾞﾝﾎﾞﾝｲｴﾛｰ

〈15〉 ﾏﾙﾍﾞﾘｰ

〈16〉 ｵﾘｰﾌﾞ

〈17〉 ｾﾞﾝﾌﾞﾗﾗｲﾑ

〈18〉 ﾊﾞﾙﾃｨｶﾗｲﾑ

花きの部　No.5

項　目：品種比較調査

調査名：ディスバッドマムの品種比較調査(8 月出荷)（新規：平成 31 年度～令和 2 年度）

１目的　今後、当地域の有望花き品目として期待されるディスバッドマムについて、8 月出荷作型における栽培技術及び品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 2 号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1) 栽培方法　土耕栽培
2) 定植年月日　令和元年 6 月 3 日
3) 栽植距離　ベッド幅 80 cm、株間 10 cm、条間 10cm、6 条植え（中 2 条抜き）
4) 定植株数　3,600 本/棟
5) わい化剤処理　令和元年 7 月 24 日　ビーナイン顆粒水溶剤 1,000 倍
6) 施肥量　N-P-K=1.50-0.90-2.70 kg/a
（基肥）ビオン 068（10-6-8）：15.0 kg/a
硫酸加里（K：50）：3.0 kg/a
7) 使用資材　10cm×8 目フラワーネット、黒マルチ
8) 電照期間　令和元年 6 月 3 日～6 月 27 日　22:00～3:00（暗期中断）
9) シェード管理　令和元年 6 月 28 日～8 月 22 日　17：30～6：30（11 時間日長）
10) 収穫時期　令和元年 8 月 7 日～8 月 22 日
11) 薬剤散布　23 回（成分回数）

(3)　調査区の構成

1) 調査区　12 区（1 区 10 株、1 区制）
2) 供試品種

No.	品種名	花色	会社名
<1>	ﾁｽﾊﾟ	赤	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<2>	ｱﾋﾞｰ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<3>	ｶﾘｽ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<4>	ｿﾙﾍﾞｯﾄﾍﾞﾘｰ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<5>	ﾊﾞﾙﾀｻﾞｰﾙ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<6>	ﾏﾁﾙﾀﾞ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<7>	ﾛｻｰﾉｼｬﾙﾛｯﾃ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<8>	ﾛｻｰﾉｼｬﾙﾛｯﾃﾀﾞｰｸ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<9>	ｱﾋﾞｰｲｴﾛｰ	黄	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<10>	ﾎﾞﾝﾎﾞﾝｲｴﾛｰ	黄	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<11>	ｱﾅｽﾀｼｱﾀﾞｰｸｸﾞﾘｰﾝ	緑	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<12>	ｾﾞﾝﾌﾞﾗﾗｲﾑ	黄緑	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ

(4)　調査項目　開花、切花

３結果の概要

(1)　生育

全品種において、病害発生は見られなかったものの、収穫期にハダニ類の発生が散見された。

7 月 26 日から、脇芽欠きを順次行った。

やなぎ芽及びやなぎ葉、奇形花等の発生は見られなかった。

(2)　開花

採花時期は、8 月 7 日から 8 月 22 日となった。採花の盛期は 8 月 10 日から 8 月 15 日となり、一部品種を除いて、盆前が採花盛期となった。

(3)　切花品質

切花長では、全品種で 90cm を超え、「バルタザール」で最も長く 140.6cm、「ロサーノシャルロッテダーク」で最も短く 98.8cm となった。

切花重では、「マチルダ」で最も重く 97.2g となった。

花首長では、「チスパ」、「アビー」、「ソルベットベリー」、「マチルダ」、「ボンボンイエロー」、「ゼンブラライム」が 1cm 台となった。

茎径では、「マチルダ」で最も太く 8.6mm となった

(4)　次年度以降の計画

継続

表 1　採花期

品種名	採花期（開始～終了）	（盛期）
<1>　ﾁｽﾊﾟ	8/ 8～ 8/15	8/10
<2>　ｱﾋﾞｰ	8/ 9～ 8/13	8/10
<3>　ｶﾘｽ	8/ 8～ 8/13	8/10
<4>　ｿﾙﾍﾞｯﾄﾍﾞﾘｰ	8/10～ 8/18	8/12
<5>　ﾊﾞﾙﾀｻﾞｰﾙ	8/ 8～ 8/15	8/10
<6>　ﾏﾁﾙﾀﾞ	8/ 7～ 8/13	8/10
<7>　ﾛｻｰﾉｼｬﾙﾛｯﾃ	8/ 8～ 8/15	8/11
<8>　ﾛｻｰﾉｼｬﾙﾛｯﾃﾀﾞｰｸ	8/ 8～ 8/15	8/11
<9>　ｱﾋﾞｰｲｴﾛｰ	8/ 9～ 8/13	8/10
<10> ﾎﾞﾝﾎﾞﾝｲｴﾛｰ	8/10～ 8/19	8/13
<11> ｱﾅｽﾀｼｱﾀﾞｰｸｸﾞﾘｰﾝ	8/13～ 8/22	8/15
<12> ｾﾞﾝﾌﾞﾗﾗｲﾑ	8/ 8～ 8/13	8/10

表 2　切花調査

品種名	切花長 (cm)	切花重 (g)	花首長 (cm)	茎径 (mm)	花径 (cm)
<1>　ﾁｽﾊﾟ	119.6	78.6	1.1	6.5	13.4
<2>　ｱﾋﾞｰ	118.4	68.6	1.6	6.4	6.2
<3>　ｶﾘｽ	130.0	70.8	2.7	7.1	8.6
<4>　ｿﾙﾍﾞｯﾄﾍﾞﾘｰ	127.8	89.0	1.6	7.8	8.2
<5>　ﾊﾞﾙﾀｻﾞｰﾙ	140.6	74.0	3.3	7.5	13.2
<6>　ﾏﾁﾙﾀﾞ	112.8	97.2	1.6	8.6	11.0
<7>　ﾛｻｰﾉｼｬﾙﾛｯﾃ	101.2	84.2	2.1	7.7	9.8
<8>　ﾛｻｰﾉｼｬﾙﾛｯﾃﾀﾞｰｸ	98.8	88.8	2.0	8.0	9.8
<9>　ｱﾋﾞｰｲｴﾛｰ	111.4	63.2	2.0	6.2	6.6
<10> ﾎﾞﾝﾎﾞﾝｲｴﾛｰ	108.4	58.0	1.6	6.9	5.6
<11> ｱﾅｽﾀｼｱﾀﾞｰｸｸﾞﾘｰﾝ	108.6	93.8	2.7	7.5	9.4
<12> ｾﾞﾝﾌﾞﾗﾗｲﾑ	117.0	86.2	1.6	7.2	9.0

〈1〉 ﾁｽﾊﾟ

〈2〉 ｱﾋﾞｰ

〈3〉 ｶﾘｽ

〈4〉 ｿﾙﾍﾞｯﾄﾍﾞﾘｰ

〈5〉 ﾊﾞﾙﾀｻﾞｰﾙ

〈6〉 ﾏﾁﾙﾀﾞ

〈7〉 ﾛｻｰﾉｼｬﾙﾛｯﾃ

〈8〉 ﾛｻｰﾉｼｬﾙﾛｯﾃﾀﾞｰｸ

〈9〉 ｱﾋﾞｰｲｴﾛｰ

〈10〉 ﾎﾞﾝﾎﾞﾝｲｴﾛｰ

〈11〉 ｱﾅｽﾀｼｱﾀﾞｰｸｸﾞﾘｰﾝ

〈12〉 ｾﾞﾝﾌﾞﾗﾗｲﾑ

2-5　調査成績（耕畜連携推進事業パートナー制度）

調査名：ながいも栽培における堆肥の施用効果の検討

１目的　「発酵鶏糞堆肥」の適正な施用について調査・研究し、家畜排泄物を利用した堆肥、肥料の利用を促進するとともに循環型農業の普及を図る。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　植付月日　令和元年 5 月 29 日

2)　栽植距離　うね幅 120 ㎝、株間 21 ㎝

3)　植付本数　3,968 本/10a

4)　施肥量　調査区①

N-P-K=24.0-31.5-21.4kg/10a

【基肥】発酵鶏糞堆肥(2.73-4.98-3.05)：440kg/10a

パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：80kg/10a

調査区②

N-P-K=24.0-31.5-16.0kg/10a

【基肥】パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：160kg/10a

パワーリン(P:30%)：41kg/10a

調査区	資材	施肥量 (kg/10a)	成分量 (kg/10a) N	P	K
①	発酵鶏糞堆肥	440	12.0	21.9	13.4
	パワーアップながいも	80	12.0	9.6	8.0
②	パワーアップながいも	160	24.0	19.2	16.0
	パワーリン	41	0.0	12.3	0.0

5)　収穫月日　令和元年 12 月 4 日

6)　薬剤散布　12 回(成分回数)

(3)　調査区の構成

1)　調査区　4 区（1 区 6.3m（30 本）、1 区制）

2)　供試品種　〈1〉園試系 6（切片子）：80～100g

〈2〉庄司系（切片子）：80～100g

(4)　調査項目　生育、収量、品質

３結果の概要

(1)　昨年度の結果

配合肥料「パワーアップながいも」のみの調査区が収量について最も多く、Ａ品率についても、最も高かった。鶏糞堆肥施用区は肥料切れによると思われる奇形が多く見られた。

(2)　本年度の結果

1)　生育

萌芽揃期は 6 月 30 日であった。

7 月前半までの低温及び日照不足の影響で生育は遅れ気味であったが、その後は高温多照、少雨傾向となった。

茎葉は例年よりもやや少なかったものの、調査区①、②ともに生育はおおむね順調であったが、茎葉の黄化始めは調査区①で 10 月中旬頃、調査区②で 10 月下旬頃となった。台風等による葉落ちやツル切れの被害は見られなかった。

病害虫については、ナガイモコガが一部で見られた。

2)　収量

いも重及び 10a 換算収量は、「園試系 6」、「庄司系」ともに調査区②が多くかった。また、調査区①におけるいも重及び 10a 換算収量は、調査区②の 9 割程度となった。

3)　品質

Ａ品率は「園試系 6」、「庄司系」ともに調査区②が高かった。主な落等要因は曲がりであった。また、調査区①では尻部に近い部位に肥料切れによると思われるコブやリング等の奇形が見られた。

今回の調査では、「発酵鶏糞堆肥」の施用時期を定植時に早め、化成肥料を萌芽期に施肥したことにより、昨年に比べ収量及びＡ品率に改善が見られた。ただし、化成肥料のみと比較すると、いも重では小さい傾向にあり、また、品質では奇形の発生が多い傾向となった。

以上のことから、「発酵鶏糞堆肥」を化成肥料の代替資材として使用するためには、施肥量等の更なる検討が必要と思われる。

表１　収量調査

調査区名	全長 (cm)	全重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	長径 (mm)	Ａ品率 (%)	10a換算収量(kg)	10a換算販売収量(kg)	外品 (kg/10a)
園試系6①	69.5	1,118.8	54.9	1,101.5	59.8	48.4	4,371	4,298	73
園試系6②	76.4	1,225.4	59.1	1,205.5	59.3	69.3	4,784	4,784	0

調査区名	全長 (cm)	全重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	長径 (mm)	Ａ品率 (%)	10a換算収量(kg)	10a換算販売収量(kg)	外品 (kg/10a)
庄司系①	72.3	1,158.3	56.4	1,139.4	59.4	55.9	4,521	4,521	0
庄司系②	75.0	1,254.4	59.5	1,230.7	60.7	73.2	4,884	4,884	0

※10a 換算収量=いも重×植付数(3,968 本/10)。10a 換算販売収量=10a 換算収量−外品。

表２　規格別収量及び収量割合

調査区名	項目	4L	3L	2L	L	M	S	2S	規格外	合計
園試系6①	収量(kg/10a)	2,398	899	738	106	67	0	90	73	4,371
	割合(%)	(54.9)	(20.5)	(16.9)	(2.4)	(1.5)	(0)	(2.1)	(1.7)	
園試系6②	収量(kg/10a)	2,698	1,448	356	176	0	64	42	0	4,784
	割合(%)	(56.4)	(30.3)	(7.5)	(3.7)	(0)	(1.3)	(0.9)	(0)	
庄司系①	収量(kg/10a)	2,677	748	488	388	220	0	0	0	4,521
	割合(%)	(59.2)	(16.5)	(10.8)	(8.6)	(4.9)	(0)	(0)	(0)	
庄司系②	収量(kg/10a)	3,346	744	588	206	0	0	0	0	4,884
	割合(%)	(68.5)	(15.2)	(12.1)	(4.2)	(0)	(0)	(0)	(0)	

表３　等級割合（%）

調査区名	A	B	C	A平	B平	D	等級外	合計
園試系6①	48.4	16.4	20.4	3.6	4.2	5.3	1.7	100.0
園試系6②	69.3	20.4	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
庄司系①	55.9	31.0	13.1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
庄司系②	73.2	22.4	0.0	0.0	4.4	0.0	0.0	100.0

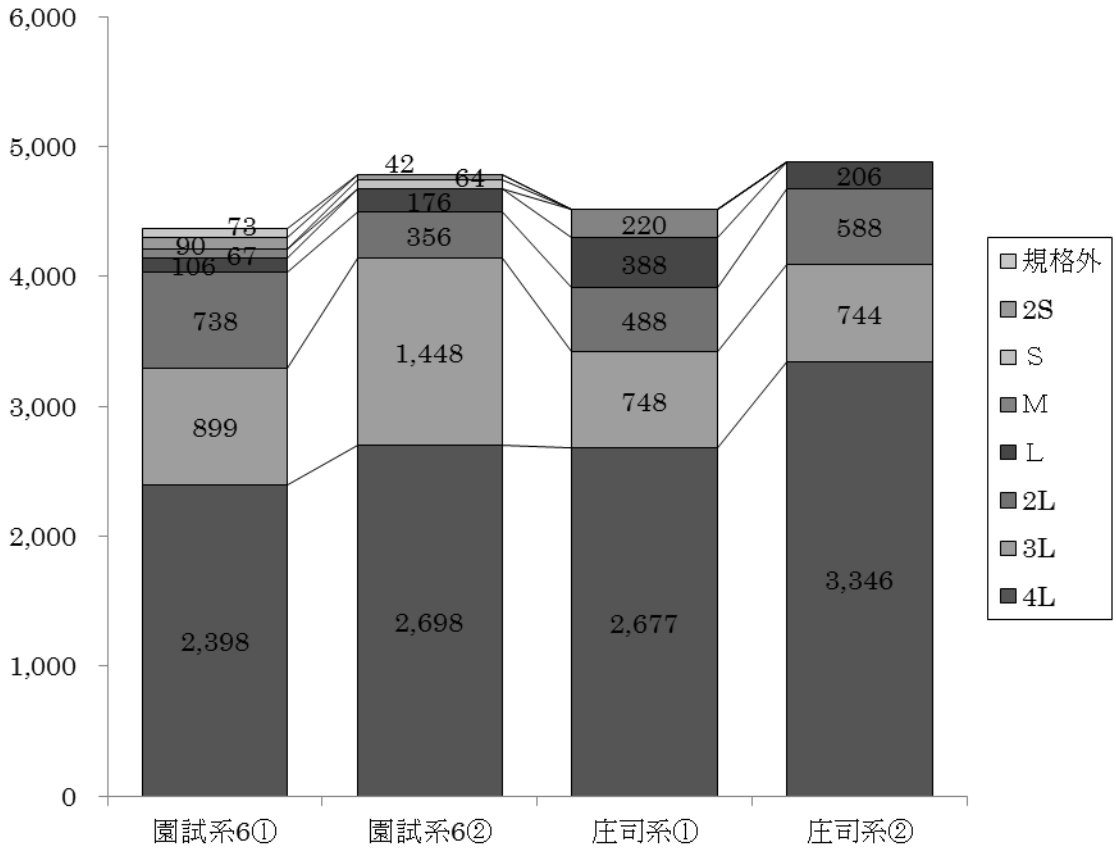


図１　規格別収量（kg/10a）

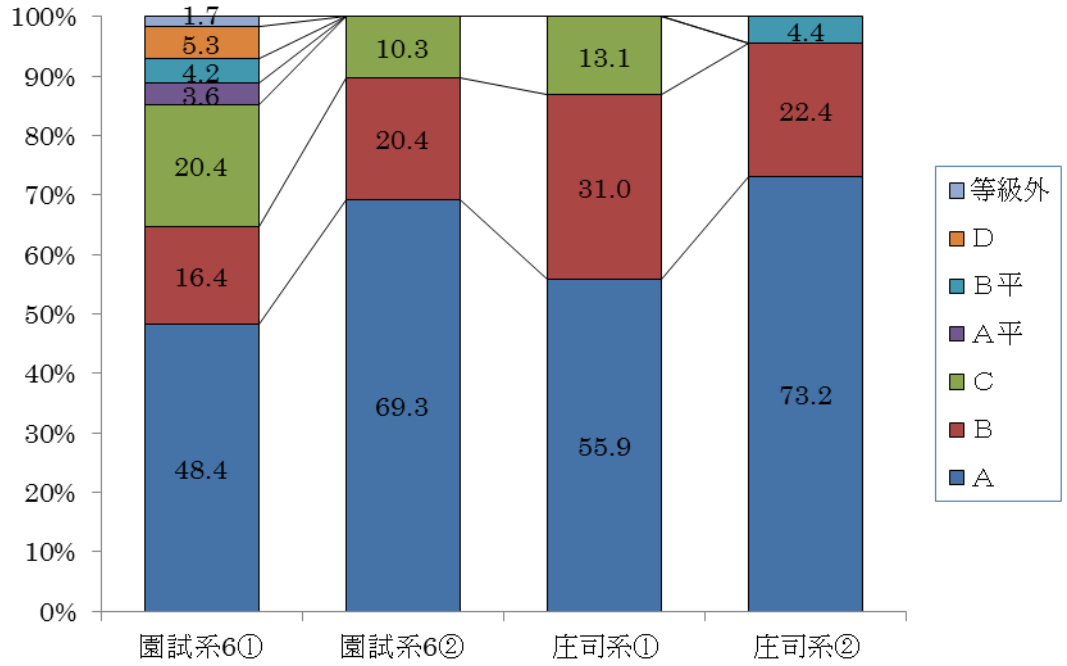


図２　等級割合

園試系 6(調査区①)

園試系 6(調査区②)

庄司系(調査区①)

庄司系(調査区②)

2－6　土壌分析

1　目的

農業者及び農業団体から依頼された土壌を分析し、土壌改良の資料とする。

また、当市において、産地形成されている地域のモデルとなる地点を定点観測地点に設定し、土壌分析を行ない、土壌改良の資料とする。

2　分析実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
依頼数(人)	12	14	13	21	14	23	20	22	58	28	17	35	277
ｻﾝﾌﾟﾙ数(件)	34	37	46	71	30	65	46	89	125	87	71	76	777
分　析　数	292	370	428	694	300	570	428	858	1,234	870	686	648	7,378

3　分析項目

1)　pH（H_2O・KCl）
2)　EC（電気伝導度）
3)　硝酸態窒素
4)　有効態リン酸
5)　リン酸吸収係数
6)　CEC（塩基置換容量）
7)　置換性カルシウム
8)　置換性マグネシウム
9)　置換性カリウム
10)　水分

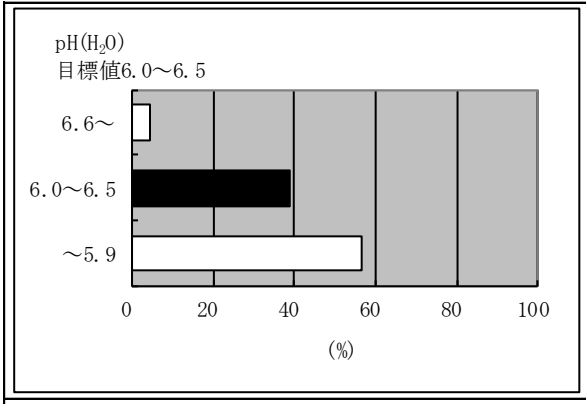
４　定点観測地点の概要

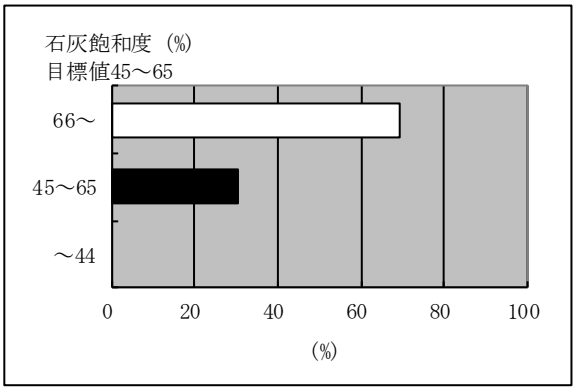
地 区 名	地点数		対　象　作　物	
市川地区	25	21	いちご	施設
		2	ミニトマト	
		2	花き	
下長地区	4	1	いちご	施設
		2	トマト・ミニトマト	
		1	花き	
上長地区	3	1	ながいも	露地
		1	ピーマン	
		1	食用菊	
豊崎地区	2	1	にんにく	露地
		1	ながいも	
館 地 区	8		ミニトマト	施設
是川地区	26	1	いちご	施設
		2	トマト・ミニトマト	
		4	きゅうり	
		1	花き	
		6	ながいも	露地
		6	夏ねぎ	
		6	秋ねぎ	
旧市内地区	1		きゅうり	施設
南郷地区	4	1	トマト	施設
		1	きゅうり	
		2	そば	露地

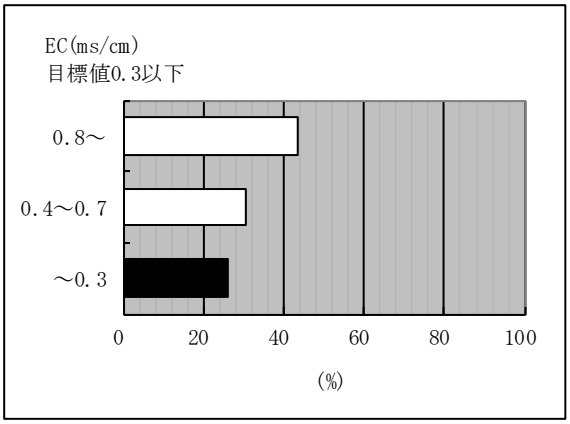
施設野菜（いちご）：23 地点
施設野菜（トマト・ミニトマト・きゅうり）：21 地点
花き：4 点
露地野菜（にんにく・ながいも・ねぎ等）：25 地点　　合計　73 地点

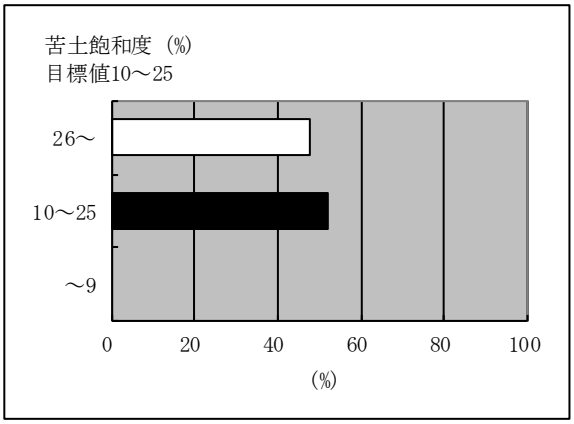
5　分析結果

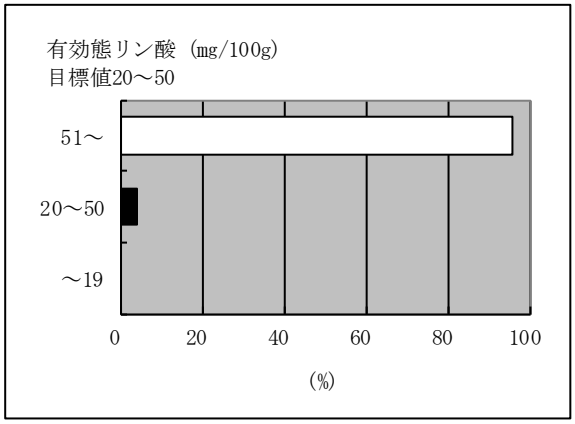
(1)　施設野菜（いちご）

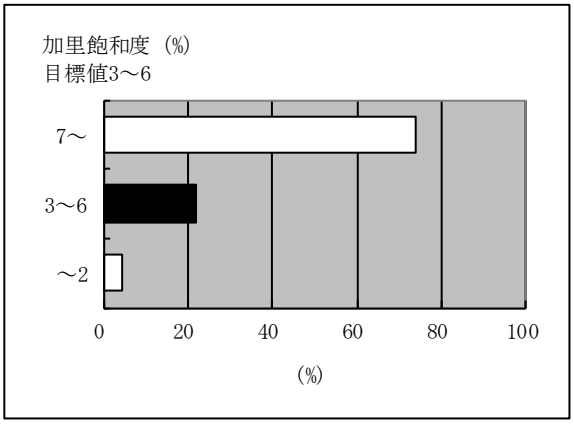


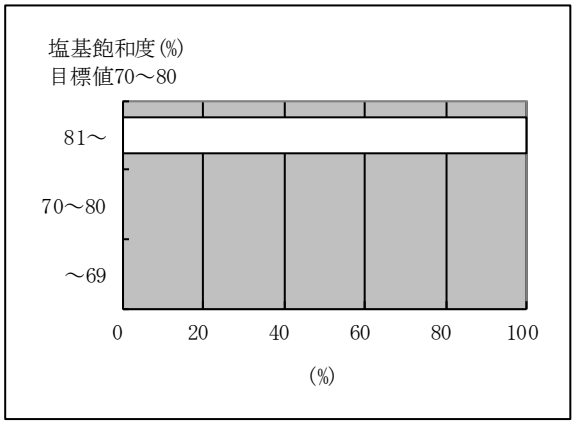










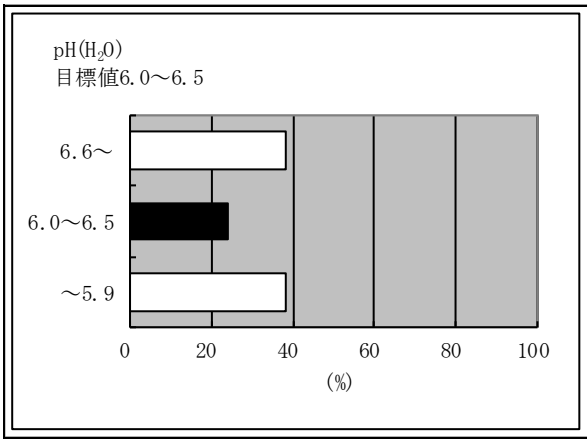


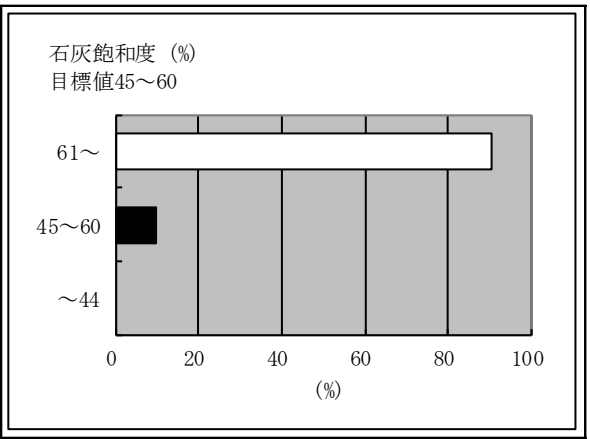
サンプル数：23件

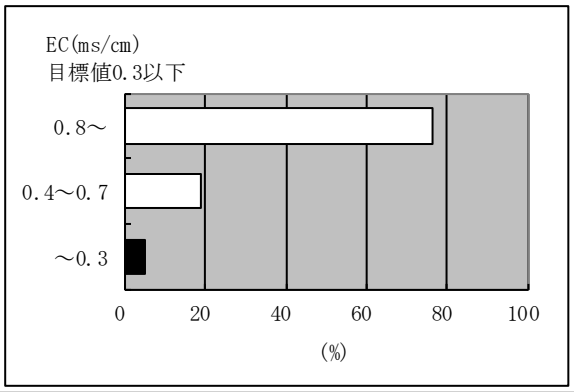
採取地区：市川、是川、日計

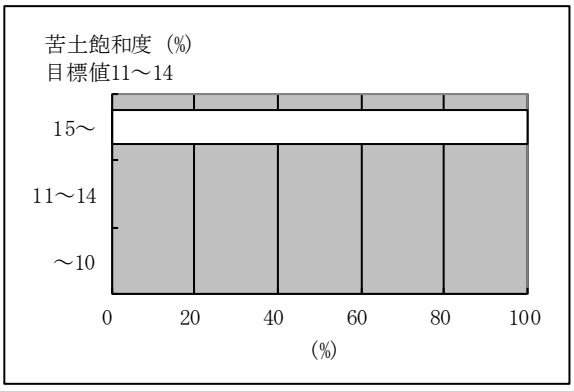
約80%のほ場でECが過剰
約95%のほ場でリン酸が過剰
全てのほ場で塩基が過剰
約70%のほ場で石灰が過剰
約50%のほ場で苦土が過剰
約80％のほ場で加里が過剰

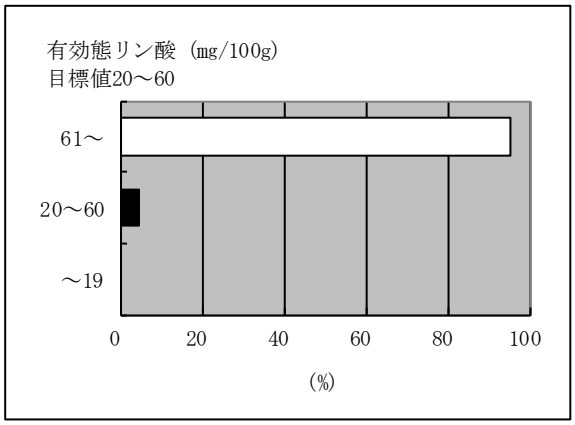
(2)　施設野菜（トマト・ミニトマト・きゅうり）

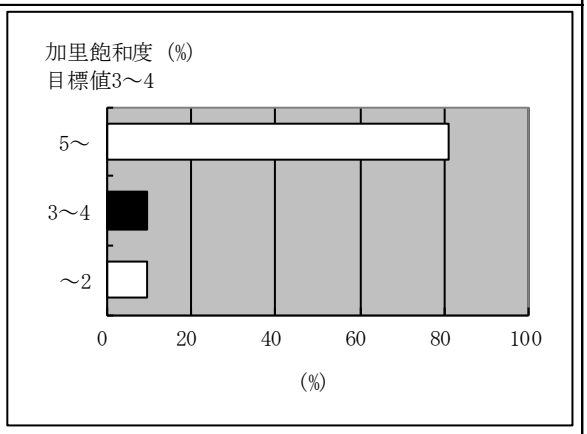


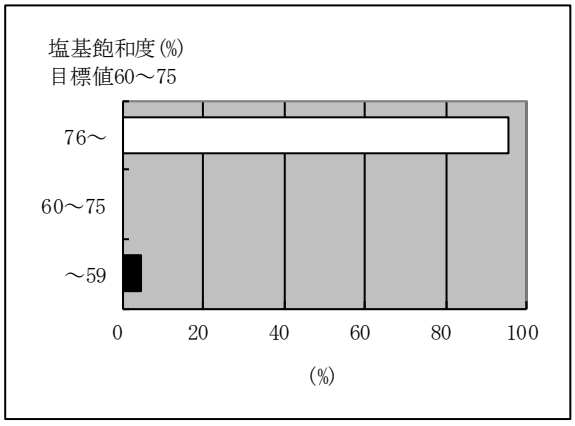










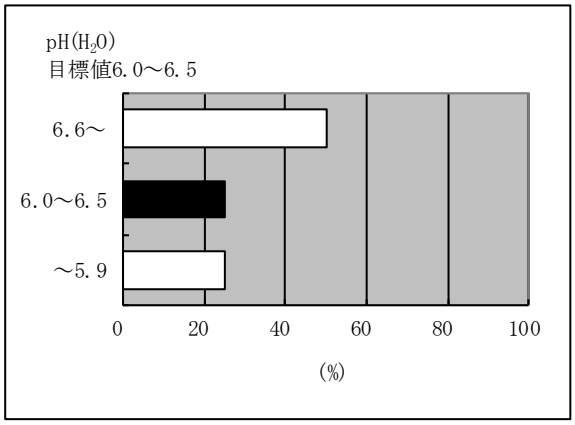


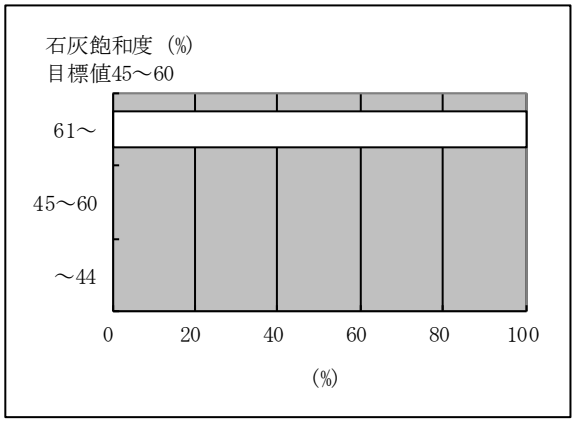
サンプル数：21件

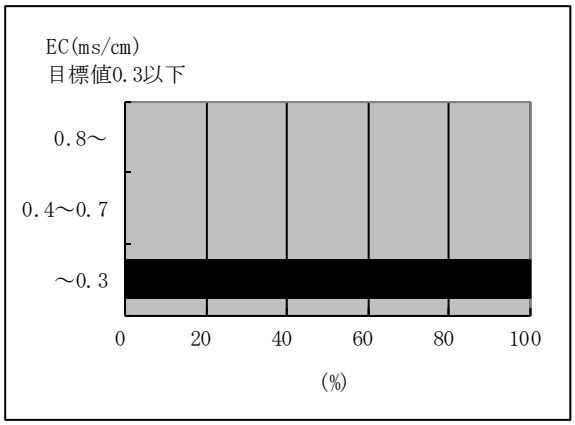
採取地区：市川・下長・館・是川
旧市内・南郷

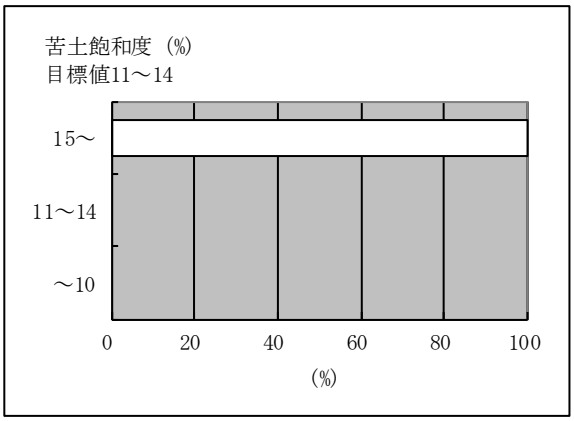
約95%のほ場でECが過剰
約95%のほ場でリン酸が過剰
約95%のほ場で塩基が過剰
約90%のほ場で石灰が過剰
全てのほ場で苦土が過剰
約80%のほ場で加里が過剰

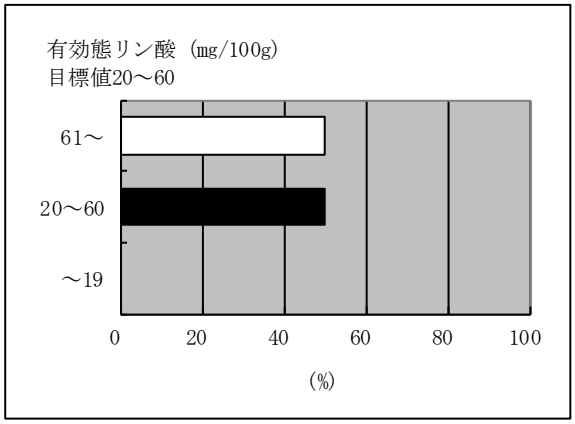
(3)　花き

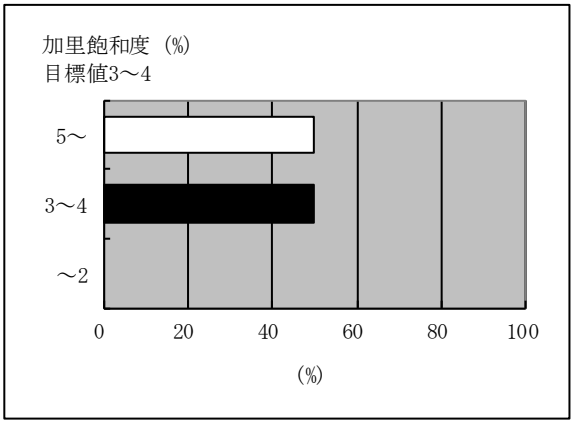


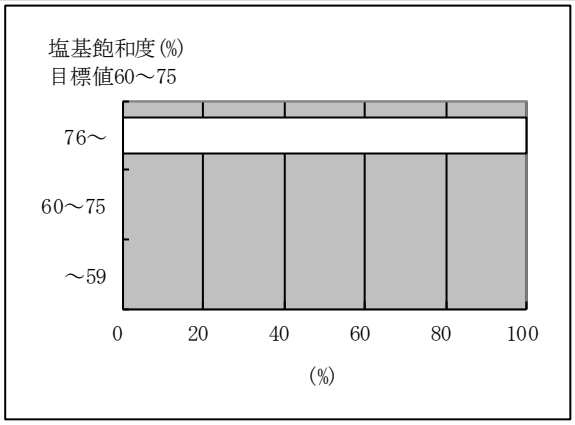










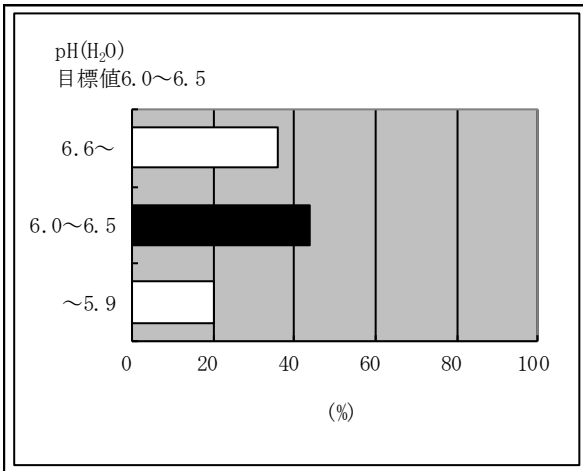


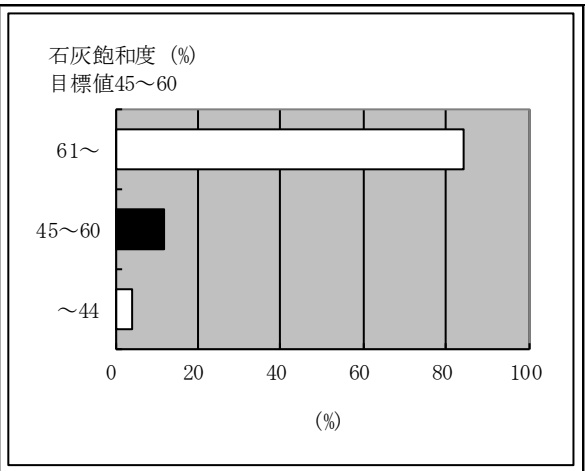
サンプル数：4件

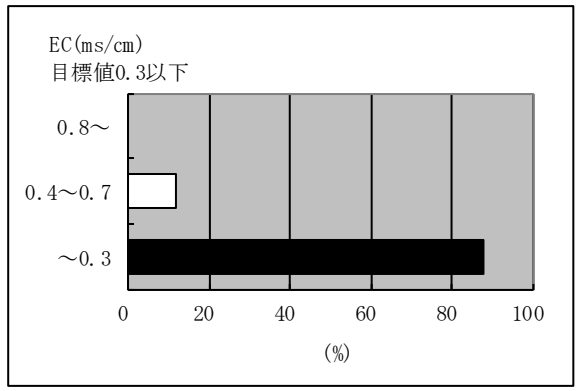
採取地区：市川・下長・是川

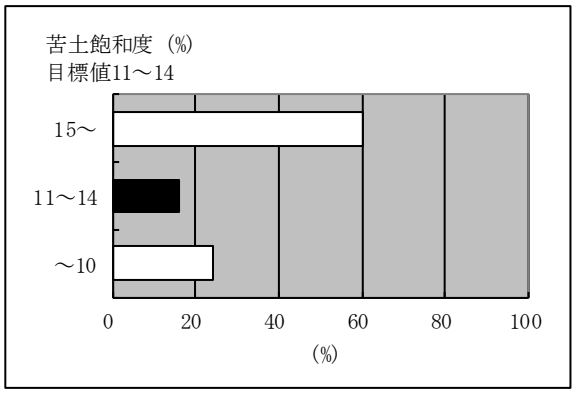
約50％のほ場でリン酸が過剰
全てのほ場で塩基が過剰
全てのほ場で石灰・苦土が過剰
約50%のほ場で加里が過剰

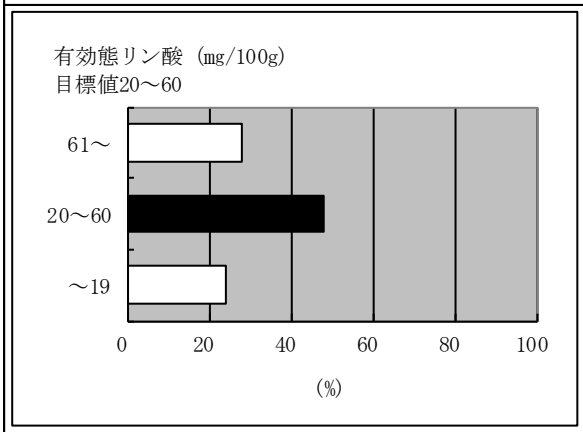
(4)　露地野菜（ながいも・にんにく・ねぎ等）

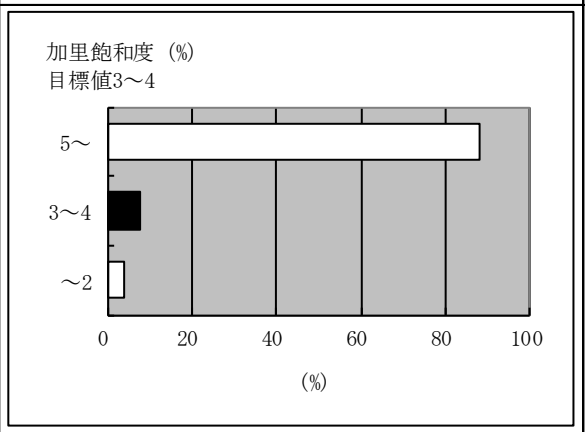


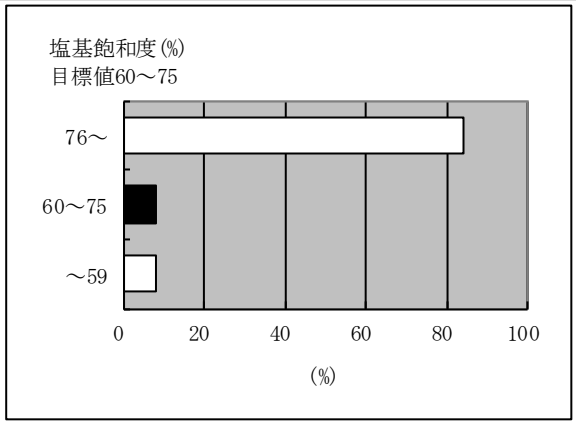












サンプル数：25件

採取地区：上長・豊崎・是川・南郷

約10%のほ場でECが過剰
約30%のほ場でリン酸が過剰
約80%のほ場で塩基が過剰
約80%のほ場で石灰が過剰
約60%のほ場で苦土が過剰
約90%のほ場で加里が過剰

2－7　植物組織培養

1　優良種苗の増殖実績

(1)　いちご・・・・・・・・(11 品種)

(2)　奥州菊・・・・・・・・(5 品種)

2－8　市民農園設置事業

1　目的

自然環境の中での市民が家庭ぐるみによる農業体験を通じて、農業知識の向上並びに農業に対する理解を深めてもらうために実施する。

2　場所

八戸市農業経営振興センター内

3　期間

平成 31 年 4 月 14 日～令和元年 11 月 17 日

4　募集区画面積及び利用者数

(1)　1 区画（33 ㎡）：96 件　　(2)　2 区画（66 ㎡）：46 件

(3)　3 区画（99 ㎡）：29 件

5　対象

八戸市民（1 世帯で最大 3 区画まで利用可能）

6　使用料

(1)　1 区画（33 ㎡）：2,570 円

7　主要施設

・休憩所（1 箇所）　・トイレ（2 基）　・電話（1 台）

・農業用水道（6 箇所）　・駐車場（1 箇所：1,000 ㎡）

8　主な作付け作物

【春】じゃがいも、まめ類、ねぎ、にんじん、だいこん

【秋】だいこん、ねぎ、はくさい、にんじん、ほうれんそう

2-9　農業体験学習

1　目的

小学生等の食育の一環として、農作物を育て、収穫する喜びを体験し、農業及び食に対する理解を深めてもらうため、農業体験の場を提供した。

2　実績

○農業体験学習関係

(1)植付・は種・管理作業体験

月日	団体名	人数	体験内容
5月16日	北稜中学校	80	座学・施設見学・さつまいも植付体験
5月22日	白銀台保育園	46	さつまいも植付体験
5月23日	長者幼稚園	18	さつまいも植付体験
5月24日	八戸幼稚園	40	さつまいも植付体験
5月27日	イメルダ幼稚園	38	さつまいも植付体験
5月31日	八戸学院幼稚園	41	さつまいも植付体験
8月26日	長者幼稚園	19	大根は種体験・さつまいも草取体験
8月27日	白銀台保育園	45	大根は種体験・さつまいも草取体験
8 回		327	名

(2)収穫作業体験

月日	団体名	人数	体験内容
10月18日	白銀台保育園	47	さつまいも収穫体験
10月21日	イメルダ幼稚園	36	さつまいも収穫体験
10月23日	長者幼稚園	18	さつまいも収穫体験
10月25日	八戸幼稚園	46	さつまいも収穫体験
10月25日	八戸学院幼稚園	85	さつまいも収穫体験
5 回		232	名

(3)農業体験出前講座

月日	団体名	人数	体験内容
5月16日	北稜中学校	80	果菜類及び根菜類の植付
5月20日	金浜小学校	14	野菜のは種・苗の植付
5月22日	種差小学校	14	野菜のは種・苗の植付
5月28日	長者幼稚園	61	糠塚きゅうりの植付
6月3日	こばと保育園	15	さつまいも･ピーマン･きゅうり･なすの植付
6月13日	青潮小学校第2学年	90	さつまいもの植付
6 回		274	名

○農作業体験学習会～親子で学ぶ野菜づくり～

月日	団体名	人数	体験内容
5月26日	6家族	19	糠塚きゅうり･食用菊･さつまいもの植付･いちごの収穫体験等
7月7日	6家族	20	糠塚きゅうりの収穫体験
8月11日	6家族	20	じゃがいもの収穫体験
10月27日	6家族	19	食用菊･さつまいも･いちごの収穫体験
4 回		78	名

○農業体験生涯学習関係（八戸市鷗盟大学への指導）

月日	団体名	人数	体験内容
4月16日	２学年	12	じゃがいもの植付
4月19日	１学年	18	じゃがいもの植付
5月17日	１学年	18	草花の育て方（座学）
5月31日	１学年	15	じゃがいもの手入れ・さつまいも植付、果菜類定植
6月11日	２学年	12	じゃがいもの手入れ・さつまいもの植付
8月2日	２学年	10	じゃがいもの収穫
8月5日	１学年・２学年	26	じゃがいもの収穫
8月26日	１学年	16	だいこん・かぶのは種
8月26日	２学年	12	だいこん・かぶのは種
9月20日	１学年	16	だいこん･かぶの間引き･ほ場の草取り
9月24日	２学年	11	だいこん･かぶの間引き
11月1日	２学年	16	だいこん・かぶ･さつまいもの収穫
11月5日	１学年	11	だいこん・かぶ･さつまいもの収穫
2月7日	１学年	18	春野菜の準備と土づくり(座学)
2月25日	２学年	11	環境にやさしい農業について（座学）
15 回		222	名

合計　38　回　1,133　名

2 - 10　農業講座

1　目的

優れた知識や新たな技術の習得により、農業の生産性向上と農家経営の安定を図り、当市農業の活性化を促進するため。

2　平成 31 年度八戸市農業講座の開催実績

	日時		演題	講師	受講者数
第1回	6 月 18 日（火）	13:30～15:00	○いちご いちご栽培のポイント（施肥設計・温度管理等）について	公益財団法人 園芸植物育種研究所 執行理事兼研究開発部長 石川（いしかわ）　正美（まさみ）	31 名
		15:15～15:45	○いちご 東北農業研究センターにおける、いちご品種の育成状況及び新品種の特徴について	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 畑作園芸研究領域 施設野菜・育種グループ 主任研究員　本城（ほんじょう）　正憲（まさのり）	31 名
		16：00～16：15	○いちご 種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査に関する経過報告	八戸市農業経営振興センター 技師　外和（そとわ）　昌大（まさひろ）	31 名
第2回	2 月 3 日（月）	13:00～15:00	○土壌 土壌診断を活かした土づくりと土壌病害対策～かなぐり捨てよう！「土づくり迷信」～	東京農業大学　名誉教授 後藤（ごとう）　逸男（いつお）	99 名
		15:15～16:15	○ピーマン 「ピクシー」栽培のポイント～栽培の課題や仕立方法等について～	横浜植木株式会社　菊川研究農場 ピーマン・パプリカ担当 ブリーダー　村岡（むらおか）　巧（たくみ）	73 名
	2 月 7 日（金）	13:00～14:00	○気象 頻発する大雨災害、どうなる？今年の八戸の天候	株式会社吉田産業 海洋気象事業部 所長（気象予報士）　田嶋（たしま）　研逸（けんいつ）	46 名
		14:15～15:45	○ミニトマト 新品種「キャロルムーン」の特性とキャロルシリーズの栽培要点について	株式会社サカタのタネ 君津育種場　育種第 2 課 板井（いたい）　恒篤（つねあつ）	47 名
合計			7　講座		358 名

2 - 11　家庭菜園講習会

1　目的

野菜づくりに必要な基本的な知識や技術の習得と地場野菜への関心を深めてもらうために実施した。

2　実績

日時	場所	人数	内容
5 月 2 日	八戸市緑化まつり会場(田向)	15	園芸講習会
5 月 18 日	八戸市社会福祉会館	18	八戸市鷗盟大学 1 学年講義 「草花の育て方について」
2 月 7 日	八戸市社会福祉会館	18	八戸市鷗盟大学 1 学年講義 「春野菜の準備と土づくり」
2 月 25 日	八戸市社会福祉会館	11	八戸市鷗盟大学 2 学年講義 「環境にやさしい農業について」

合計 62 名

2 - 12　施設利用実績

農業講座、家庭菜園講習会等の各種研修、並びに農業関係機関による農業振興に係る営農指導会議等の開催による研修室等における施設利用実績である。

1　来場者数

2,489 名

※施設見学及び指導相談並びに土壌分析依頼・相談の件数

2　指導相談件数

142 件

業務計画

【令和２年度】

所　　長	久　保	昌　広
（経営支援グループリーダー事務取扱）		
副 参 事	中　山	貢
（生産振興グループリーダー）		
主　　幹	窪　田	奈央子
主　　査	柳　谷	悟
技　　査	田　茂	竜　児
主　　査	三　戸	由　香
主　　査	白　川	大　祐
技　　査	戸　田	瞳
主　　事	苫米地	三由希
主　　事	島　守	康　洋
技　　師	佐々木	達　也
技　　師	外　和	昌　大
技　　師	細　越	敬太郎
技　　師	柴　田	あかね

3-1 調査計画（施設野菜）

施設野菜の部　№1

項　目：品種特性調査

調査名：種子繁殖型いちご品種「よつぼし」の品種特性調査（継続：平成 29 年度～令和 2 年度）

１目的　新しく開発された種子繁殖型いちご品種「よつぼし」について、収量・品質等の品種特性を調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 4 号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)	栽培方法	養液土耕栽培
2)	は種月日	令和元年 5 月 10 日（406 穴セルトレイ）
3)	移植月日	令和元年 6 月 27 日（10.5cm ポット） ※406 穴セルトレイ苗を購入、納品後直ちにポットに移植
4)	夜冷処理期間	令和元年 7 月 25 日～8 月 28 日
5)	夜冷処理日数	35 日
6)	夜冷処理方法	短日処理　8 時間日長（16 時 30 分～翌 8 時 30 分遮光） 夜冷処理　13～15℃（16 時 30 分～翌 8 時 30 分）
7)	育苗日数	111 日
8)	定植年月日	令和元年 8 月 29 日
9)	栽植距離	うね幅 110 cm、ベット幅 70cm、株間 25 cm、2 条植え
10)	定植株数	640 株/棟
11)	施肥量	N-P-K=追肥状況による（N 換算で 2.5kg/a 程度を想定） 【基肥】有機アグレット 816（8-1-6）：7.5kg/a 【追肥】大塚養液土耕 6 号（13.5-10-20）
12)	使用資材	アゾミン（Mg:3%）：5kg/a、ハイフミン・ハイブリット：30kg/a、あったかマルチ
13)	収穫期間	令和元年 11 月 1 日～令和 2 年 6 月中旬
14)	保温	内カーテン：令和元年 11 月 5 日～令和 2 年 5 月 7 日
15)	加温	温風暖房機（4℃設定）： 令和元年 11 月 5 日～令和 2 年 5 月 7 日

(3)　調査区の構成

1)	調査区	2 区（1 区 10 株、1 区制） <1>夜冷短日処理無し <2>夜冷短日処理有り
2)	供試品種	よつぼし（三重県・香川県・千葉県・農研機構）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

施設野菜の部　№2

項　目：品種比較調査

調査名：夏秋どりいちごの品種比較調査（継続：平成 31 年度～令和 2 年度）

１目的　当地域における夏秋どりいちご生産の適応する四季成り性品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 12 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1) 栽培方法　養液土耕栽培、無加温
2) 定植年月日　令和 2 年 6 月上旬
3) 栽植距離　ベッド幅 110 ㎝、うね幅 70cm、株間 25 ㎝、2 条植え
4) 定植株数　512 株／棟
5) 施肥量　N-P-K=追肥状況による
【基肥】有機アグレット 816（8-1-6）：10 kg/a
【追肥】大塚養液土耕 6 号（13.5-10-20）
6) 使用資材　アヅミン（Mg:3%）：5kg/a
あったかマルチ、タイベックマルチ（定植日～9 月中旬）
7) 収穫期間　令和 2 年 7 月中旬～12 月下旬
8) 保温　内カーテン：9 月中旬～収穫終了日

(3)　調査区の構成

1) 調査区　3 区（1 区 10 株、1 区制）
2) 供試品種　<1>すずあかね（ホクサン㈱）
<2>よつぼし（三重県・香川県・千葉県・農研機構）
<3>盛岡 37 号（東北農研）

(4)　調査項目　生育、収量、品質（糖度・酸度・硬度）

施設野菜の部　№3

項目：品種比較調査

調査名：ほうれんそうの寒締め栽培における品種比較調査（新規：令和２年度～令和３年度）

１目的　当地域において冬期間に栽培される「寒締めほうれんそう」に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス８号（99㎡：約30坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培、無加温

2)　は種月日　令和２年10月上旬

3)　栽植距離　ベッド幅110㎝、株間15㎝、条間15㎝、７条植え、２粒播き

4)　定植株数　2,800株/棟

5)　施肥量　N-P-K=1.0-0.81-0.19kg/a
シリカ＆フミン（2.7-2.2-0.5）：37kg/a

6)　使用資材　白黒ダブルマルチ

7)　収穫月日　令和２年12月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　２区（１区20株、１区制）

2)　供試品種　<1>雪美菜02　（雪印種苗㈱）
<2>じっくり朝霧　（㈱渡辺採種場）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№4

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの促成栽培における品種比較調査（継続：平成 31 年度～令和 3 年度）

１目的　トマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室 6 号（165 ㎡：約 50 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和元年 12 月 26 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和 2 年 1 月 17 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和 2 年 2 月 27 日
5)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、2 条植え
6)　定植株数　320 株/棟
7)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕 5 号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕 2 号（14-8-25、収穫開始～）
8)　使用資材　ハイフミンハイブリッド G（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6 月下旬～収穫終了日）。
9)　収穫期間　令和 2 年 5 月 8 日～7 月下旬
10)　保温　内カーテン：定植日～令和 2 年 5 月下旬
11)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和 2 年 5 月 7 日
12)　摘心　令和 2 年 5 月 20 日（8 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　4 区（1 区 5 株、1 区制）
2)　供試品種
〈1〉みそら 64　（みかど協和㈱）
〈2〉CF 桃太郎はるか　（タキイ種苗㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№5

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの夏秋栽培における品種比較調査（新規：令和２年度～令和３年度）

１目的　トマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室５号（165 ㎡：約 50 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和２年２月 28 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和２年３月 13 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和２年４月 14 日
5)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、２条植え
6)　定植株数　320 株/棟
7)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕５号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕２号（14-8-25、収穫開始～）
8)　使用資材　ハイフミンハイブリッドG（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（６月下旬～収穫終了日）。
9)　収穫期間　令和２年６月上旬～10 月下旬
10)　保温　内カーテン：定植日～令和２年５月下旬、９月中旬～収穫終了日
11)　加温　温風暖房機（5℃設定）：定植日～令和２年５月７日
12)　摘心　令和２年９月中旬（20 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　５区（１区 10 株、１区制）
2)　供試品種
〈1〉みそら 64　（みかど協和㈱）
〈2〉ひなた　（みかど協和㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉りんか 409　（㈱サカタのタネ）
〈5〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№6

項　目：品種比較調査

調査名：トマトの抑制栽培における品種比較調査（継続：平成 31 年度～令和 3 年度）

１目的　トマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室 5 号（165 ㎡：約 50 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培

2)　は種月日　令和 2 年 6 月上旬（72 穴トレイ）

3)　定植月日　令和 2 年 6 月下旬
（前作の栽培中にその株間に定植）

4)　栽植距離　ベッド幅 120 ㎝、株間 40 ㎝、2 条植え

5)　定植株数　320 株/棟

6)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕 5 号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕 2 号（14-8-25、収穫開始～）

7)　使用資材　あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6 月下旬～9 月中旬）。

8)　収穫期間　令和 2 年 8 月下旬～11 月下旬

9)　保温　内カーテン：9 月中旬～収穫終了日

10)　加温　温風暖房機（8℃設定）：11 月上旬～収穫終了日

11)　摘心　令和 2 年 9 月下旬（6 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　5 区（1 区 10 株、1 区制）

2)　供試品種
〈1〉みそら 64　（みかど協和㈱）
〈2〉ひなた　（みかど協和㈱）
〈3〉桃太郎ネクスト　（タキイ種苗㈱）
〈4〉りんか 409　（㈱サカタのタネ）
〈5〉麗月　（㈱サカタのタネ）

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№7

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの促成栽培における品種比較調査（継続：平成 31 年度～令和 3 年度）

１目的　ミニトマトの促成栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 1 号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和元年 12 月 26 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和 2 年 1 月 17 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和 2 年 2 月 26 日
5)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、2 条植え
6)　定植株数　228 株/棟
7)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕 5 号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕 2 号（14-8-25、収穫開始～）
8)　使用資材　ハイフミンハイブリッド G（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6 月下旬～収穫終了日）。
9)　収穫期間　令和 2 年 4 月 30 日～7 月下旬
10)　保温　内カーテン：定植日～令和 2 年 5 月下旬
11)　加温　温風暖房機（12℃設定）：定植日～令和 2 年 5 月 7 日
12)　摘心　令和 2 年 5 月 20 日（8 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　5 区（1 区 5 株、1 区制）
2)　供試品種
〈1〉キャロル 10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈4〉サンチェリーピュアプラス　(トキタ種苗㈱)
〈5〉サマー千果　(タキイ種苗㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№8

項　目：品種比較調査

調査名：ミニトマトの夏秋栽培における品種比較調査（継続：平成 31 年度～令和 3 年度）

１目的　ミニトマトの夏秋栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 2 号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培
2)　は種月日　令和 2 年 2 月 28 日（144 穴トレイ）
3)　移植月日　令和 2 年 3 月 13 日（12 ㎝ポット）
4)　定植月日　令和 2 年 4 月 14 日
5)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、2 条植え
6)　定植株数　228 株/棟
7)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕 5 号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕 2 号（14-8-25、収穫開始～）
8)　使用資材　ハイフミンハイブリッド G（微生物資材）：30kg/a、
アヅミン（Mg:3%）：3kg/a、あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6 月下旬～収穫終了日）。
9)　収穫期間　令和 2 年 6 月上旬～10 月下旬
10)　保温　内カーテン：定植日～令和 2 年 5 月下旬、9 月中旬～収穫終了日
11)　加温　温風暖房機（5℃設定）：定植日～令和 2 年 5 月 7 日
12)　摘心　令和 2 年 9 月中旬（20 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　8 区（1 区 5 株、1 区制）
2)　供試品種
〈1〉キャロル 10　(㈱サカタのタネ)
〈2〉キャロルスター　(㈱サカタのタネ)
〈3〉サンチェリーピュア　(トキタ種苗㈱)
〈4〉サンチェリーピュアプラス　(トキタ種苗㈱)
〈5〉サマー千果　(タキイ種苗㈱)
〈6〉アイラ　(㈱武蔵野種苗園)
〈7〉キャロルムーン　(㈱サカタのタネ)
〈8〉MKS-T833　(みかど協和㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

施設野菜の部　№9

項　目：品種比較調査

調査名：**ミニトマトの抑制栽培における品種比較調査**（継続：平成 31 年度～令和 3 年度）

１目的　ミニトマトの抑制栽培について品種比較調査をすることで、当地域に適した有望品種の選定を行う際の参考資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 1 号（132 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　養液土耕栽培

2)　は種月日　令和 2 年 6 月上旬（72 穴トレイ）

3)　定植月日　令和 2 年 6 月下旬
（前作の栽培中にその株間に定植）

4)　栽植距離　ベッド幅 100 ㎝、株間 40 ㎝、2 条植え

5)　定植株数　228 株/棟

6)　施肥量　土壌溶液 EC 濃度 0.7～1.7（生育ステージによる）
【肥料】大塚養液土耕 5 号（12-20-20、～収穫前）
大塚養液土耕 2 号（14-8-25、～収穫開始）

7)　使用資材　あったかマルチ、白黒ダブルマルチ
※夏季の地温抑制のため、うねの肩部にあったかマルチの上から白黒ダブルマルチを展開（6 月下旬～9 月中旬）。

8)　収穫期間　令和 2 年 8 月下旬～11 月下旬

9)　保温　内カーテン：9 月中旬～収穫終了日

10)　加温　温風暖房機（8℃設定）：11 月上旬～収穫終了日

11)　摘心　令和 2 年 9 月下旬（6 段程度）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　8 区（1 区 5 株、1 区制）

2)　供試品種

〈1〉	キャロル 10	(㈱サカタのタネ)
〈2〉	キャロルスター	(㈱サカタのタネ)
〈3〉	サンチェリーピュア	(トキタ種苗㈱)
〈4〉	サンチェリーピュアプラス	(トキタ種苗㈱)
〈5〉	サマー千果	(タキイ種苗㈱)
〈6〉	アイラ	(㈱武蔵野種苗園)
〈7〉	キャロルムーン	(㈱サカタのタネ)
〈8〉	MKS-T833	(みかど協和㈱)

(4)　調査項目　生育、収量、糖度

3-2 調査計画（露地野菜）

露地野菜の部　№1

項目：品種比較調査
調査名：ねぎの品種比較調査（新規：令和２年度～令和４年度）
１目的　　当地域におけるねぎの作型別適応品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法
(1)　調　査　場　所　　露地ほ場

(2)　耕　種　概　要
1)　育　苗　方　法　　チェーンポット CP-303（264 穴）２粒播き
2)　は種及び定植月日　　〈は　種〉　　〈定　植〉
7 月収穫　：令和２年１月６日　　令和２年３月 26 日
9 月収穫　：令和２年４月１日　　令和２年５月 11 日
10 月収穫：令和２年５月 12 日　　令和２年６月中旬
3)　栽　植　距　離　　うね幅 100 cm、株間 5 cm（2 粒播き）
4)　定　植　本　数　　40,000 本/10a
5)　施　　肥　　量　　N-P-K=18.0-18.0-18.0 kg/10a
【基肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a
【追肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a×2 回
6)　収　穫　月　日　　7 月収穫　：令和２年７月下旬
9 月収穫　：令和２年９月中旬
10 月収穫：令和２年 10 月下旬

(3)　調査区の構成
1)　調　　査　　区　　23 区（１区 40 本（1.0m）　、１区制）
2)　供　試　品　種

7 月収穫	9 月収穫	10 月収穫	メーカー名
夏扇パワー	夏扇パワー	夏扇パワー	㈱サカタのタネ
UE-113			横浜植木㈱
夏秋白扇 5 号	夏秋白扇 5 号	夏秋白扇 5 号	吉田種苗㈱
みちのく 701 はやぶさ 7	みちのく 701 №エイト かがやき 801	みちのく 701 №エイト かがやき 801	㈱パセリー菜
	夏の宝山 MKS-N22	夏の宝山 MKS-N22	みかど協和㈱
	森の奏で	森の奏で	トキタ種苗㈱
	名月一文字	名月一文字	タキイ種苗㈱

(4)　調　査　項　目　　生育、収量、品質

露地野菜の部　№2

項目：品種比較調査

調査名：ねぎのリン酸減肥技術品種比較調査（新規：令和２年度～令和３年度）

１目的　定植前の苗にリン酸カリ溶液（リン酸濃度 1.15%）を施用することで、本圃へのリン酸施用量を削減する技術について、当地域における適応品種を調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1) 調査場所　露地ほ場

(2) 耕種概要

1) 育苗方法　チェーンポット CP-303（264 穴）２粒播き

2) は種及び定植月日　〈は　種〉令和２年１月６日　〈定　植〉令和２年３月 26 日

3) 栽植距離　うね幅 100 ㎝、株間５㎝（２粒播き）

4) 植付本数　40,000 本/10a

5) 施肥量　N-P-K＝18.0-18.0-18.0 kg/10a
【基肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a
【追肥】ハイパーCDU555(中期)(15-15-15)：40 kg/10a×２回
※基肥及び追肥は全調査区共通。

6) 使用資材

調査区名	リン酸カリ溶液	パワーリン	過リン酸石灰(17%粉)
慣行区	－	120kg/10a	2回
浸漬区	定植前浸漬	60kg/10a	0回
潅注区	定植前潅注	60kg/10a	0回

※リン酸カリ溶液はリン酸濃度 1.15%に調整し、浸漬区は定植当日に溶液への浸漬、潅注区は定植１週間前及び定植当日にトレイ毎に溶液 1L の潅注を実施。
パワーリンは植付前に全面施用。
過リン酸石灰は植付時及び１回目追肥時に植え溝施用。

7) 収穫月日　令和２年７月上旬、下旬

(3) 調査区の構成

1) 調査区　９区（１区 40 本（1m）、１区制）

2) 供試品種
<1>夏扇パワー　(㈱サカタのタネ)
<2>みちのく 701　(㈱パセリー菜)
<3>夏秋白扇５号　(吉田種苗㈱)

(4) 調査項目　生育、収量、品質

露地野菜の部　№3

項目：品種比較調査
調査名：ピーマンの品種比較調査（新規：令和２年度～令和４年度）

１目的　当地域におけるピーマンの露地栽培に適応する品種について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培

2)　は種及び定植月日

	〈は　種〉	〈定　植〉
	４月定植：令和２年２月 13 日	令和２年４月 21 日 (定植直後アイホッカ１枚トンネル被覆)
	５月定植：令和２年３月 13 日	令和２年５月 13 日 (定植直後パスライト１枚トンネル被覆)

3)　栽植距離　うね幅 150 ㎝、株間 50 ㎝

4)　定植株数　1,300 株/10a

5)　施肥量　N－P－K＝44.4-33.6-39.4 kg/10a
【基肥】豊作太郎(12-12-10)：250 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里 S646(16-4-16)：30 kg/10a×３回

6)　収穫期間　令和２年６月中旬～10 月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　４区（１区５株、１区制）

2)　供試品種　<1>ピクシー　(横浜植木㈱)
<2>P-2020　(㈱パセリー菜)

(4)　調査項目　生育、収量、品質

露地野菜の部　№4

項目：栽培技術調査

調査名：ピーマン品種「ピクシー」の施肥体系別収量調査（継続：平成 31 年度～令和 2 年度）

１目的　当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、施肥体系の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉令和２年３月 13 日　〈定　植〉令和２年５月 13 日（定植直後パスライト１枚トンネル被覆）

3)　栽植距離　うね幅 150 ㎝、株間 50 ㎝

4)　定植株数　1,300 株/10a

5)　施肥量

	基肥 豊作太郎 (12-12-10)	追肥 くみあい燐硝安 加里 S646 (16-4-16)	合計 (kg/10a)
調査区①	250 kg/10a	30 kg/10a×3 回	44.4-33.6-39.4
調査区②	250 kg/10a	22.5 kg/10a×4 回	44.4-33.6-39.4
調査区③	250 kg/10a	30 kg/10a×3 回	44.4-33.6-39.4
調査区④	250 kg/10a	22.5 kg/10a×4 回	44.4-33.6-39.4

【追肥時期】

調査区①	定植後 70 日、以降 25 日おき	計 3 回
調査区②	定植後 70 日、以降 20 日おき	計 4 回
調査区③	定植後 60 日、以降 25 日おき	計 3 回
調査区④	定植後 60 日、以降 20 日おき	計 4 回

6)　収穫期間　令和２年６月中旬～10 月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　4 区（1 区 5 株、1 区制）

2)　供試品種　ピクシー　（横浜植木㈱）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

露地野菜の部　№5

項目：栽培技術調査
調査名：ピーマン整枝方法別収量比較調査（新規：令和２年度～令和４年度）

１目的　当地域におけるピーマン品種「ピクシー」の露地栽培において、整枝方法の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培

2)　は種及び定植月日　〈は　種〉　令和２年３月13日　〈定　植〉　令和２年５月13日（定植直後パスライト１枚トンネル被覆）

3)　整枝方法　①第２分枝を主枝４本に整枝、以降側枝を適宜整枝
②第２分枝を主枝４本に整枝、以降側枝を適宜整枝、９月上旬に摘心

4)　栽植距離　うね幅150㎝、株間50㎝

5)　定植株数　1,300株/10a

6)　施肥量　N－P－K＝44.4-33.6-39.4 kg/10a
【基肥】豊作太郎(12-12-10)：250 kg/10a
【追肥】くみあい燐硝安加里S646(16-4-16)：30 kg/10a×３回

7)　収穫期間　令和２年６月中旬～10月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　２区（１区５株、１区制）

2)　供試品種　ピクシー　（横浜植木㈱）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

露地野菜の部　№6

項目：栽培技術調査
調査名：にんにくの種子植付時期比較調査（継続：平成 31 年度～令和 2 年度）

１目的　植付時期の違いが収量・品質に及ぼす影響について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場（新規ほ場）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　マルチ栽培（コーテーコンビ・グリーン）

2)　植付年月日　①令和元年 9 月 17 日
②令和元年 9 月 27 日
③令和元年 10 月 7 日

3)　栽植距離及び植付片数　うね幅 150 cm、株間 15 cm、条間 25 cm、4 条植え
17,778 片/10a

4)　施肥量　N-P-K＝29.4-45.6-20.9kg/10a
【基肥】BB にんにく一徹（15-18-10）：170kg/10a
豚ぷん堆肥（ナチュラルパワー）（2.6-6.0-2.6）：150 kg/10a、
パワーリン（P:30%）：20kg/10a、
マググリーン（Mg:25%）：30kg/10a

5)　収穫月日　令和 2 年 6 月下旬、7 月上旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　6 区（1 区 50 株、1 区制）

2)　供試品種　<1>白玉王①
<2>白玉王②
<3>白玉王③
<4>畑園系①
<5>畑園系②
<6>畑園系③
（種子重量 12.1～16.0g）

(4)　調査項目　生育、収量、品質

3-3 調査計画（花き）

花きの部　No.1

項　目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(7～8 月出荷)（新規：令和 2 年度～令和 3 年度）

１目的　収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、7～8 月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 10 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培

2)　は種年月日　令和 2 年 2 月 28 日

3)　定植年月日　令和 2 年 4 月 17 日

4)　栽植距離　ベッド幅 60 cm、株間 10 cm、条間 10cm、4 条植え(中 2 条抜き)

5)　定植株数　2,720 本/棟

6)　施肥量　基肥 N-P-K-Mg=1.56-0.13-2.15-0.26 kg/a
追肥 N-P-K=0.50-0.30-0.50 kg/a　※生育状況による
（基肥）アルガ 215（12-1-5-2）：13.0 kg/a
硫酸加里（K:50）：3.0 kg/a

7)　使用資材　（追肥）資材は生育状況を踏まえ検討する

8)　収穫時期　白黒ダブルマルチ、10cm×6 目フラワーネット
令和 2 年 7 月下旬～8 月中旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　13 区（1 区 10 株、1 区制）

2)　供試品種

No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>	ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	白	㈱サカタのタネ
<2>	ﾎﾞﾔｰｼﾞｭﾏｽｶｯﾄ	中生	大	緑	㈱サカタのタネ
<3>	ｼﾞｭﾘｱｽﾌﾞﾙｰ	中生	大	濃紫	カネコ種苗㈱
<4>	ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ	中生	中大	黄	カネコ種苗㈱
<5>	ﾓｱﾅﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	中生	中大	薄桃	㈱ミヨシ
<6>	ﾁｭｰﾙﾋﾟﾝｸ	中生	中大	桃	㈱ミヨシ
<7>	ｾﾚﾌﾞｸｲｰﾝ	中生	大	薄桃	住化農業資材㈱
<8>	ｾﾚﾌﾞｶﾚﾝ	中生	大	薄桃	住化農業資材㈱
<9>	ｱﾓｰﾚﾎﾜｲﾄ 18	中生	大	白	タキイ種苗㈱
<10>	ｿﾛﾌﾞﾙｰﾋﾟｺﾃｨ PF	中晩生	小	白紫	㈱サカタのタネ
<11>	ｸﾞﾗﾝﾊﾋﾟﾈｽ	中晩生	大	白	㈱ミヨシ
<12>	ﾏﾝﾊｯﾀﾝ	中晩生	中小	濃紫	タキイ種苗㈱
<13>	ﾐﾝｸﾙｰｼﾞｭ	中晩生	中小	白桃	タキイ種苗㈱

(4)　調査項目　開花、切花

花きの部　No.2

項　目：品種比較調査

調査名：トルコギキョウの品種比較調査(9月出荷)（新規：令和2年度～令和3年度）

１目的　収益性を見込める花き品目として有望なトルコギキョウについて、9月出荷栽培における品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　ガラス温室8号（165㎡：約50坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培
2)　は種年月日　令和2年3月26日
3)　定植年月日　令和2年6月上旬
4)　栽植距離　ベッド幅60㎝、株間10㎝、条間10cm、4条植え(中2条抜き)
5)　定植株数　4,160本/棟
6)　施肥量　基肥N-P-K=1.50-1.00-1.50 kg/a
追肥N-P-K=0.50-0.30-0.50 kg/a　※生育状況による
（基肥）資材は土壌分析結果を踏まえ検討する
（追肥）資材は生育状況を踏まえ検討する
7)　使用資材　白黒ダブルマルチ、10cm×6目フラワーネット
8)　遮光　メガクール（期間は生育状況及び天候を踏まえ検討する）
9)　収穫時期　令和2年9月上旬～9月中旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　12区（1区10株、1区制）
2)　供試品種

No.	品種名	早晩性	花径	色	会社名
<1>	ﾏｷｱﾎﾜｲﾄ	中生	中大	白	㈱サカタのタネ
<2>	ﾙｶｺﾞｰﾙﾄﾞ	中生	中大	黄	カネコ種苗㈱
<3>	ｾﾚﾌﾞﾘｯﾁﾎﾜｲﾄ	中生	大	白	住化農業資材㈱
<4>	ﾓｱﾅﾗｲﾄﾋﾟﾝｸ	中生	中大	薄桃	㈱ミヨシ
<5>	ｸﾞﾗﾝﾊﾋﾟﾈｽ	中晩生	大	白	㈱ミヨシ
<6>	ﾊﾋﾟﾈｽﾎﾜｲﾄ	中晩生	中大	白	㈱ミヨシ
<7>	ﾊﾟﾃｨｵﾌﾞﾙｰﾋﾟｺﾃｨ	中晩生	中	白紫	住化農業資材㈱
<8>	ﾏﾝﾊｯﾀﾝ	中晩生	中	紫	タキイ種苗㈱
<9>	ﾐﾝｸﾙｰｼﾞｭ	中晩生	中	白桃	タキイ種苗㈱
<10>	ｾﾐﾌｧｲﾅﾙﾛｰｽﾞ	中晩生	大	桃	タキイ種苗㈱
<11>	PF ﾀﾞﾌﾞﾙﾀｲﾌﾟｽﾉｰ	晩生	中	白	㈱サカタのタネ
<12>	ﾗﾙｺﾞﾏﾘﾝ	晩生	中大	白紫	㈱ミヨシ

(4)　調査項目　開花、切花

花きの部　No.3

項　目：品種比較調査

調査名：カンパニュラの赤色 LED 電照栽培技術調査（新規：令和 2 年度～令和 4 年度）

１目的　カンパニュラの赤色 LED 電照処理により開花促進が可能とされていることから、当地域における実用性について調査し、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 9 号（99 ㎡：約 30 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培

2)　は種年月日　令和元年 9 月 27 日

3)　定植年月日　令和元年 11 月 8 日

4)　仕立て法　令和元年 12 月 20 日に摘心　※株張り 20cm 程度を目安

5)　栽植距離　ベッド幅 60 cm、株間 20 cm、条間 40cm、2 条植え（中 1 条抜き）

6)　定植株数　620 株/棟

7)　施肥量　N-P-K=1.00-0.99-1.60 kg/a
（基肥）ビオン 068（10-6-8）：10.0 kg/a
パワーリン（P:30）：1.3 kg/a
硫酸加里（K:50）：1.6 kg/a

8)　使用資材　バイオ 21、黒マルチ、赤色 LED ライト（620nm～630nm）
20cm×3 目フラワーネット

9)　電照期間　調査区①　無電照
調査区②　令和元年 11 月 8 日～収穫期まで
22:00～2:00（暗期中断）

10)　収穫時期　令和 2 年 4 月 24 日～5 月下旬

11)　保温　内カーテン（令和元年 11 月 8 日～令和 2 年 4 月 30 日）
パスライトトンネル（令和元年 12 月 9 日～令和 2 年 3 月 10 日）

(3)　調査区の構成

1)　調査区　8　区（1 区 5 株、1 区制）

2)　供試品種

No.　品種名	花色	会社名
〈1〉チャイムホワイト	白	㈱サカタのタネ
〈2〉チャンピオンスカイブルー	淡青	㈱サカタのタネ
〈3〉チャンピオンピンク	桃	㈱サカタのタネ
〈4〉チャンピオンホワイト	白	㈱サカタのタネ

(4)　調査項目　開花、切花

花きの部　No.4

項　目：品種比較調査

調査名：ディスバッドマムの品種比較調査(8 月出荷)（継続：平成 31 年度～令和 2 年度）

１目的　今後、当地域の有望花き品目として期待されるディスバッドマムについて、8 月出荷作型における栽培技術及び品種比較調査を行い、栽培上の資料とする。

２調査方法

(1)　調査場所　パイプハウス 11 号（99 ㎡：約 40 坪）

(2)　耕種概要

1)　栽培方法　土耕栽培

2)　定植年月日　令和 2 年 5 月 11 日（直挿し）

3)　栽植距離　ベッド幅 80 ㎝、株間 10 ㎝、条間 10cm、6 条植え（中 2 条抜き）

4)　定植株数　3,600 本/棟

5)　わい化剤処理　ビーナイン顆粒水溶剤を散布
※濃度及び散布回数は生育状況による

6)　施肥量　N-P-K-Mg=1.56-0.13-4.50-0.80 kg/a
（基肥）アルガ 215（12-1-5-2）：13.0 kg/a
硫酸加里（K:50）：9.0 kg/a
ハイクド（Mg:40）：2.0 kg/a

7)　使用資材　10cm×8 目フラワーネット、黒マルチ

8)　電照期間　令和 2 年 5 月 11 日～6 月中旬まで　22:00～3:00（暗期中断）

9)　シェード管理　令和 2 年 6 月中旬～採花まで　18:00～7:00（11 時間日長）

10)　収穫時期　令和 2 年 8 月上中旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　13 区（1 区 10 株、1 区制）

2)　供試品種

No.	品種名	花色	会社名
<1>	ｼｬﾝﾃｲ	赤	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<2>	ｱﾋﾞｰ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<3>	ﾊﾞｳﾞｪｰﾉﾀﾞｰｸ	桃	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<4>	ｱﾋﾞｰｲｴﾛｰ	黄	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<5>	ﾏｸﾞﾅﾑｲｴﾛｰ	黄	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<6>	ｾﾘｶ	白	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<7>	ｼﾍﾞﾘｱ	白	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<8>	ﾊﾞｳﾞｪｰﾉﾎﾜｲﾄ	白	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<9>	ﾌﾞﾗｲﾄﾞ	白	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<10>	ﾏｸﾞﾅﾑ	白	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<11>	ﾚｳﾞｧｰﾅ	黄	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<12>	ﾍﾞﾙｰｶﾞﾗｲﾑ	緑	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ
<13>	ﾊﾞｲﾀﾘﾃｨ	橙	㈱ﾃﾞﾘﾌﾛｰﾙｼﾞｬﾊﾟﾝ

(4)　調査項目　開花、切花

3-4 調査計画（耕畜連携推進事業パートナー制度）

調査名：ながいも栽培における堆肥の施用効果の検討

１目的　「発酵鶏糞堆肥」の適正な施用について調査・研究し、家畜排泄物を利用した堆肥、肥料の利用を促進するとともに循環型農業の普及を図る。

２調査方法

(1)　調査場所　露地ほ場

(2)　耕種概要

1)　植付月日　令和２年５月下旬

2)　栽植距離　うね幅 120 ㎝、株間 21 ㎝

3)　植付本数　3,968 本/10a

4)　施肥量　調査区①

N-P-K=25.0-33.3-22.5kg/10a

【基肥】発酵鶏糞堆肥(2.73-4.98-3.05)：475kg/10a

パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：80kg/10a

調査区②

N-P-K=24.9-33.4-16.6kg/10a

【基肥】パワーアップながいも(15.0-12.0-10.0)：166kg/10a

パワーリン(P:30%)：45kg/10a

調査区	資材	施肥量 (kg/10a)	成分量 (kg/10a) N	P	K
①	発酵鶏糞堆肥	475	13.0	23.7	14.5
	パワーアップながいも	80	12.0	9.6	8.0
②	パワーアップながいも	166	24.9	19.9	16.6
	パワーリン	45	0.0	13.5	0.0

5)　収穫月日　令和２年 11 月下旬

(3)　調査区の構成

1)　調査区　４区（１区 6.3m（30 本）、１区制）

2)　供試品種　〈1〉園試系６（切片子）：80～100g

〈2〉庄司系（切片子）：80～100g

(4)　調査項目　生育、収量、品質

3 - 5　土壌分析

1　目的

農業者及び農業団体から依頼された土壌を分析し、土壌改良の資料とする。

また、当市において、産地形成されている地域のモデルとなる地点を定点観測地点に設定し、土壌分析を行ない、土壌改良の資料とする。

2　分析項目

1)　pH（H_2O・KCl）
2)　EC（電気伝導度）
3)　硝酸態窒素
4)　有効態リン酸
5)　リン酸吸収係数
6)　CEC（塩基置換容量）
7)　置換性カルシウム
8)　置換性マグネシウム
9)　置換性カリウム
10)　水分

3　定点観測地点の概要

地 区 名	地点数		対　象　作　物	
市川地区	25	21	いちご	施設
		2	ミニトマト	
		2	花き	
下長地区	4	1	いちご	施設
		2	トマト・ミニトマト	
		1	花き	
上長地区	3	1	ながいも	露地
		1	ピーマン	
		1	食用菊	
豊崎地区	2	1	にんにく	露地
		1	ながいも	
館 地 区	8		ミニトマト	施設
是川地区	26	1	いちご	施設
		2	トマト・ミニトマト	
		4	きゅうり	
		1	花き	
		7	ながいも	露地
		6	夏ねぎ	
		5	秋ねぎ	
旧市内地区	1		きゅうり	施設
南郷地区	4	1	トマト	施設
		1	きゅうり	
		2	そば	露地

施設野菜（いちご）：23 地点
施設野菜（トマト・ミニトマト・きゅうり）：21 地点
花き：4 点
露地野菜（にんにく・ながいも・ねぎ等）：25 地点　　合計　73 地点

3 - 6　植物組織培養

1　優良種苗の増殖計画

1)　いちご・・・・・・・(11 品種)

2)　奥州菊・・・・・・・(5 品種)

3 - 7　市民農園設置事業

1　目的

自然環境の中での市民が家庭ぐるみによる農業体験を通じて、農業知識の向上並びに農業に対する理解を深めてもらうために実施する。

2　場所

八戸市農業経営振興センター内

3　期間

令和 2 年 4 月 19 日～11 月 23 日

4　面積及び募集区画数

1 区画（33 ㎡）：280 区画

5　対象

八戸市民（1 世帯で最大 3 区画まで利用可能）

6　使用料

1 区画（33 ㎡）：2,610 円

7　主要施設

・休憩所（1 箇所）　・トイレ（2 基）　・電話（1 台）
・農業用水道（6 箇所）　・駐車場（1 箇所：1,000 ㎡）

3 - 8　農業体験学習

1　目的

小学生等の食育の一環として、農作物を育て、収穫する喜びを体験し、農業及び食に対する理解を深めてもらうため、農業体験の場を提供する。

2　計画

事業名	目的	内容	対象
農業体験学習	食育の一環として、農作物を育て収穫する喜びを体験し、農業及び食に対する理解を深める。	・農作物（さつまいも、だいこん等）の植付け、は種及び収穫 ・八戸市の農業に関する座学及び農業経営振興センターの施設見学 ・農業経営振興センター職員が、園（校）内にて栽培等の指導を行う農業体験出前講座　等	市内幼稚園、保育園、小学校、中学校等

【ガラス温室】

	作物名	調査区分	～H31	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1号	いちご （高設・夏秋）	展示栽培							●定植6上	■収穫7中					□収穫12下
2号	共通育苗	－													
3号	－	－													
4号	－	－													
5号	トマト （促成）	品種比較	▲は種12/26		●定植2/27		■収穫5/8			□収穫7下					
	トマト （抑制）	品種比較							▲は種6上	●定植6下	■収穫8下			□収穫11下	
6号	トマト （夏秋）	品種比較			▲は種2/28		●定植4/14		■収穫6上				□収穫10下		
7号	－	－													
8号	トルコギキョウ （抑制）	品種比較				▲は種3/26			●定植6上			■収穫9上中			

【パイプハウス】

	作物名	調査区分	～H31	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1号	ミニトマト（促成）	品種比較	▲は種12-26		●定植2/26		■収穫4下		□収穫7下						
	ミニトマト（抑制）	品種比較						▲は種6上	●定植6下	■収穫8下			□収穫11下		
2号	ミニトマト（夏秋）	品種比較			▲は種2/28		●定植4/14	■収穫6上					□収穫10下		
3号	花き育苗	―													
4号	いちご（促成）	品種比較							□収穫～6中		●定植8下		■収穫11下～		
5号	いちご（促成）	品種特性							□収穫～6中		●定植8下		■収穫11下～		
6号	いちご（半促成）	展示栽培				■収穫3/16			□収穫6中						
	メロン（抑制）	展示栽培							▲は種6下	●定植7中			■収穫10上中		
	こまつな	品種比較												▲は種11下	
7号	メロン（半促成）	展示栽培				▲は種3/11	●定植4/17			■収穫7下					
	いちご（半促成）	展示栽培									●定植8下				
8号	トルコギキョウ（越冬）	展示栽培								■収穫7上中					
	ほうれん草（寒締め）	展示栽培										▲は種9下			■収穫12下

【パイプハウス】

	作物名	調査区分	～H31	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
9号	カンパニュラ	栽培技術	■ 収穫4/24					□ 5下							
10号	トルコギキョウ	品種比較			▲ は種2/28		● 定植4/17			■ 収穫7下	■ □ 収穫8中				
	切花ハボタン	展示栽培									▲ は種8上	● 定植8下			■ 収穫12中
11号	ディスバッドマム	品種比較						● 定植5/11			■ 収穫8上中				
	ストック	展示栽培									▲ は種8上	● 定植8下			■ 収穫12中
12号	いちご（夏秋）	品種比較							● 定植6上	■ 収穫7中					□ 収穫12下
13号	いちご（親株）	―						■	□ 採苗5/中～7上			● 植付9中			
14号	―	―													
15号	デルフィニウム	展示栽培				■ は種3/5	● 定植4/28				■ 収穫8上～9上	□			
16号	いちご（半促成）	展示栽培					■ 収穫3/23		□ 収穫6中						

【露地野菜】

作物名	調査区分	～H31	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ねぎ	品種比較 栽培技術	▲ は種1/6			● 定植3/26	■ 収穫7下								
						▲ は種4/1	● 定植5/11	■ 収穫9中						
							▲ は種5/12	● 定植6中	■ 収穫10下					
ピーマン	品種比較 栽培技術			▲ は種2/13		● 定植4/21	■ 収穫6中	□ 収穫10下						
					▲ は種3/13		● 定植5/13	■ 収穫6下	□ 収穫10下					
ながいも	耕畜連携						● 植付5下	■ 収穫11下						
にんにく	栽培技術	● 植付9/17,9/27,10/7						■ 収穫6下,7上	■			● 植付10上		
糠塚きゅうり	展示栽培					▲ は種4下	● 定植5下	■ 収穫6中	□ 収穫8中					
食用菊	展示栽培							● 植付6中	■ 収穫9中	□ 収穫11上				

【露地花き】

作物名	調査区分	～H31	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アスター	展示栽培	▲ は種4/3	● 定植4/30	━━━	━━━	━━━	━━━	━━━	━━━	■ 収穫8上				
葉牡丹	展示栽培								▲ は種7中	● 定植8上	━━━	■ 収穫10上		
スノーボール	展示栽培						■ 収穫5/8～							
スモークツリー	展示栽培							■ 収穫6中						
ヒペリカム	展示栽培								■ 収穫7下					
姫ヒマワリ	展示栽培								■ 収穫7下					
ソリダコ	展示栽培									■ 収穫8上				
ソリダスター	展示栽培									■ 収穫8上				

発行：八戸市農業経営振興センター（令和２年４月）

〒番号	039-1101
住　所	青森県八戸市大字尻内町字毛合清水 29
電　話	0178-27-9163
ＦＡＸ	0178-27-9166
E-mail	nokei@city.hachinohe.aomori.jp